

で「第一・五分位」は 54.68%、「第五・五分位」は 48.33%、「第二・五分位」は 47.86%、「第四・五分位」は 38.89%となっている。

図表 3-69 世帯所得別一層充実してほしい子育て支援関連サービスや助成制度（％）

	乳幼児一時預かり事業・一時保育・みなと保育サポート事業（スポット利用）	派遣型一時保育事業・育児サポート子むすび（ファミリー・サポート・センター事業）	乳幼児等ショートステイ事業	トワイライトステイ事業	子育てひろば事業（乳幼児とその保護者が対象）	保育園であそぼう	子育てコーディネーター事業	出産・子育て応援メール配信								
第一・五分位（n=139）		43.17		23.02		18.71		11.51	15.83		10.79		12.23	9.35		
第二・五分位（n=140）		45.71		25.00		19.29		10.71	14.29		6.43		8.57	3.57		
第三・五分位（n=179）		50.28		32.40		23.46		16.76	17.32		10.61		8.38	7.82		
第四・五分位（n=144）		54.86		27.08		20.14		6.25	12.50		6.25		9.03	4.86		
第五・五分位（n=120）		58.33		32.50		22.50		11.67	15.83		9.17		7.50	6.67		
全体（n=722）		50.28		28.12		20.91		11.63	15.24		8.73		9.14	6.51		
	みなと母子手帳アプリ	産後宿泊型ショートステイ	産後母子ケアデイサービス・乳房ケア事業	産前産後家事・育児支援事業	児童館、給食室、子ども中高生プラザ、児童館表交流プラザ、子どもふれあいルームの一般茶室（小学生以上が対象）		出産費用助成	コミュニティバス乗車券の発行	港区子育て応援商品券の配付							
第一・五分位（n=139）		13.67		27.34		28.06		31.65		28.06		53.24		33.81		54.68
第二・五分位（n=140）		14.29		18.57		24.29		32.14		21.43		54.29		29.29		47.86
第三・五分位（n=179）		14.53		27.93		23.46		37.43		26.26		52.51		29.61		55.87
第四・五分位（n=144）		10.42		22.92		20.14		32.64		14.58		43.06		15.28		38.89
第五・五分位（n=120）		12.50		33.33		33.33		35.83		16.67		50.00		16.67		48.33
全体（n=722）		13.16		25.90		25.48		34.07		21.75		50.69		25.35		49.45
	教育・子育てに係る経費への助成	相談先・子育てのネットワークの充実	所得制限のない助成	病児・病後児保育の充実	公共交通機関の利用に係る助成	不妊治療への助成	その他	特になし								
第一・五分位（n=139）		1.44		0.72		0.00		0.00	0.00		0.00		2.16		15.11	
第二・五分位（n=140）		2.14		0.00		0.00		0.00	0.71		0.00		0.71		15.00	
第三・五分位（n=179）		2.79		1.12		1.12		0.56	0.00		1.68		1.68		8.94	
第四・五分位（n=144）		2.08		0.00		0.00		1.39	0.00		1.39		2.78		15.97	
第五・五分位（n=120）		2.50		0.83		0.83		0.83	0.00		0.83		3.33		7.50	
全体（n=722）		2.22		0.55		0.42		0.69	0.28		0.42		2.08		12.47	

注：下線部は 5％水準の有意確率 (p. <0.05)。

6 子育ての実態

（１）子どもの年齢及び就園・就学機関

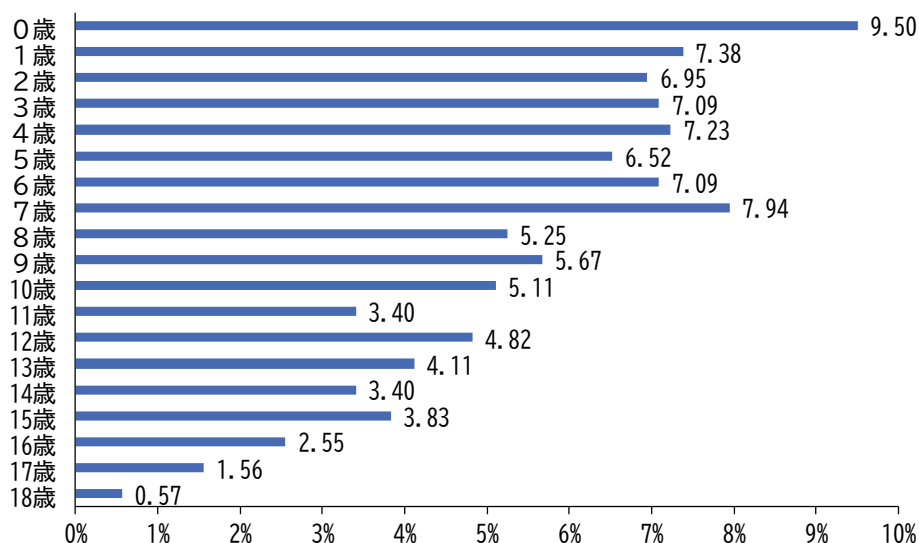
■単純集計

- ・ 0歳の子どもがいる回答者が最も多い
- ・ 未就学児は認可保育園と在宅保育の割合が高く、学齢児は区立小学校の割合が高い

図表 3-70 は、子どもの年齢の単純集計の結果である。

「0歳」の子どもが 9.50%と最大の値を示し、次いで「7歳」は 7.94%、「1歳」は 7.38%となっている。なお、本設問は 18歳以下の子どもと同居している人のみ回答対象としている。また、n は子どもの人数であり、回答者数と一致しない（就園・就学機関も同様）。

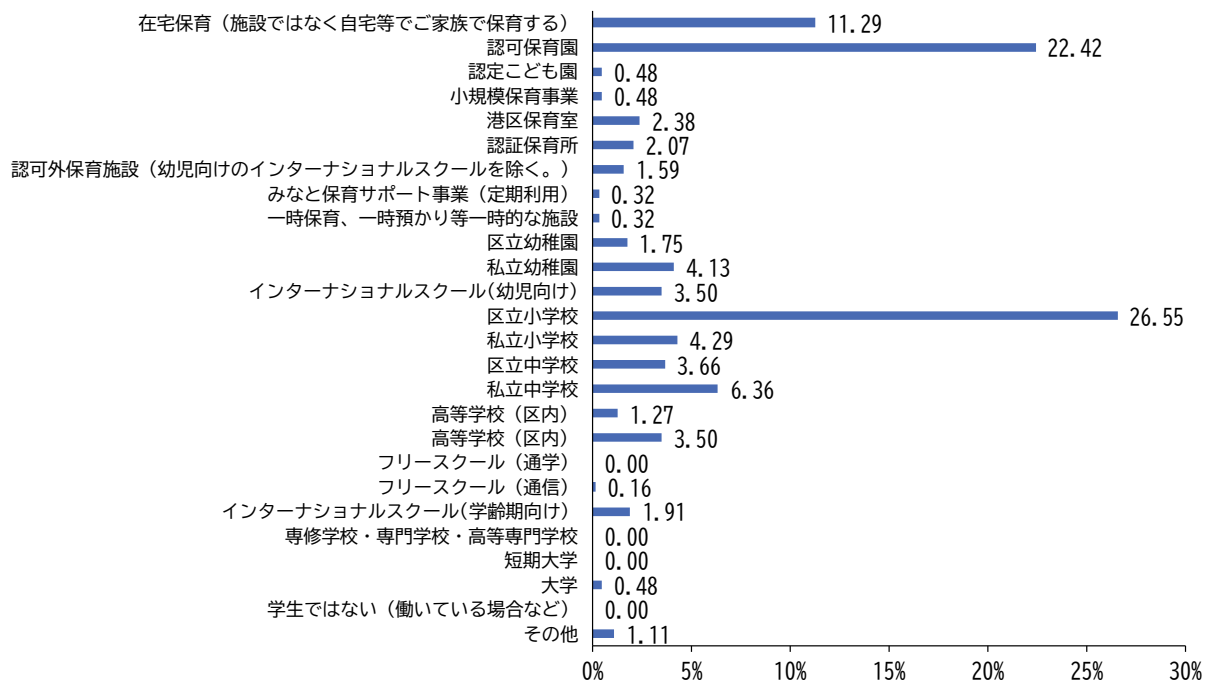
図表 3-70 子どもの年齢（n=705）（第一子～第五子のそれぞれの年齢を選択）



図表 3-71 は、子どもの就園・就学機関の単純集計の結果である。

「区立小学校」に通う子どもが 26.55%と最大の値を示し、次いで「認可保育園」は 22.42%、「在宅保育（施設ではなく自宅等でご家族で保育する）」は 11.29%となっている。

図表 3-71 就園・就学機関（n=629）（第一子～第五子それぞれについて選択）



■クロス集計 子どもの年齢

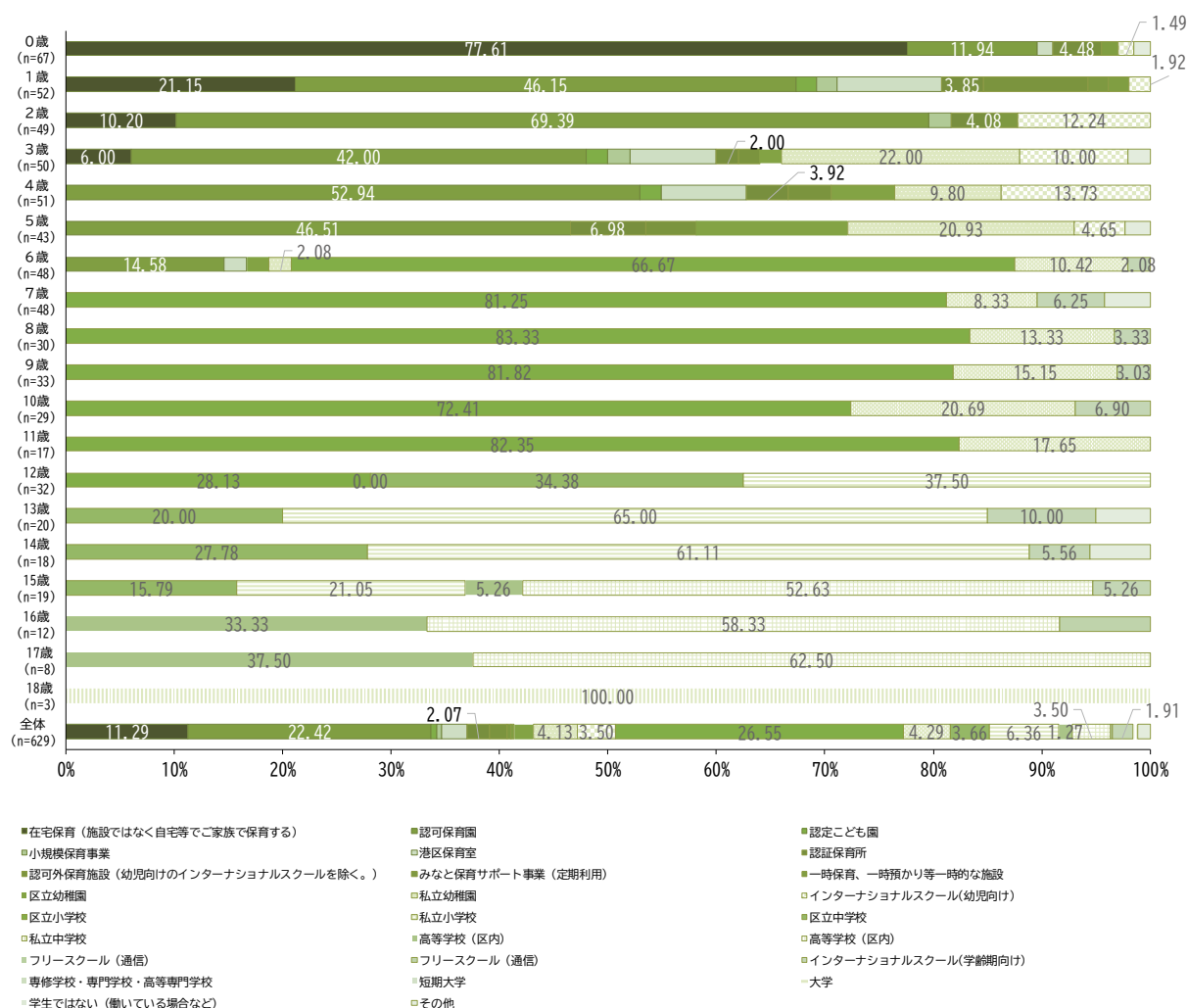
- ・ 0歳は在宅保育が約8割
- ・ 幼児向けのインターナショナルスクールに通う子どもは、2～4歳でそれぞれ約1割
- ・ 私立小学校に通う子どもは、約1～2割

図表3-72は、子どもの年齢と就園・就学機関のクロス集計の結果である。

未就学児をみると、「0歳」は「在宅保育」の割合が77.61%と最も高く、「1～5歳」は「認可保育園」の割合が高い（42.00～69.39%）。また、「インターナショナルスクール（幼児向け）」の割合は、「2～4歳」で約1割となっている（10.00～13.73%）。

また、小学生世代をみると、「区立小学校」の割合が最も高い一方で、「私立小学校」の割合も約1～2割となっている（8.33～20.69%）。

図表3-72 子どもの年齢別就園・就学機関



注：本項目では、子どもの年齢別の就園・就学機関を把握するために行ったものであるため、統計的検定は実施していない。

(2) 就学前の子どもの在宅保育の理由

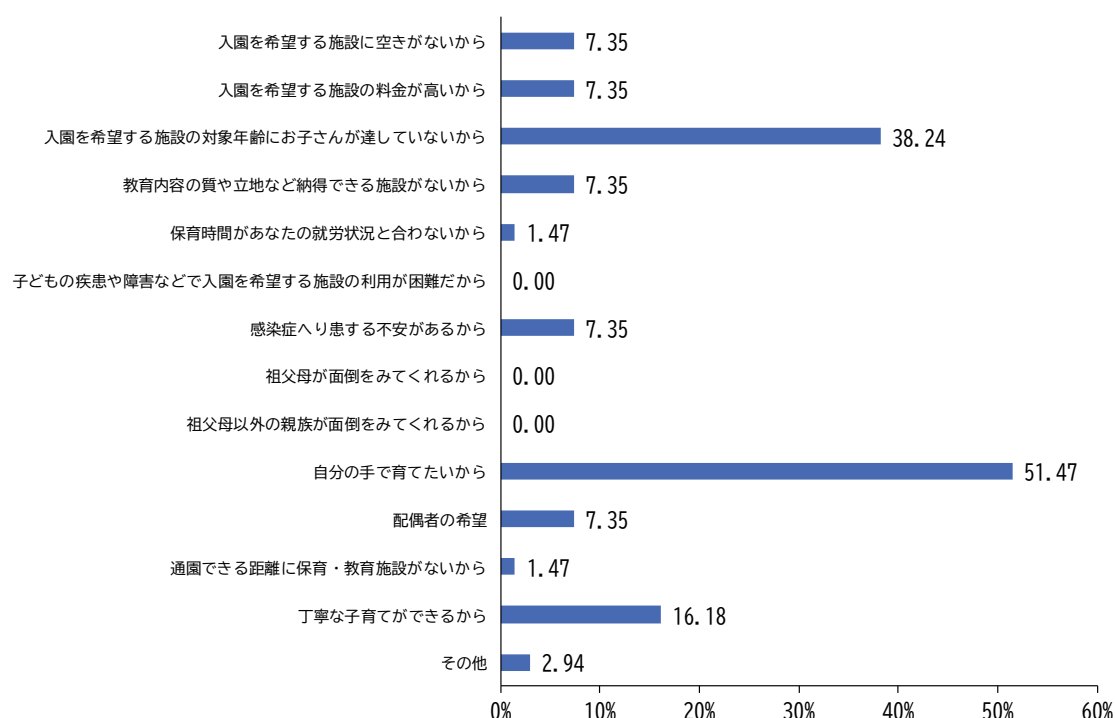
■単純集計

「自分の手で育てたいから」が約半数、「入園を希望する施設の対象年齢にお子さんが達していないから」が約4割

図表3-73は、就学前の子どもを在宅保育している理由の単純集計の結果である。本設問は、子どもの就園・就学機関の設問で、「在宅保育」を選択した人を対象とした設問である。

「自分の手で育てたいから」が51.47%と最大の値を示し、次いで「入園を希望する施設の対象年齢にお子さんが達していないから」は38.24%、「丁寧な子育てができるから」は16.18%となっている。

図表 3-73 就学前の子どもの在宅保育の理由 (n=68) (MA)



■クロス集計

「丁寧な子育てができるから」のみ、年齢別に有意な差がみられた

図表3-74は、年齢と就学前の子どもを在宅保育している理由のクロス集計の結果であり、「丁寧な子育てができるから」で有意な差が示されている。

「丁寧な子育てができるから」をみると、「45-50歳」が100.00%と最大の値を示し、次いで「35-39歳」は30.00%、「30-34歳」は13.79%、「20-29歳」と「40-44歳」は0%となっている。

図表 3-74 年齢別就学前の子どもの在宅保育の理由（％）

	入園を希望する施設に 空きがないから	入園を希望する施設の 料金が安いから	入園を希望する施設の 対象年齢にお子さんが 達していないから	教育内容の質や立地な ど納得できる施設がな いから	保育時間があなたの就 労状況と合わないから	子どもの疾患や障害な どで入園を希望する施 設の利用が困難だから	感染症へり患する不安 があるから
20-29歳(n=10)	20.00	0.00	40.00	20.00	0.00	0.00	10.00
30-34歳(n=29)	3.45	6.90	41.38	3.45	0.00	0.00	6.90
35-39歳(n=20)	5.00	10.00	40.00	0.00	5.00	0.00	5.00
40-44歳(n=8)	12.50	12.50	25.00	25.00	0.00	0.00	12.50
45-50歳(n=1)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
全体(n=68)	7.35	7.35	38.24	7.35	1.47	0.00	7.35
	祖父母が面倒をみてく れるから	祖父母以外の親族が面 倒をみてくれるから	自分の手で育てたいか ら	配偶者の希望	通園できる距離に保 育・教育施設がないか ら	丁寧な子育てができる から	その他
20-29歳(n=10)	0.00	0.00	30.00	10.00	10.00	0.00	10.00
30-34歳(n=29)	0.00	0.00	58.62	3.45	0.00	13.79	0.00
35-39歳(n=20)	0.00	0.00	50.00	5.00	0.00	30.00	5.00
40-44歳(n=8)	0.00	0.00	62.50	25.00	0.00	0.00	0.00
45-50歳(n=1)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	100.00	0.00
全体(n=68)	0.00	0.00	51.47	7.35	1.47	16.18	2.94

注：下線部は 5 % 水準の有意確率(p. <0.05)。

(3) 昨年度 1 年間に子どもの教育・保育にかかった費用

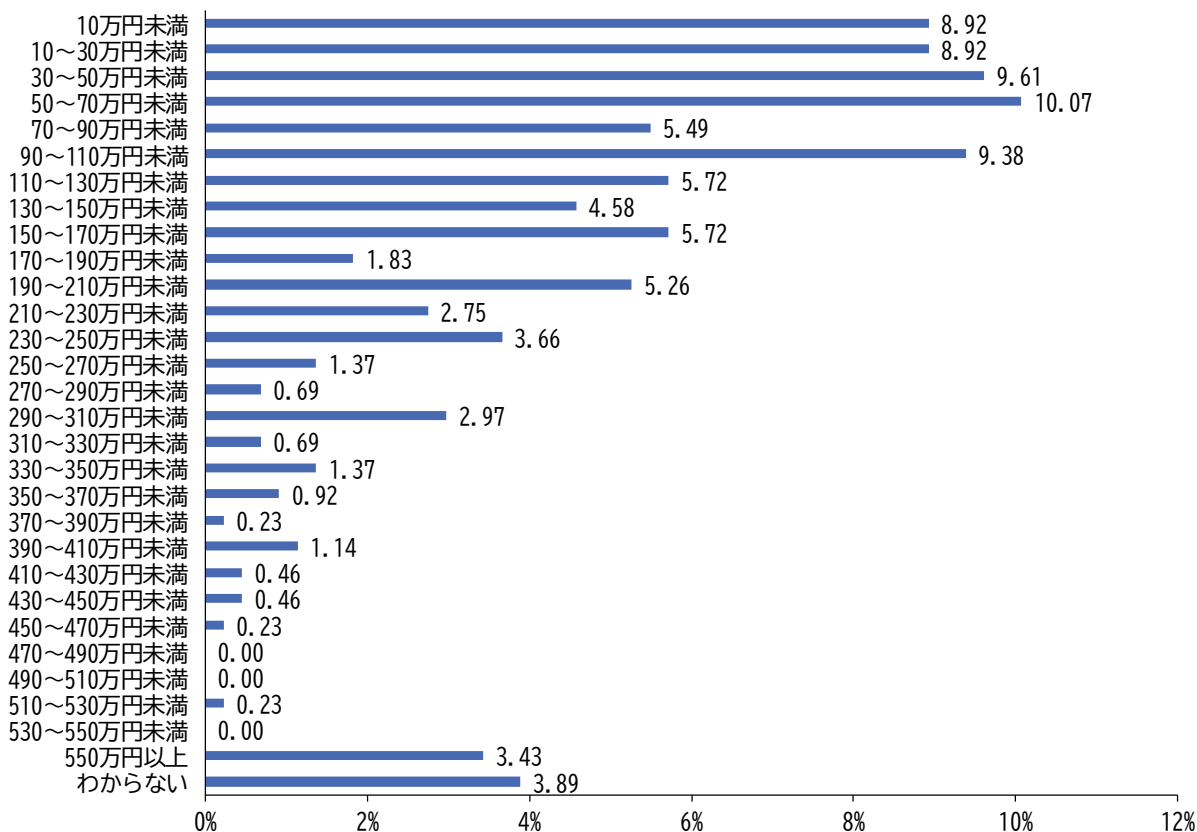
■単純集計

「50 万円未満」が約 3 割、「210 万以上」が約 2 割

図表 3-75 は、昨年度 1 年間（2022 年 4 月～ 2023 年 3 月）に 18 歳未満の子どもの教育・保育にかかった費用の単純集計の結果である。

「50 ～ 70 万円未満」が 10.07%と最大の値を示し、次いで「30 ～ 50 万円未満」は 9.61%、「90 ～ 110 万円未満」は 9.38%となっている。なお、子どもの人数を考慮した値ではないことに留意されたい。

図表 3-75 昨年度 1 年間に子どもの教育・保育にかかった費用（n=437）（SA）



■クロス集計

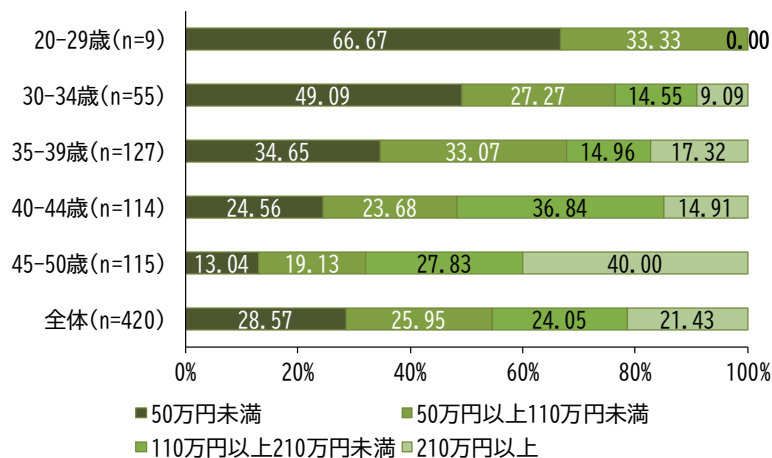
ア 年齢

年齢が高いほど、子どもの教育・保育にかかる費用が高い

図表3-76は、年齢と昨年度1年間に子どもの教育・保育にかかった費用のクロス集計の結果である。

「50万円未満」をみると、「20-29歳」が66.67%と最大の値を示し、次いで「30-34歳」は49.09%、「35-39歳」は34.65%、「40-44歳」は24.56%、「45-50歳」は13.04%となっている。

図表3-76 年齢別昨年度1年間に子どもの教育・保育にかかった費用



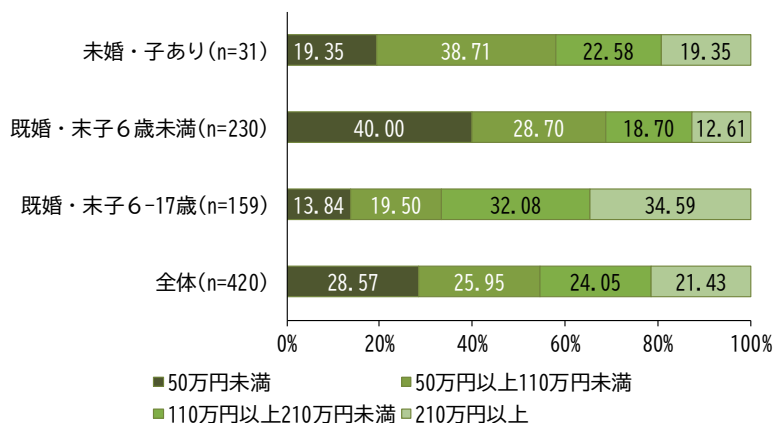
イ 世帯類型

既婚で末子が6～17歳の子どもと同居している人は、子どもの教育・保育にかかる費用が多い割合が高い

図表3-77は、世帯類型と昨年度1年間に子どもの教育・保育にかかった費用のクロス集計の結果である。

「50万円未満」をみると、「既婚・末子6歳未満」が40.00%と最大の値を示し、次いで「未婚・子あり」は19.35%、「既婚・末子6-17歳」は13.84%となっている。

図表 3-77 世帯類型別昨年度 1 年間に子どもの教育・保育にかかった費用



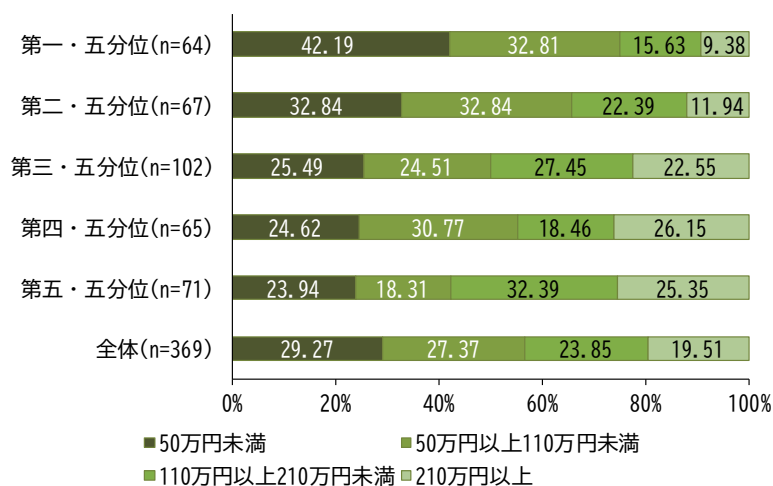
ウ 世帯所得

所得が高いほど、子どもの教育・保育にかかる費用が多い人の割合が高い

図表 3-78 は、世帯所得と昨年度 1 年間に子どもの教育・保育にかかった費用のクロス集計の結果である。

「50 万円未満」をみると「第一・五分位」が 42.19%と最大の値を示し、次いで「第二・五分位」は 32.84%、「第三・五分位」は 25.49%、「第四・五分位」は 24.62%、「第五・五分位」は 23.94%となっている。

図表 3-78 世帯所得別昨年度 1 年間に子どもの教育・保育にかかった費用



(4) 平日に小学生以下の子どもの子育てに関与している人の続柄

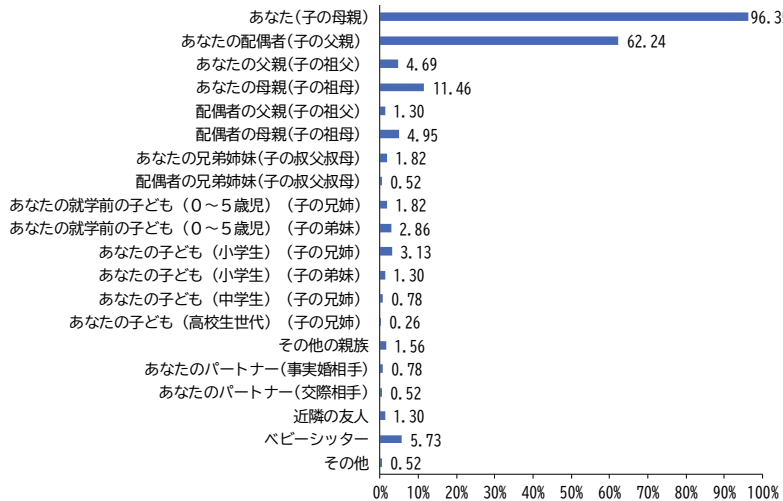
■単純集計

「あなたの配偶者（子の父親）」の関与があるのは約 6 割、「あなたの母親（子の祖母）」は約 1 割、「配偶者の母親（子の祖母）」は約 0.5 割

図表3-79は、平日に小学生以下の子どもの子育てに関与している人の続柄の単純集計の結果である。

「あなた（子の母親）」が96.35%と最大の値を示し、次いで「あなたの配偶者（子の父親）」は62.24%、「あなたの母親（子の祖母）」は11.46%となっている。

図表3-79 平日に小学生以下の子どもの子育てに関与している人の続柄（n=384）（MA）



(5) 子育てコミュニティへの参加の有無

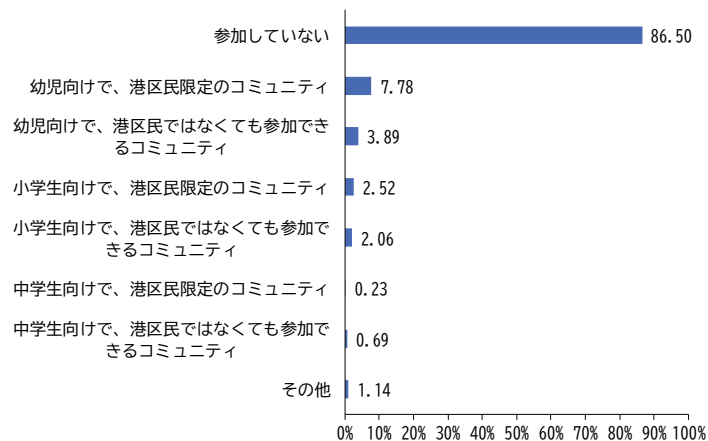
■単純集計

子育てコミュニティへ参加していない人は8割を超える

図表3-80は、子育てコミュニティへの参加の有無の単純集計の結果である。本設問は、18歳以下の子どもと同居している人を対象とした設問である。

「参加していない」が86.50%と最大の値を示し、次いで「幼児向けで、港区民限定のコミュニティ」は7.78%、「幼児向けで、港区民ではなくても参加できるコミュニティ」は3.89%となっている。

図表3-80 子育てコミュニティへの参加の有無（n=437）（MA）



(6) 子育ての不安や悩み

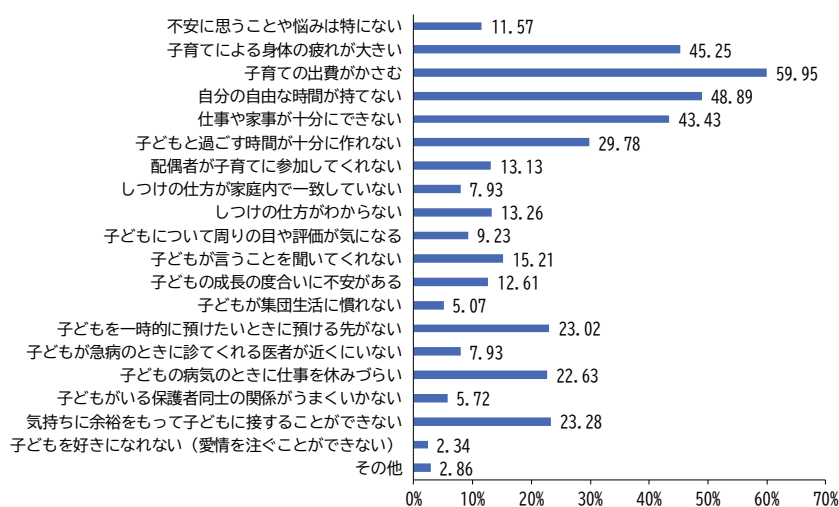
■単純集計

子育ての出費、時間の使い方、身体の疲れに関する悩みが多い

図表3-81は、子育ての不安や悩みの単純集計の結果である。本設問では、「お子さんがいらっしゃる方は、ご自身の子育てを想定した場合についてお答えください。」としており、全体の回答には子どもがいない人の回答も含まれている。

「子育ての出費がかさむ」が59.95%と最大の値を示し、次いで「自分の自由な時間が持てない」は48.89%、「子育てによる身体の疲れが大きい」は45.25%となっている。

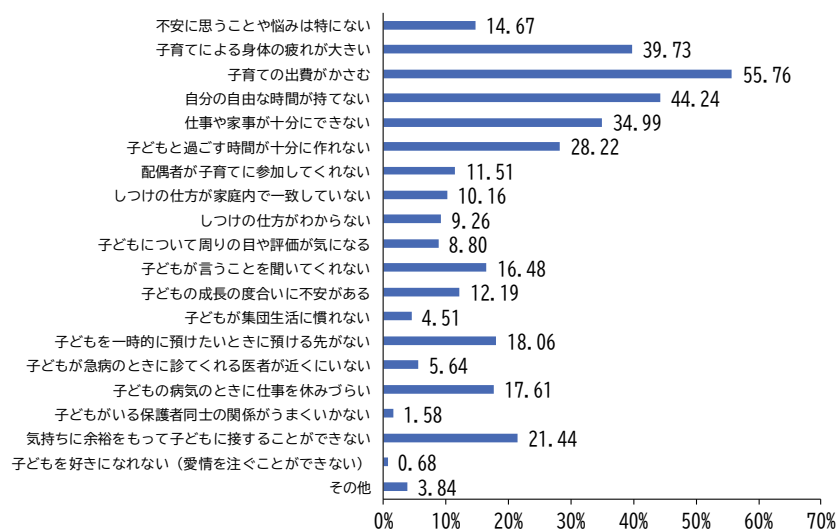
図表3-81 子育ての不安や悩み (n=769) (MA)



また、子どもと同居している人の子育ての不安や悩みを図表3-82に示した。

全体と同様に、「子育ての出費がかさむ」が55.76%と最大の値を示し、次いで「自分の自由な時間が持てない」は44.24%、「子育てによる身体の疲れが大きい」は39.73%となっている。

図表3-82 子どもと同居している人の子育ての不安や悩み (n=443) (MA)



■クロス集計

ア 年齢

- ・半数以上の項目で有意な差がみられた
- ・他の世代と比較して、20歳代では子育ての出費、保護者同士の関係性、子どもへの愛情に関する悩みの回答割合が高く、30歳代前半では、身体の疲れと時間の不足、子どもに対する評価、一時的な預け先の不十分さに関する悩みの回答割合が高い

図表3-83は、年齢と子育ての不安や悩みのクロス集計の結果であり、「不安に思うことや悩みは特にない」「子育てによる身体の疲れが大きい」「子育ての出費がかさむ」「自分の自由な時間が持てない」「仕事や家事が十分にできない」「しつけの仕方がわからない」「子どもについて周りの目や評価が気になる」「子どもが言うことを聞いてくれない」「子どもが集団生活に慣れない」「子どもを一時的に預けたいときに預ける先がない」「子どもがいる保護者同士の関係がうまくいかない」「子どもを好きになれない（愛情を注ぐことができない）」で有意な差が示されている。

「不安に思うことや悩みは特にない」をみると、「45-50歳」が21.43%と最大の値を示し、次いで「20-29歳」は10.61%、「35-39歳」は9.89%、「40-44歳」は8.75%、「30-34歳」は7.09%となっている。

「子育てによる身体の疲れが大きい」をみると、「30-34歳」が56.03%と最大の値を示し、次いで「35-39歳」は54.40%、「20-29歳」は44.70%、「40-44歳」は41.88%、「45-50歳」は28.57%となっている。

「子育ての出費がかさむ」をみると、「20-29歳」が71.21%と最大の値を示し、次いで「30-34歳」は62.41%、「35-39歳」は58.24%、「40-44歳」は56.25%、「45-50歳」は53.90%となっている。

「自分の自由な時間が持てない」をみると、「30-34歳」が63.12%と最大の値を示し、次いで「35-39歳」は54.40%、「20-29歳」は53.03%、「40-44歳」は41.25%、「45-50歳」は33.77%となっている。

「仕事や家事が十分にできない」をみると、「30-34歳」が55.32%と最大の値を示し、次いで「20-29歳」は50.76%、「35-39歳」は46.15%、「40-44歳」は39.38%、「45-50歳」は27.27%となっている。

「しつけの仕方がわからない」をみると、「20-29歳」が18.18%と最大の値を示し、次いで「35-39歳」は16.48%、「30-34歳」は16.31%、「40-44歳」は10.00%、「45-50歳」は5.84%となっている。

「子どもについて周りの目や評価が気になる」をみると、「30-34歳」が14.18%と最大の値を示し、次いで「35-39歳」は10.99%、「20-29歳」は9.85%、「40-44歳」は6.88%、「45-50歳」は4.55%となっている。

「子どもが言うことを聞いてくれない」をみると、「35-39歳」が22.53%と最大の値を示し、次いで「45-50歳」は14.29%、「30-34歳」は14.18%、「40-44歳」は11.88%、「20-29歳」は11.36%となっている。

「子どもが集団生活に慣れない」をみると、「20-29歳」が7.58%と最大の値を示し、次いで「35-39歳」は7.14%、「45-50歳」は5.84%、「40-44歳」は3.75%、「30-34歳」は0.71%となっている。

「子どもを一時的に預けたいときに預ける先がない」をみると、「30-34歳」が28.37%と最大の値を示し、次いで「35-39歳」は25.82%、「20-29歳」は24.24%、「40-44歳」は22.50%、「45-50歳」は14.29%となっている。

「子どもがいる保護者同士の関係がうまくいかない」をみると、「20-29歳」が12.88%と最大の値を示し、次いで「35-39歳」は7.14%、「30-34歳」は6.38%、「40-44歳」は1.88%、「45-50歳」は1.30%となっている。

「子どもを好きになれない（愛情を注ぐことができない）」をみると、「20-29歳」が6.06%と最大の値を示し、次いで「40-44歳」は2.50%、「30-34歳」は2.13%、「35-39歳」は1.10%、「45-50歳」は0.71%となっている。

歳」は0.65%となっている。

図表 3-83 年齢別子育ての不安や悩み（％）

	不安に思うことや 悩みは特にない	子育てによる身体 の疲れが大きい	子育ての出費がか さむ	自分の自由な時間 が持てない	仕事や家事が十分 にできない	子どもと過ごす時 間が十分に作れな い	配偶者が子育てに 参加してくれない							
20-29歳(n=132)		10.61		44.70		71.21		53.03		50.76		31.82		11.36
30-34歳(n=141)		7.09		56.03		62.41		63.12		55.32		25.53		14.18
35-39歳(n=182)		9.89		54.40		58.24		54.40		46.15		34.62		13.74
40-44歳(n=160)		8.75		41.88		56.25		41.25		39.38		31.25		16.88
45-50歳(n=154)		21.43		28.57		53.90		33.77		27.27		24.68		9.09
全体(n=769)		11.57		45.25		59.95		48.89		43.43		29.78		13.13
	しつけの仕方が家 庭内で一致してい ない	しつけの仕方がわ からない	子どもについて周 りの目や評価が気 になる	子どもが言うこと を聞いてくれない	子どもの成長の度 合いに不安がある	子どもが集団生活 に慣れない	子どもを一時的に 預けたいときに預 ける先がない							
20-29歳(n=132)		3.79		18.18		9.85		11.36		13.64		7.58		24.24
30-34歳(n=141)		9.22		16.31		14.18		14.18		10.64		0.71		28.37
35-39歳(n=182)		9.34		16.48		10.99		22.53		15.93		7.14		25.82
40-44歳(n=160)		9.38		10.00		6.88		11.88		11.25		3.75		22.50
45-50歳(n=154)		7.14		5.84		4.55		14.29		11.04		5.84		14.29
全体(n=769)		7.93		13.26		9.23		15.21		12.61		5.07		23.02
	子どもが急病のとき に診てくれる医 者が近くにいない	子どもの病気のとき に仕事を休みづ らい	子どもがいる保護 者同士の関係がう まくいかなない	気持ちに余裕をもっ て子どもに接するこ とができない	子どもを好きになれ ない（愛情を注ぐこ とができない）	その他								
20-29歳(n=132)		8.33		26.52		12.88		27.27		6.06		2.27		
30-34歳(n=141)		9.22		26.24		6.38		22.70		2.13		2.13		
35-39歳(n=182)		8.79		24.73		7.14		28.02		1.10		2.20		
40-44歳(n=160)		6.25		18.75		1.88		22.50		2.50		5.63		
45-50歳(n=154)		7.14		17.53		1.30		15.58		0.65		1.95		
全体(n=769)		7.93		22.63		5.72		23.28		2.34		2.86		

注：下線部は5％水準の有意確率(p.<0.05)。

イ 世帯類型

- ・半数以上の項目で有意な差がみられた
- ・有意な差がみられた悩みや不安の多くは、未婚・既婚を問わず、子どもと同居していない人で該当する割合が高い

図表 3-84 は、世帯類型と子育ての不安や悩みのクロス集計の結果であり、「不安に思うことや悩みは特にない」「子育てによる身体への疲れが大きい」「子育ての出費がかさむ」「自分の自由な時間が持てない」「仕事や家事が十分にできない」「子どもと過ごす時間が十分に作れない」「しつけの仕方が家庭内で一致していない」「しつけの仕方がわからない」「子どもを一時的に預けたいときに預ける先がない」「子どもが急病のときに診てくれる医者が近くにいない」「子どもの病気のときに仕事を休みづらい」「子どもがいる保護者同士の関係がうまくいかなない」「子どもを好きになれない（愛情を注ぐことができない）」で有意な差が示されている。

「不安に思うことや悩みは特にない」をみると、「既婚・末子6-17歳」が18.52%と最大の値を示し、次いで「未婚・子あり」は12.50%、「既婚・末子6歳未満」は11.52%、「未婚・子なし」は9.00%、「既婚・子なし」は4.35%となっている。

「子育てによる身体への疲れが大きい」をみると、「既婚・子なし」が60.00%と最大の値を示し、次いで「既婚・末子6歳未満」は49.79%、「未婚・子なし」は48.82%、「未婚・子あり」は34.38%、「既婚・末子6-17歳」は26.54%となっている。

「子育ての出費がかさむ」をみると、「未婚・子あり」が75.00%と最大の値を示し、次いで「未婚・子なし」は68.72%、「既婚・子なし」は60.00%、「既婚・末子6-17歳」は55.56%、「既婚・

末子6歳未満」は53.50%となっている。

「自分の自由な時間が持てない」をみると、「未婚・子なし」が55.92%と最大の値を示し、次いで「既婚・末子6歳未満」は54.32%、「既婚・子なし」は53.91%、「未婚・子あり」は37.50%、「既婚・末子6-17歳」は31.48%となっている。

「仕事や家事が十分にできない」をみると、「既婚・子なし」が60.00%と最大の値を示し、次いで「未婚・子なし」は52.13%、「未婚・子あり」は43.75%、「既婚・末子6歳未満」は43.21%、「既婚・末子6-17歳」は21.60%となっている。

「子どもと過ごす時間が十分に作れない」をみると、「未婚・子あり」が46.88%と最大の値を示し、次いで「未婚・子なし」は33.18%、「既婚・末子6歳未満」は32.10%、「既婚・子なし」は29.57%、「既婚・末子6-17歳」は19.75%となっている。

「しつけの仕方が家庭内で一致していない」をみると、「既婚・末子6-17歳」が12.35%と最大の値を示し、次いで「既婚・末子6歳未満」は10.29%、「未婚・子なし」は5.21%、「既婚・子なし」は4.35%、「未婚・子あり」は0%となっている。

「しつけの仕方がわからない」をみると、「未婚・子なし」が18.96%と最大の値を示し、次いで「既婚・子なし」は18.26%、「未婚・子あり」は12.50%、「既婚・末子6歳未満」は10.70%、「既婚・末子6-17歳」は6.79%となっている。

「子どもを一時的に預けたいときに預ける先がない」をみると、「既婚・子なし」が38.26%と最大の値を示し、次いで「未婚・子なし」は25.12%、「既婚・末子6歳未満」は23.87%、「未婚・子あり」は18.75%、「既婚・末子6-17歳」は9.26%となっている。

「子どもが急病のときに診てくれる医者が近くにいない」をみると、「既婚・子なし」が11.30%と最大の値を示し、次いで「未婚・子なし」は10.90%、「未婚・子あり」は9.38%、「既婚・末子6歳未満」は7.00%、「既婚・末子6-17歳」は3.09%となっている。

「子どもの病気のときに仕事を休みづらい」をみると、「未婚・子あり」が31.25%と最大の値を示し、次いで「既婚・子なし」は29.57%、「未婚・子なし」は29.38%、「既婚・末子6歳未満」は18.52%、「既婚・末子6-17歳」は14.20%となっている。

「子どもがいる保護者同士の関係がうまくいかない」をみると、「未婚・子なし」が11.37%と最大の値を示し、次いで「既婚・子なし」は11.30%、「未婚・子あり」は3.13%、「既婚・末子6歳未満」は2.06%、「既婚・末子6-17歳」は0.62%となっている。

「子どもを好きになれない（愛情を注ぐことができない）」をみると、「未婚・子なし」が5.69%と最大の値を示し、次いで「既婚・子なし」は2.61%、「既婚・末子6-17歳」は1.85%、「未婚・子あり」と「既婚・末子6歳未満」は0%となっている。

図表 3-84 世帯類型別子育ての不安や悩み (%)

	不安に思うことや 悩みは特にない	子育てによる身体 の疲れが大きい	子育ての出費がか さむ	自分の自由な時間 が持てない	仕事や家事が十分 にできない	子どもと過ごす時 間が十分に作れな い	配偶者が子育てに 参加してくれない
未婚・子なし(n=211)	9.00	48.82	68.72	55.92	52.13	33.18	15.64
未婚・子あり(n=32)	12.50	34.38	75.00	37.50	43.75	46.88	3.13
既婚・子なし(n=115)	4.35	60.00	60.00	53.91	60.00	29.57	14.78
既婚・末子6歳未満(n=243)	11.52	49.79	53.50	54.32	43.21	32.10	10.29
既婚・末子6-17歳(n=162)	18.52	26.54	55.56	31.48	21.60	19.75	15.43
全体(n=763)	11.27	45.48	60.03	49.15	43.64	30.01	13.24
	しつけの仕方が家 庭内で一致してい ない	しつけの仕方がわ からない	子どもについて周 りの目や評価が気 になる	子どもが言うこと を聞いてくれない	子どもの成長の度 合いに不安がある	子どもが集団生活 に慣れない	子どもを一時的に 預けたいときに預 ける先がない
未婚・子なし(n=211)	5.21	18.96	11.37	13.74	13.74	7.11	25.12
未婚・子あり(n=32)	0.00	12.50	0.00	18.75	15.63	6.25	18.75
既婚・子なし(n=115)	4.35	18.26	6.96	13.04	12.17	3.48	38.26
既婚・末子6歳未満(n=243)	10.29	10.70	8.64	14.81	11.11	4.12	23.87
既婚・末子6-17歳(n=162)	12.35	6.79	11.11	19.14	13.58	4.94	9.26
全体(n=763)	7.99	13.37	9.31	15.33	12.71	5.11	23.07
	子どもが急病のと きに診てくれる医 者が近くにいない	子どもの病気のと きに仕事を休みづ らい	子どもがいる保護 者同士の関係がう まくいかない	気持ちに余裕をも って子どもに接す ることができない	子どもを好きにな れない(愛情を注ぐ ことができない)	その他	
未婚・子なし(n=211)	10.90	29.38	11.37	25.12	5.69	1.90	
未婚・子あり(n=32)	9.38	31.25	3.13	25.00	0.00	6.25	
既婚・子なし(n=115)	11.30	29.57	11.30	26.96	2.61	0.87	
既婚・末子6歳未満(n=243)	7.00	18.52	2.06	22.22	0.00	4.12	
既婚・末子6-17歳(n=162)	3.09	14.20	0.62	19.75	1.85	3.09	
全体(n=763)	7.99	22.80	5.77	23.33	2.36	2.88	

注：下線部は5%水準の有意確率(p.<0.05)。

ウ 世帯所得

「子育ての出費がかさむ」で有意な差がみられ、世帯所得が低いほど回答割合が高い

図表3-85は、世帯所得と子育ての不安や悩みのクロス集計の結果であり、「子育ての出費がかさむ」で有意な差が示されている。

「子育ての出費がかさむ」をみると、「第一・五分位」が72.80%と最大の値を示し、次いで「第二・五分位」は65.63%、「第三・五分位」は63.19%、「第四・五分位」は52.76%、「第五・五分位」は47.79%となっている。

図表 3-85 世帯所得別子育ての不安や悩み (%)

	不安に思うことや 悩みは特にはない	子育てによる身体の 疲れが大きい	子育ての出費がか さむ	自分の自由な時間 が持てない	仕事や家事が十分 にできない	子どもと過ごす時 間が十分に作れな い	配偶者が子育てに 参加してくれない
第一・五分位 (n=125)	9.60	40.00	72.80	42.40	41.60	33.60	12.80
第二・五分位 (n=128)	10.16	40.63	65.63	47.66	39.84	29.69	15.63
第三・五分位 (n=163)	11.04	47.24	63.19	52.76	44.79	33.74	12.27
第四・五分位 (n=127)	7.87	51.97	52.76	52.76	51.18	36.22	13.39
第五・五分位 (n=113)	12.39	47.79	47.79	49.56	45.13	20.35	9.73
全体 (n=656)	10.21	45.58	60.82	49.24	44.51	31.10	12.80
	しつけの仕方が家 庭内で一致してい ない	しつけの仕方がわか らない	子どもについて周 りの目や評価が気 になる	子どもが言うこと を聞いてくれない	子どもの成長の度 合いに不安がある	子どもが集団生活 に慣れない	子どもを一時的に 預けたいときに預 ける先がない
第一・五分位 (n=125)	12.00	14.40	8.00	16.80	14.40	7.20	20.00
第二・五分位 (n=128)	5.47	11.72	10.94	17.19	13.28	4.69	21.09
第三・五分位 (n=163)	10.43	11.04	8.59	15.34	11.66	3.07	22.70
第四・五分位 (n=127)	6.30	18.90	11.81	18.11	12.60	5.51	30.71
第五・五分位 (n=113)	4.42	8.85	5.31	10.62	14.16	2.65	25.66
全体 (n=656)	7.93	12.96	8.99	15.70	13.11	4.57	23.93
	子どもが急病のと きに診てくれる医 者が近くにいない	子どもの病気のとき に仕事を休みづらい	子どもがいる保護 者同士の関係がう まくいかない	気持ちに余裕をもっ て子どもに接するこ とができない	子どもを好きになれ ない (愛情を注ぐこ とができない)	その他	
第一・五分位 (n=125)	10.40	21.60	5.60	24.80	3.20	2.40	
第二・五分位 (n=128)	6.25	22.66	4.69	25.78	2.34	1.56	
第三・五分位 (n=163)	7.98	25.15	4.29	25.15	0.61	3.07	
第四・五分位 (n=127)	7.09	22.83	6.30	26.77	4.72	2.36	
第五・五分位 (n=113)	8.85	22.12	6.19	18.58	1.77	3.54	
全体 (n=656)	8.08	23.02	5.34	24.39	2.44	2.59	

注：下線部は 5 % 水準の有意確率 ($p < 0.05$)。

(7) 妊娠や子育てについて相談する相手

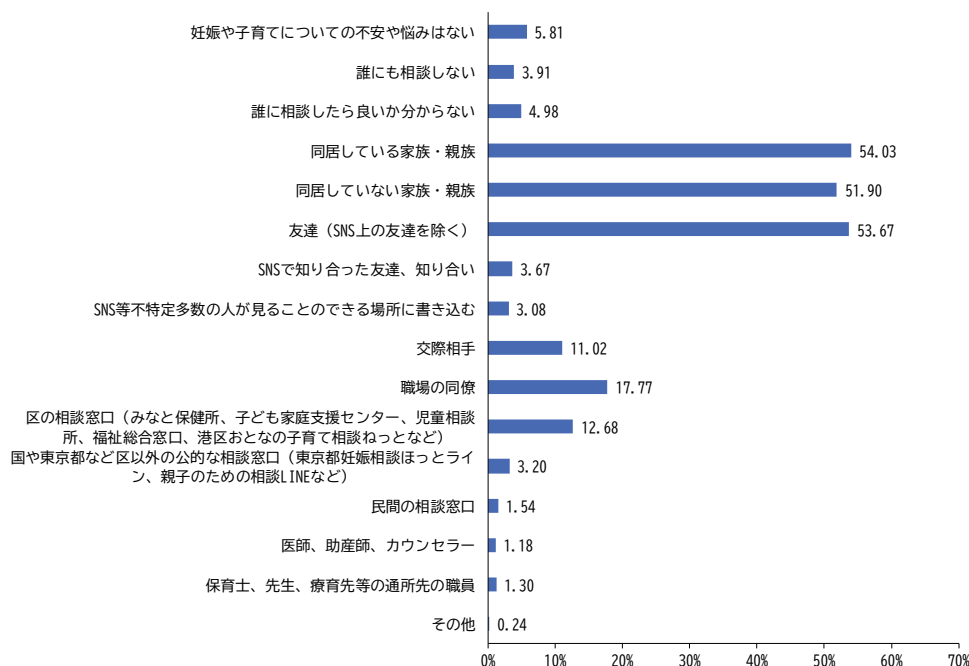
■単純集計

家族・親族（同居の有無を問わない）や友達に相談する人が多い

図表 3-86 は、妊娠や子育てについて相談する相手の単純集計の結果である。本設問では、「お子さんがいらっしゃる方は、ご自身の子育てを想定した場合についてお答えください。」としており、全体の回答には子どもがいない人の回答も含まれている。

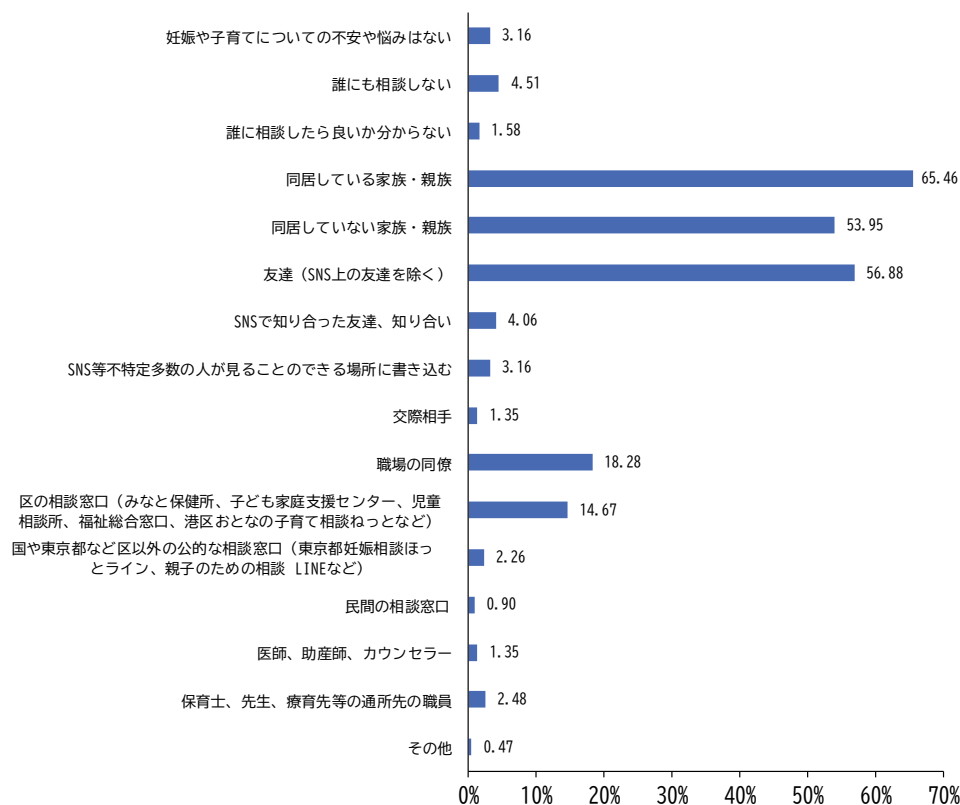
「同居している家族・親族」に相談する人が 54.03% と最大の値を示し、次いで「友達（SNS 上の友達を除く）」は 53.67%、「同居していない家族・親族」は 51.90% となっている。

図表 3-86 妊娠や子育てについて相談する相手 (n=844) (MA)



また、子どもと同居している人の、妊娠や子育てについて相談する相手を図表 3-87 に示した。
「同居している家族・親族」に相談する人が 65.46%と最大の値を示し、次いで「友達 (SNS 上の友達を除く)」は 56.88%、「同居していない家族・親族」は 53.95%となっている。

図表 3-87 子どもと同居している人の、妊娠や子育てについて相談する相手 (n=443) (MA)



■クロス集計

ア 年齢

「同居している家族・親族」と「交際相手」で有意な差がみられ、「同居している家族・親族」は30歳代で、「交際相手」は20歳代での回答割合が高い

図表3-88は、年齢と妊娠や子育てについて相談する相手のクロス集計の結果であり、「同居している家族・親族」と「交際相手」で有意な差が示されている。

「同居している家族・親族」をみると、「30-34歳」が64.90%と最大の値を示し、次いで「35-39歳」は63.18%、「40-44歳」は48.86%、「20-29歳」は47.95%、「45-50歳」は44.12%となっている。

「交際相手」をみると、「20-29歳」が28.77%と最大の値を示し、次いで「35-39歳」は8.96%、「30-34歳」は8.61%、「45-50歳」は8.24%、「40-44歳」は3.41%となっている。

図表3-88 年齢別妊娠や子育てについて相談する相手（%）

	妊娠や子育てについての不安や悩みはない	誰にも相談しない	誰に相談したら良いかわからない	同居している家族・親族	同居していない家族・親族	友達（SNS上の友達を除く）	SNSで知り合った友達、知り合い	SNS等不特定多数の人が見ることのできる場所に書き込む
20-29歳(n=146)	6.16	1.37	6.85	47.95	50.00	52.74	6.16	4.11
30-34歳(n=151)	5.30	1.99	4.64	64.90	56.95	49.67	5.96	3.97
35-39歳(n=201)	4.98	4.98	3.48	63.18	53.23	59.20	2.49	4.98
40-44歳(n=176)	6.82	6.25	5.11	48.86	47.16	51.70	2.84	1.70
45-50歳(n=170)	5.88	4.12	5.29	44.12	52.35	53.53	1.76	0.59
全体(n=844)	5.81	3.91	4.98	54.03	51.90	53.67	3.67	3.08

	交際相手	職場の同僚	区の相談窓口（みなと保健所、子ども家庭支援センター、児童相談所、福祉総合窓口、港区おとなの子育て相談ねっとなど）	国や東京都など区以外の公的な相談窓口（東京都妊産婦相談はつとライン、親子のための相談LINEなど）	民間の相談窓口	医師、助産師、カウンセラー	保育士、先生、療育先等の通所先の職員	その他
20-29歳(n=146)	28.77	15.07	10.27	2.74	2.05	0.68	0.00	0.00
30-34歳(n=151)	8.61	15.89	15.23	3.97	0.00	2.65	1.32	0.00
35-39歳(n=201)	8.96	17.41	8.96	1.99	1.49	0.50	1.00	0.00
40-44歳(n=176)	3.41	18.18	15.34	2.84	1.70	1.70	1.14	0.59
45-50歳(n=170)	8.24	21.76	14.12	4.71	2.35	0.59	2.94	0.61
全体(n=844)	11.02	17.77	12.68	3.20	1.54	1.18	1.30	0.24

注：下線部は5%水準の有意確率(p, <0.05)。

イ 居住地区

- ・「誰に相談したら良いかわからない」と「その他」で有意な差がみられた
- ・「芝地区」において、「誰に相談したら良いかわからない」と回答した割合が約1割

図表3-89は、居住地区と妊娠や子育てについて相談する相手のクロス集計の結果であり、「誰に相談したら良いかわからない」と「その他」で有意な差が示されている。

「誰に相談したら良いかわからない」をみると、「芝地区」が9.41%と最大の値を示し、次いで「赤坂地区」は6.19%、「麻布地区」は4.24%、「高輪地区」は3.19%、「芝浦港南地区」は2.88%となっている。

「その他」をみると、「赤坂地区」が1.80%と最大の値を示し、その他の地区は0%となっている。

図表 3-89 居住地区別妊娠や子育てについて相談する相手

	妊娠や子育てについて の不安や悩みはない	誰にも相談しない	誰に相談したら良いか 分からない	同居している家族・ 親族	同居していない家 族・親族	友達（SNS上の友達 を除く）	SNSで知り合った友 達、知り合い	SNS等不特定多数の 人が見ることのでき る場所に書き込む
芝地区(n=170)	3.53	2.94	9.41	51.18	51.76	48.82	4.71	3.53
麻布地区(n=165)	8.48	4.24	4.24	50.30	50.30	54.55	5.45	2.42
赤坂地区(n=113)	7.08	5.31	6.19	56.64	45.13	50.44	4.42	2.65
高輪地区(n=188)	4.26	3.19	3.19	56.91	55.85	54.79	2.13	4.26
芝浦港南地区(n=208)	6.25	4.33	2.88	55.29	53.37	57.69	2.40	2.40
全体(n=844)	5.81	3.91	4.98	54.03	51.90	53.67	3.67	3.08

	交際相手	職場の同僚	区の相談窓口（みなと保健 所、子ども家庭支援セン ター、児童相談所、福祉総 合窓口、港区おとなの子育 て相談ねっとなど）	国や東京都など区以外の公 的な相談窓口（東京都妊娠 相談はっとライン、親子の ための相談LINEなど）	民間の相談窓口	医師、助産師、カウ ンセラー	保育士、先生、療育 先等の通所先の職員	その他
芝地区(n=170)	12.35	20.00	14.12	4.71	1.18	0.59	0.59	0.00
麻布地区(n=165)	13.94	10.30	10.30	1.21	2.42	0.00	1.82	0.00
赤坂地区(n=113)	8.85	18.58	15.93	3.54	1.77	1.77	0.00	1.80
高輪地区(n=188)	9.57	19.15	13.30	4.79	1.06	2.66	1.60	0.00
芝浦港南地区(n=208)	10.10	20.19	11.06	1.92	1.44	0.96	1.92	0.00
全体(n=844)	11.02	17.77	12.68	3.20	1.54	1.18	1.30	0.24

注：下線部は5%水準の有意確率(p.<0.05)。

ウ 世帯類型

- ・「妊娠や子育てについての不安や悩みはない」「誰に相談したら良いか分からない」「同居している家族・親族」「交際相手」「保育士、先生、療育先等の通所先の職員」「その他」で有意な差がみられた
- ・子どもと同居していない人は、「誰に相談したら良いか分からない」と回答した人の割合が高い

図表 3-90 は、世帯類型と妊娠や子育てについて相談する相手のクロス集計の結果であり、「妊娠や子育てについての不安や悩みはない」「誰に相談したら良いか分からない」「同居している家族・親族」「交際相手」「保育士、先生、療育先等の通所先の職員」「その他」で有意な差が示されている。

「妊娠や子育てについての不安や悩みはない」をみると、「未婚・子なし」が10.04%と最大の値を示し、次いで「未婚・子あり」は9.38%、「既婚・子なし」は6.34%、「既婚・末子6歳未満」は2.88%、「既婚・末子6-17歳」は2.47%となっている。

「誰に相談したら良いか分からない」をみると、「未婚・子なし」が9.27%と最大の値を示し、次いで「既婚・子なし」は7.75%、「未婚・子あり」は6.25%、「既婚・末子6歳未満」と「既婚・末子6-17歳」はそれぞれ1.23%となっている。

「同居している家族・親族」をみると、「既婚・末子6歳未満」は80.25%と最大の値を示し、次いで「既婚・子なし」は54.93%、「既婚・末子6-17歳」は52.47%、「未婚・子なし」は33.98%、「未婚・子あり」は18.75%となっている。

「交際相手」をみると、「未婚・子なし」が30.89%と最大の値を示し、次いで「未婚・子あり」は9.38%、「既婚・子なし」は4.93%、「既婚・末子6歳未満」は0.82%、「既婚・末子6-17歳」は0.62%となっている。

「保育士、先生、療育先等の通所先の職員」をみると、「未婚・子あり」が3.13%と最大の値を示し、次いで「既婚・末子6歳未満」は2.47%、「既婚・末子6-17歳」は1.85%、「未婚・子なし」と「既婚・子なし」は0%となっている。

「その他」をみると、「未婚・子あり」が3.23%と最大の値を示し、次いで「既婚・末子6-17歳」は0.64%、その他の世帯類型は0%となっている。

図表 3-90 世帯類型別妊娠や子育てについて相談する相手（％）

	妊娠や子育てについて の不安や悩み はない	誰にも相談しない	誰に相談したら良 いか分からない	同居している家 族・親族	同居していない家 族・親族	友達（SNS上の友 達を除く）	SNSで知り合った 友達、知り合い	SNS等不特定多数 の人が見ることの できる場所に書き 込む
未婚・子なし(n=259)	10.04	2.70	9.27	33.98	47.49	50.58	4.25	3.86
未婚・子あり(n=32)	9.38	6.25	6.25	18.75	43.75	56.25	6.25	3.13
既婚・子なし(n=142)	6.34	4.23	7.75	54.93	53.52	49.30	1.41	1.41
既婚・未子6歳未満(n=243)	2.88	2.88	1.23	80.25	55.14	55.97	4.53	3.70
既婚・未子6-17歳(n=162)	2.47	6.79	1.23	52.47	53.09	58.64	3.09	1.85
全体(n=838)	5.85	3.94	5.01	53.94	51.67	53.70	3.70	2.98
	交際相手	職場の同僚	区の相談窓口（みなと保健 所、子ども家庭支援セン ター、児童相談所、福祉 総合窓口、港区おとなの子 育て相談など）	国や東京都など区以外の公 的な相談窓口（東京都妊 娠相談はとライン、親子 のための相談LINEなど）	民間の相談窓口	医師、助産師、カ ウンセラー	保育士、先生、療 育先等の通所先の 職員	その他
未婚・子なし(n=259)	30.89	17.37	10.04	4.25	3.09	1.16	0.00	0.00
未婚・子あり(n=32)	9.38	31.25	6.25	3.13	0.00	0.00	3.13	3.23
既婚・子なし(n=142)	4.93	16.90	11.27	4.23	0.70	0.70	0.00	0.00
既婚・未子6歳未満(n=243)	0.82	18.11	16.05	2.06	0.41	1.65	2.47	0.00
既婚・未子6-17歳(n=162)	0.62	16.05	14.20	1.85	1.85	1.23	1.85	0.64
全体(n=838)	11.10	17.78	12.65	3.10	1.55	1.19	1.19	0.25

注：下線部は5％水準の有意確率(p.<0.05)。

エ 世帯所得

「同居している家族・親族」で有意な差がみられ、所得が高いほど、回答割合が高い

図表 3-91 は、世帯所得と妊娠や子育てについて相談する相手のクロス集計の結果であり、「同居している家族・親族」で有意な差が示されている。

「同居している家族・親族」をみると、「第五・五分位」が66.67％と最大の値を示し、次いで「第四・五分位」は55.56％、「第三・五分位」は54.19％、「第二・五分位」は49.29％、「第一・五分位」は47.48％となっている。

図表 3-91 世帯所得別妊娠や子育てについて相談する相手（％）

	妊娠や子育てについて の不安や悩み はない	誰にも相談しない	誰に相談したら良 いか分からない	同居している家 族・親族	同居していない家 族・親族	友達（SNS上の友 達を除く）	SNSで知り合った 友達、知り合い	SNS等不特定多数 の人が見ることの できる場所に書き 込む
第一・五分位 (n=139)	6.47	3.60	5.76	47.48	44.60	54.68	4.32	2.88
第二・五分位 (n=140)	5.00	4.29	7.86	49.29	57.86	52.14	2.86	2.14
第三・五分位 (n=179)	3.91	4.47	4.47	54.19	55.31	55.31	3.35	3.35
第四・五分位 (n=144)	6.94	2.78	4.17	55.56	52.78	56.25	2.78	2.08
第五・五分位 (n=120)	4.17	2.50	1.67	66.67	52.50	58.33	5.83	5.83
全体 (n=722)	5.26	3.60	4.85	54.29	52.77	55.26	3.74	3.19
	交際相手	職場の同僚	区の相談窓口（みなと保健 所、子ども家庭支援セン ター、児童相談所、福祉 総合窓口、港区おとなの子 育て相談など）	国や東京都など区以外の公 的な相談窓口（東京都妊 娠相談はとライン、親子 のための相談LINEなど）	民間の相談窓口	医師、助産師、カ ウンセラー	保育士、先生、療 育先等の通所先の 職員	その他
第一・五分位 (n=139)	12.95	16.55	12.95	4.32	1.44	0.00	0.72	0.00
第二・五分位 (n=140)	15.71	15.00	14.29	2.86	0.71	2.14	1.43	0.00
第三・五分位 (n=179)	8.94	22.35	15.08	3.35	1.12	0.00	2.23	0.57
第四・五分位 (n=144)	9.72	19.44	11.11	2.78	1.39	2.78	0.00	0.00
第五・五分位 (n=120)	9.17	20.83	10.83	1.67	2.50	0.83	2.50	0.00
全体 (n=722)	11.22	18.98	13.02	3.05	1.39	1.11	1.39	0.14

注：下線部は5％水準の有意確率(p.<0.05)。

7 女性の就業、家族、子育てに係る価値観

(1) 理想と現実の人生

ア 理想の人生

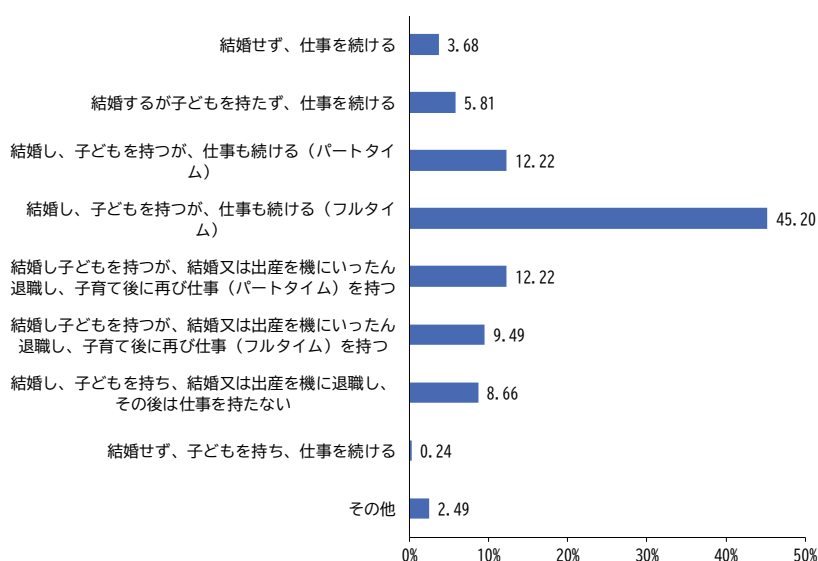
■単純集計

「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける（フルタイム）」人生を理想とする人が多い

図表3-92は、理想の人生の単純集計の結果である。

「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける（フルタイム）」が45.20%と最大の値を示し、次いで「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける（パートタイム）」と「結婚し子どもを持つが、結婚又は出産を機にいったん退職し、子育て後に再び仕事（パートタイム）を持つ」は12.22%となっている。

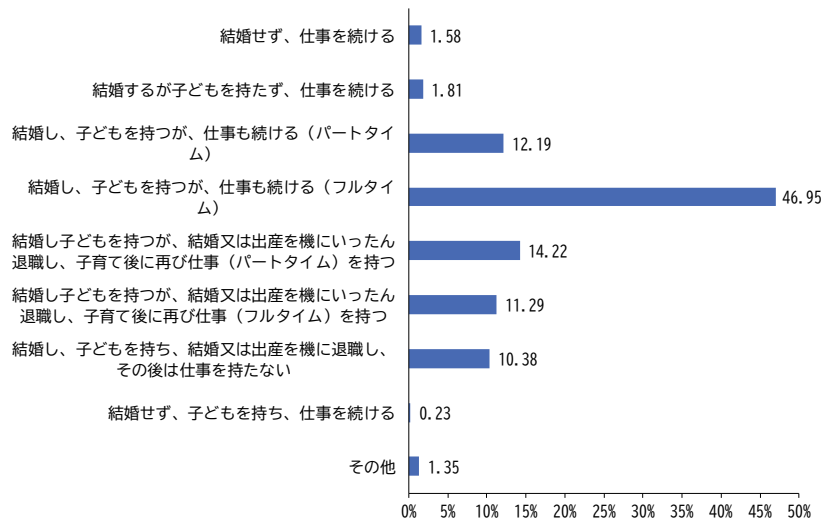
図表3-92 理想の人生（n=843）（SA）



また、子どもと同居している人の理想の人生を、図表3-93に示した。

全体と同様に、「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける（フルタイム）」が46.95%と最大の値を示し、次いで「結婚し子どもを持つが、結婚又は出産を機にいったん退職し、子育て後に再び仕事（パートタイム）を持つ」は14.22%、「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける（パートタイム）」は12.19%となっている。

図表 3-93 子どもと同居している人の理想の人生 (n=443) (SA)



■クロス集計

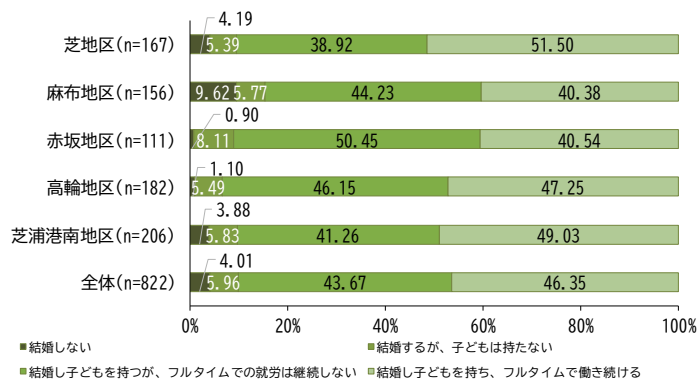
ア 居住地区

芝地区と芝浦港南地区において、「結婚し子どもを持ち、フルタイムで働き続ける」ことが理想の人生と回答した人が約半数

図表 3-94 は、居住地区と理想の人生のクロス集計の結果である。

「結婚し子どもを持ち、フルタイムで働き続ける」をみると、「芝地区」が 51.50%と最大の値を示し、次いで「芝浦港南地区」は 49.03%、「高輪地区」は 47.25%となっている。

図表 3-94 居住地区別理想の人生



注：「結婚しない」には「結婚せず、仕事を続ける」と「結婚せず、子どもを持ち、仕事を続ける」を、「結婚し子どもを持つがフルタイムでの就労は継続しない」には「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける（パートタイム）」「結婚し子どもを持つが、結婚又は出産を機にいったん退職し、子育て後に再び仕事（パートタイム）を持つ」「結婚し子どもを持つが、結婚又は出産を機にいったん退職し、子育て後に再び仕事（フルタイム）を持つ」「結婚し、子どもを持ち、結婚又は出産を機に退職し、その後は仕事を持たない」を含んでいる。

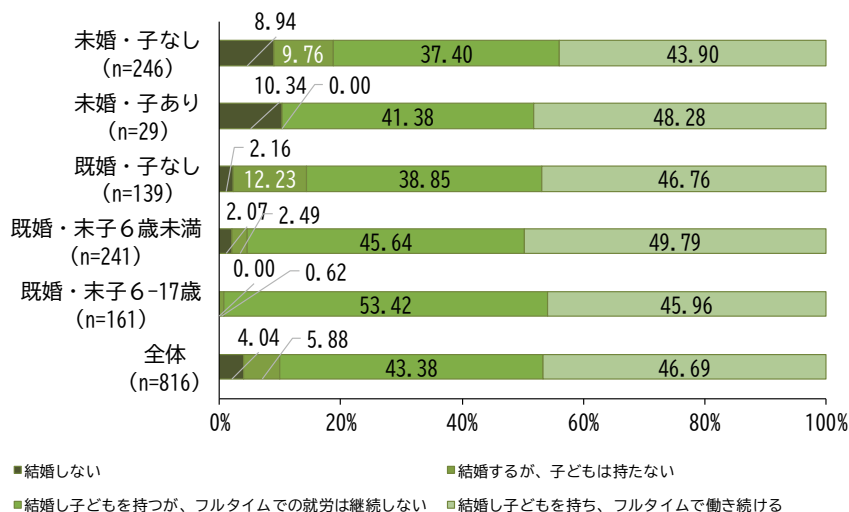
イ 世帯類型

「結婚し子どもを持つが、フルタイムでの就労は継続しない」ことが理想の人生と回答した人は、既婚で末子が 6～17 歳未満の人において最も高く、半数以上

図表3-95は、世帯類型と理想の人生のクロス集計の結果である。

「結婚し子どもを持つが、フルタイムでの就労は継続しない」をみると、「既婚・末子6-17歳」が53.42%と最大の値を示し、次いで「既婚・末子6歳未満」は45.64%、「未婚・子あり」は41.38%、「既婚・子なし」は38.85%、「未婚・子なし」は37.40%となっている。

図表3-95 世帯類型別理想の人生



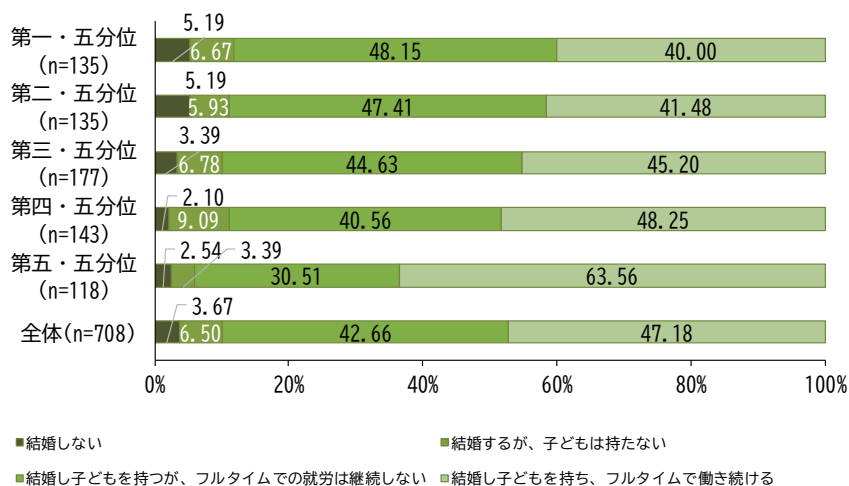
ウ 世帯所得

所得が高いほど、「結婚し子どもを持ち、フルタイムで働き続ける」ことが理想の人生と回答した人の割合が高い

図表3-96は、世帯所得と理想の人生のクロス集計の結果である。

「結婚し子どもを持ち、フルタイムで働き続ける」をみると、「第五・五分位」が63.56%と最大の値を示し、次いで「第四・五分位」は48.25%、「第三・五分位」は45.20%、「第二・五分位」は41.48%、「第一・五分位」は40.00%となっている。

図表3-96 世帯所得別理想の人生



イ 現実の人生（現時点での見込み）

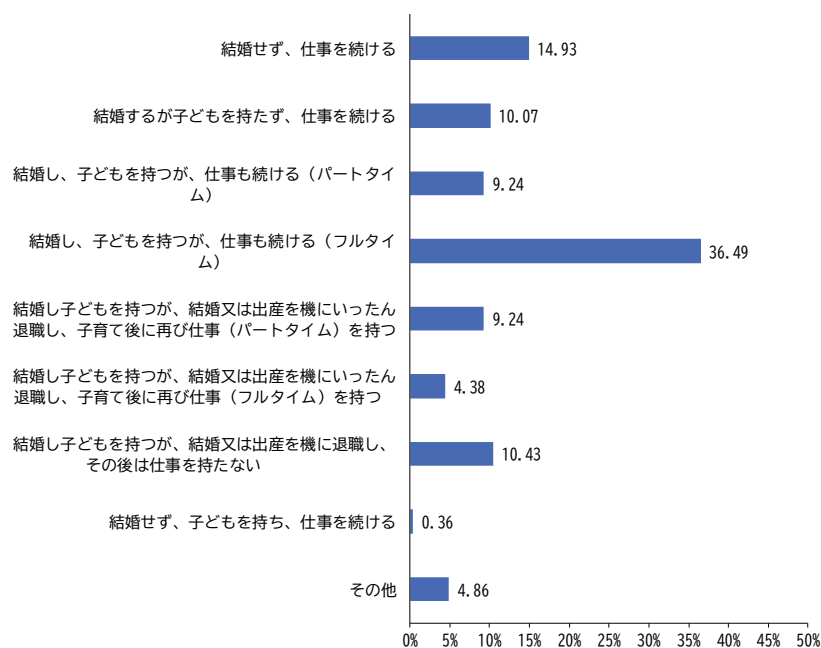
■単純集計

「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける（フルタイム）」人が最も多いが、理想の人生の同回答（45.20%）より少ない

図表3-97は、現実の人生（現時点での見込み）の単純集計の結果である。

「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける（フルタイム）」が36.49%と最大の値を示し、次いで「結婚せず、仕事を続ける」は14.93%、「結婚し子どもを持つが、結婚又は出産を機に退職し、その後は仕事を持たない」は10.43%となっている。

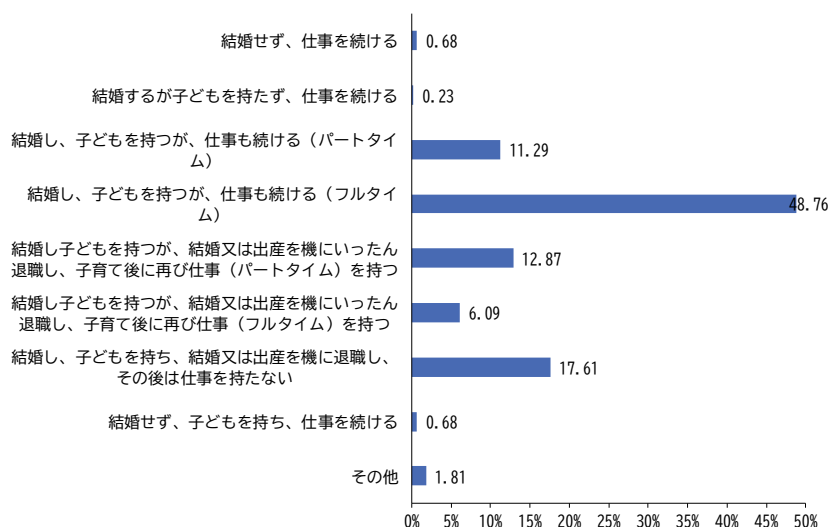
図表3-97 現実の人生（n=844）（SA）



また、子どもと同居している人の現実の人生を図表3-98に示した。

「結婚し、子どもを持つが、仕事も続ける（フルタイム）」が48.76%と最大の値を示し、次いで「結婚し、子どもを持ち、結婚又は出産を機に退職し、その後は仕事を持たない」は17.61%、「結婚し子どもを持つが、結婚又は出産を機にいったん退職し、子育て後に再び仕事（パートタイム）を持つ」は12.87%となっている。

図表 3-98 子どもと同居している人の現実の人生 (n=443) (SA)



■クロス集計

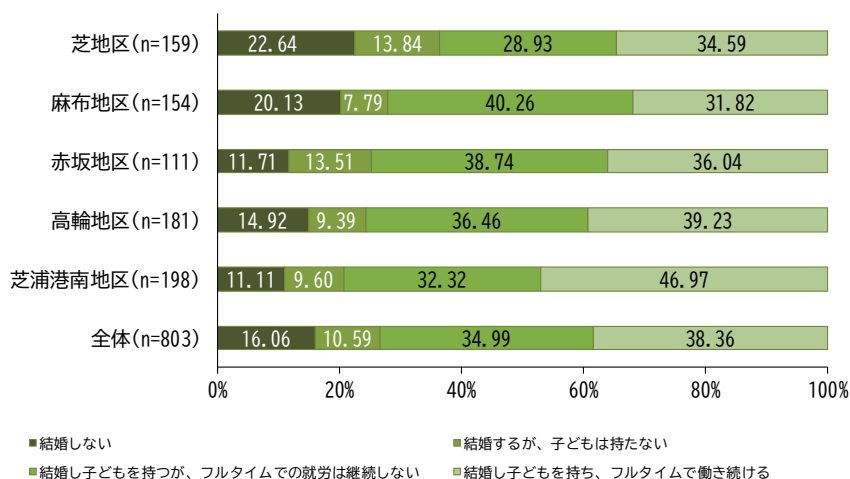
ア 居住地区

芝浦港南地区において、「結婚し子どもを持ち、フルタイムで働き続ける」ことが現実の人生と回答した人が約半数と最も高い

図表 3-99 は、居住地区と現実の人生のクロス集計の結果である。

「結婚し子どもを持ち、フルタイムで働き続ける」をみると、「芝浦港南地区」が 46.97% と最大の値を示し、次いで「高輪地区」は 39.23%、「赤坂地区」は 36.04%、「芝地区」は 34.59%、「麻布地区」は 31.82% となっている。

図表 3-99 居住地区別現実の人生



イ 世帯類型

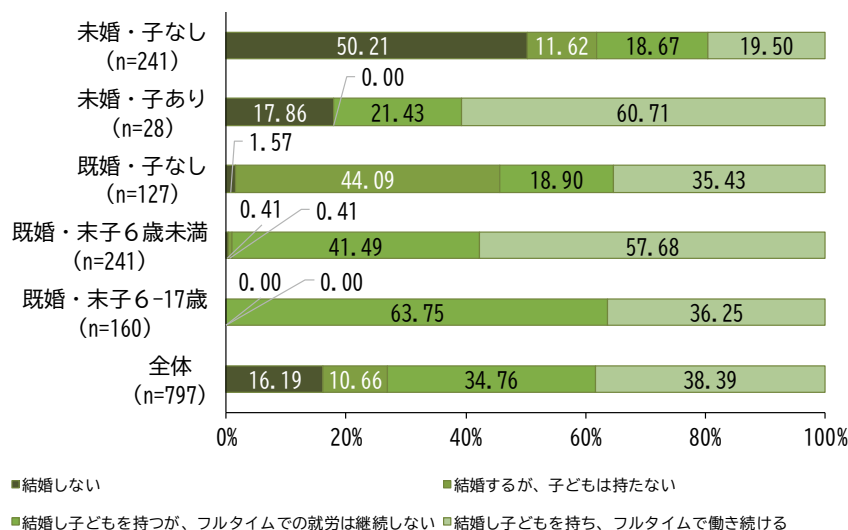
- ・未婚で子どもと同居している人と既婚で末子が6歳未満の人において、「結婚し子どもを持ち、フルタイムで働き続ける」ことが現実の人生と回答した人が約6割と、他の世帯類型より高い割合
- ・既婚で末子が6～17歳の人は、「結婚し子どもを持つが、フルタイムでの就労は継続しない」ことが現実の人生と回答した人が約6割と、他の世帯類型より高い割合

図表3-100は、世帯類型と現実の人生のクロス集計の結果である。

「結婚し子どもを持ち、フルタイムで働き続ける」をみると、「未婚・子あり」が60.71%と最大の値を示し、次いで「既婚・末子6歳未満」は57.68%、「既婚・末子6-17歳」は36.25%、「既婚・子なし」は35.43%、「未婚・子なし」は19.50%となっている。

また、「結婚し子どもを持つが、フルタイムでの就労は継続しない」をみると、「既婚・末子6-17歳」が63.75%と最大の値を示し、次いで「既婚・末子6歳未満」は41.49%、「未婚・子あり」は21.43%、「既婚・子なし」は18.90%、「未婚・子なし」は18.67%となっている。

図表3-100 世帯類型別現実の人生



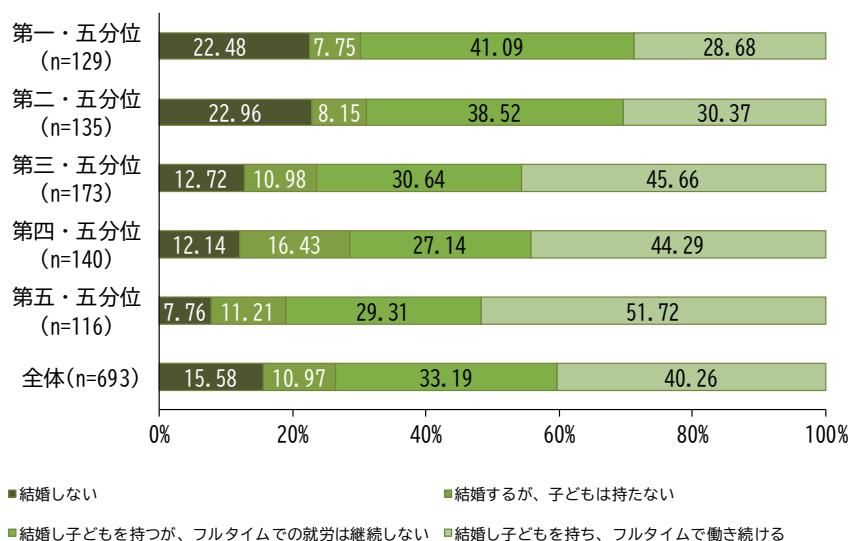
ウ 世帯所得

高所得者層において、「結婚し子どもを持ち、フルタイムで働き続ける」ことが現実の人生と回答した割合が高い

図表3-101は、世帯所得と現実の人生のクロス集計の結果である。

「結婚し子どもを持ち、フルタイムで働き続ける」をみると、「第五・五分位」が51.72%と最大の値を示し、次いで「第三・五分位」は45.66%、「第四・五分位」は44.29%、「第二・五分位」は30.37%、「第一・五分位」は28.68%となっている。

図表 3-101 世帯所得別現実の人生



ウ 理想と現実の人生のギャップ

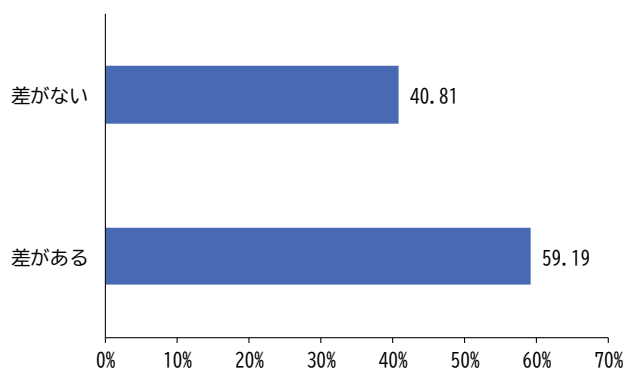
■単純集計

- ・理想と現実の人生でギャップがある人は約6割
- ・「結婚し、子どもを持ち、仕事をフルタイムで継続する」人生について、理想と現実のギャップが大きい

図表 3-102 は、理想と現実の人生のギャップの単純集計の結果である。

「差がない」(ギャップがない)が40.81%、「差がある」(ギャップがある)が59.19%となっている。

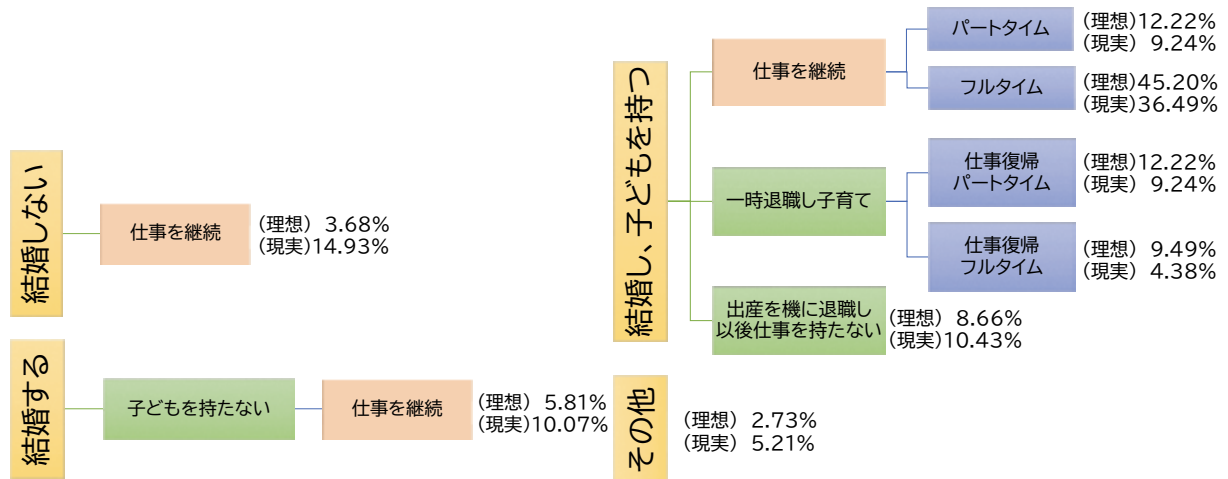
図表 3-102 理想と現実の人生のギャップ (n=843)



また、理想と現実の人生のギャップを図示したものを、図表 3-103 に示す。

「結婚し、子どもを持ち、仕事をフルタイムで継続する」人生について、「理想の人生」として選択した人の割合は45.20%である一方、「理想の人生」として選択した人の割合は36.49%となっている。

図表 3-103 理想と現実の人生のギャップ（理想：n=843、現実：n=844）



注：「その他」は、「結婚せず、子どもを持ち、仕事を続ける」を含む。

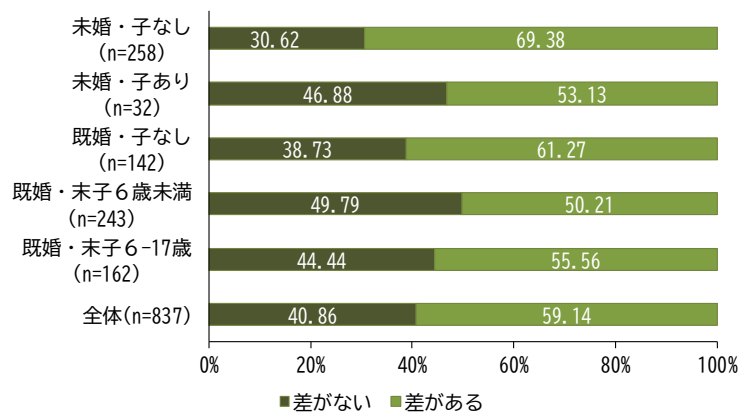
■クロス集計 ア 世帯類型

子どもと同居していない人は、理想と現実の人生でギャップがある割合が高い

図表 3-104 は、世帯類型と理想と現実の人生のギャップのクロス集計の結果である。

「差がある」（ギャップがある）をみると、「未婚・子なし」が 69.38%と最大の値を示し、次いで「既婚・子なし」は 61.27%、「既婚・末子 6-17 歳」は 55.56%、「未婚・子あり」は 53.13%、「既婚・末子 6 歳未満」は 50.21%となっている。

図表 3-104 世帯類型別理想と現実の人生のギャップ



イ 世帯所得

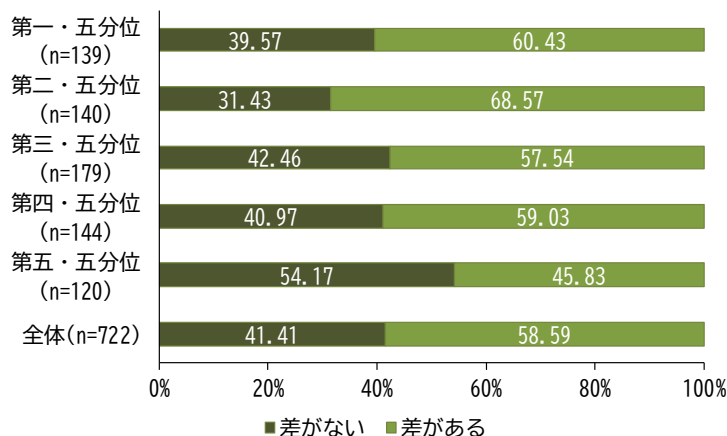
低所得者層は、理想と現実の人生でギャップがある割合が高い

図表 3-105 は、世帯所得と理想と現実の人生のギャップのクロス集計の結果である。

「差がある」（ギャップがある）をみると、「第二・五分位」が 68.57%と最大の値を示し、次いで「第

「第一・五分位」は60.43%、「第四・五分位」は59.03%、「第三・五分位」は57.54%、「第五・五分位」は45.83%となっている。

図表 3-105 世帯所得別理想と現実の人生のギャップ



(2) 女性の就業や家族等に係る価値観

■単純集計

結婚後も自分だけの人生の目標を持つことや、同性どうしの結婚や子育てに対して、肯定的な回答が多い

図表 3-106 は、女性の就業や家族等に係る価値観の単純集計の結果である。

「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合計した割合をみると、「結婚しても結婚相手や家族とは別の自分だけの人生の目標を持つべきである」が81.52% (50.83+30.69) と最大の値を示し、次いで「(生物学的) 男性同士、女性同士の結婚があっても構わない」は76.66% (56.87+19.79)、「女性同士のカップルも、男女のカップルと同じように子どもを育てることができる」は73.93% (51.42+22.51) となっている。

図表3-106 女性の就業や家族等に係る価値観（n=844）（SA）

	賛成	どちらかといえば賛成	どちらともいえない	どちらかといえば反対	反対
結婚しても結婚相手や家族とは別の自分だけの人生の目標を持つべきである	50.83	30.69	15.05	2.13	1.30
結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然だ	2.84	11.26	26.90	29.27	29.74
夫に十分な収入がある場合には、妻は収入を伴う仕事をしない方がよい	3.32	5.69	27.37	26.18	37.44
結婚したら子どもを持つべきである	12.32	23.10	47.51	4.03	13.03
子どもが小さいうちは母親は仕事を持たずに家にいることが望ましい	12.68	24.41	33.89	15.28	13.74
生涯を独身で過ごすというのは望ましい生き方ではない	10.43	14.10	44.67	9.60	21.21
女性が最初の子どもを産むなら20代のうちが良い	28.08	32.94	29.15	4.74	5.09
（生物学的）男性同士、女性同士の結婚があっても構わない	56.87	19.79	14.10	5.21	4.03
女性同士のカップルも、男女のカップルと同じように子どもを育てることができる	51.42	22.51	17.30	5.09	3.67
男性同士のカップルも、男女のカップルと同じように子どもを育てることができる	48.93	22.04	18.48	5.92	4.62
両親のどちらかがいなくても、両親のいる家庭と同じように子どもを育てることができる	40.05	23.82	26.30	7.23	2.61
年老了親の世話に対する成長した子どもの責任は大きい	14.22	25.24	33.65	14.45	12.44

■クロス集計

ア 年齢

- ・ 女性の子どもを産む年齢及び同性同士の結婚や子育てに関する項目で有意な差がみられた
- ・ 20歳代は、同性どうしの結婚や子育てに肯定的である割合が高い

図表3-107は、年齢と女性の就業や家族等に係る価値観のクロス集計の結果であり、「女性が最初の子どもを産むなら20代のうちが良い」「（生物学的）男性同士、女性同士の結婚があっても構わない」「女性同士のカップルも、男女のカップルと同じように子どもを育てることができる」「男性同士のカップルも、男女のカップルと同じように子どもを育てることができる」で有意な差が示されている。

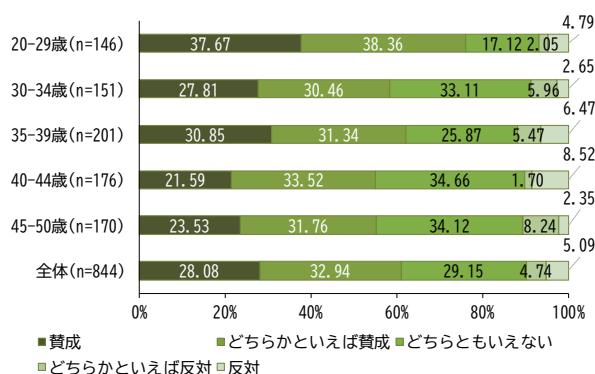
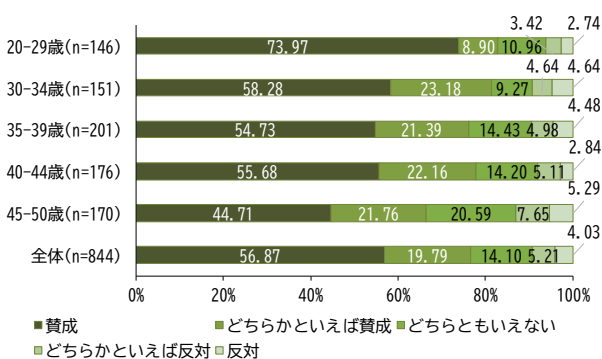
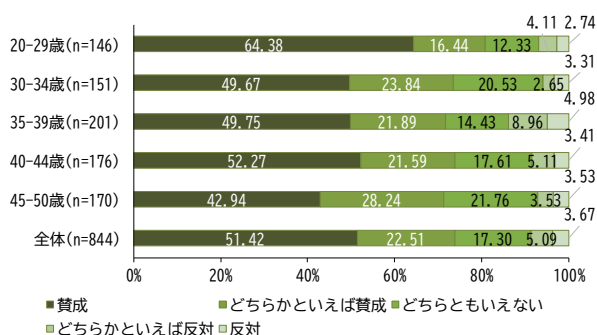
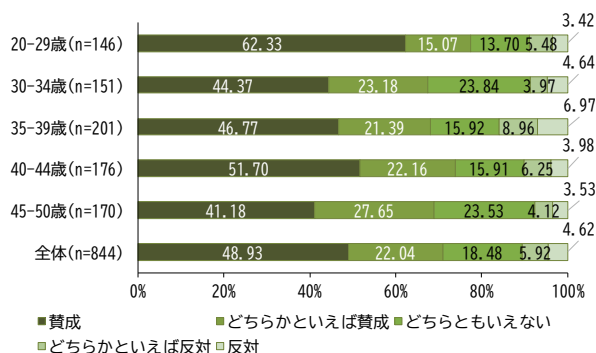
「（イ）女性が最初の子どもを産むなら20代のうちが良い」について、「賛成」と回答した割合をみると、「20-29歳」が37.67%と最大の値を示し、次いで「35-39歳」は30.85%、「30-34歳」は27.81%、「45-50歳」は23.53%、「40-44歳」は21.59%となっている。

「（ロ）（生物学的）男性同士、女性同士の結婚があっても構わない」について、「賛成」と回答した割合をみると、「20-29歳」が73.97%と最大の値を示し、次いで「30-34歳」は58.28%、「40-44歳」は55.68%、「35-39歳」は54.73%、「45-50歳」は44.71%となっている。

「（ハ）女性同士のカップルも、男女のカップルと同じように子どもを育てることができる」について、「賛成」と回答した割合をみると、「20-29歳」が64.38%と最大の値を示し、次いで「40-44歳」は52.27%、「35-39歳」は49.75%、「30-34歳」は49.67%、「45-50歳」は42.94%となっている。

「（ニ）男性同士のカップルも、男女のカップルと同じように子どもを育てることができる」について、「賛成」と回答した割合をみると、「20-29歳」が62.33%と最大の値を示し、次いで「40-44歳」は51.70%、「35-39歳」は46.77%、「30-34歳」は44.37%、「45-50歳」は41.18%となっている。

図表 3-107 年齢別女性の就業や家族等に係る価値観

(イ) 女性が最初の子どもを産むなら 20 代の
のうちが良い(ロ) (生物学的) 男性同士、女性同士の結婚
があっても構わない(ハ) 女性同士のカップルも、男女のカッ
プルと同じように子どもを育てることが
できる(ニ) 男性同士のカップルも、男女のカッ
プルと同じように子どもを育てることが
できる

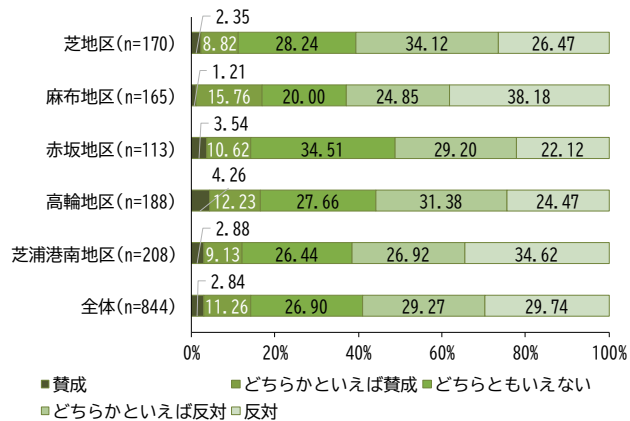
イ 居住地区

「結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然だ」で有意な差がみられ、麻布地区と芝浦港南地区は、家庭のために自身を犠牲にすることに否定的である割合が高い

図表 3-108 は、居住地区と女性の就業や家族等に係る価値観のクロス集計の結果であり、「結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然だ」で有意な差が示されている。

「結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然だ」について、「反対」と回答した割合をみると、「麻布地区」が 38.18% と最大の値を示し、次いで「芝浦港南地区」は 34.62%、「芝地区」は 26.47%、「高輪地区」は 24.47%、「赤坂地区」は 22.12% となっている。

図表 3-108 居住地区別女性の就業や家族等に係る価値観
結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然だ



ウ 世帯類型

未婚・既婚を問わず、子どもと同居していない人は、家庭のために自身を犠牲にすることが当然という考え方や結婚したら子どもを持つべきという考え方に否定的である割合が高い一方、同性どうしの結婚や子育てに肯定的である割合が高い

図表 3-109 は、世帯類型と女性の就業や家族等に係る価値観のクロス集計の結果であり、「結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然だ」「結婚したら子どもを持つべきである」「(生物学的) 男性同士、女性同士の結婚があっても構わない」「男性同士のカップルも、男女のカップルと同じように子どもを育てることができる」で有意な差が示されている。

「(イ) 結婚したら、家庭のためには自分の個性や生き方を犠牲にするのは当然だ」について、「反対」と回答した割合をみると、「既婚・子なし」が 37.32%と最大の値を示し、次いで「未婚・子なし」は 30.89%、「既婚・末子 6 歳未満」は 28.40%、「既婚・末子 6-17 歳」は 25.93%、「未婚・子あり」は 21.88%となっている。

「(ロ) 結婚したら子どもを持つべきである」について、「反対」と回答した割合をみると、「未婚・子なし」が 18.53%と最大の値を示し、次いで「既婚・子なし」は 16.90%、「既婚・末子 6 歳未満」は 9.88%、「既婚・末子 6-17 歳」は 7.41%、「未婚・子あり」は 6.25%となっている。

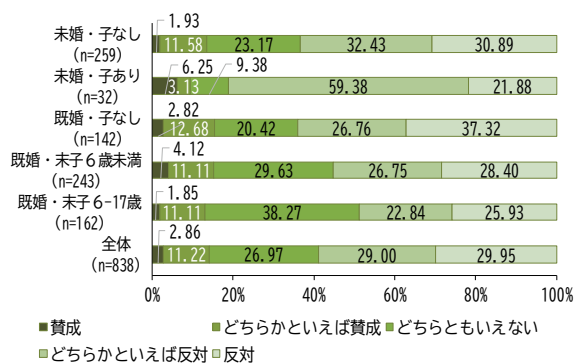
「(ハ) (生物学的) 男性同士、女性同士の結婚があっても構わない」について、「賛成」と回答した割合をみると、「未婚・子なし」が 68.34%と最大の値を示し、次いで「既婚・子なし」は 57.04%、「未婚・子あり」は 56.25%、「既婚・末子 6 歳未満」は 52.67%、「既婚・末子 6-17 歳」は 46.30%となっている。

「(ニ) 男性同士のカップルも、男女のカップルと同じように子どもを育てることができる」について、「賛成」と回答した割合をみると、「未婚・子なし」が 60.23%と最大の値を示し、次いで「既婚・子なし」は 47.18%、「未婚・子あり」は 46.88%、「既婚・末子 6 歳未満」は 43.62%、「既婚・末子 6-17 歳」は 41.98%となっている。

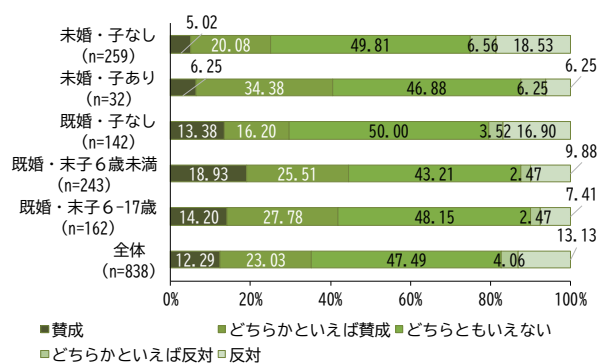
図表 3-109 世帯類型別女性の就業や家族等に係る価値観

(イ) 結婚したら、家庭のためには自分の

個性や生き方を犠牲にするのは当然だ

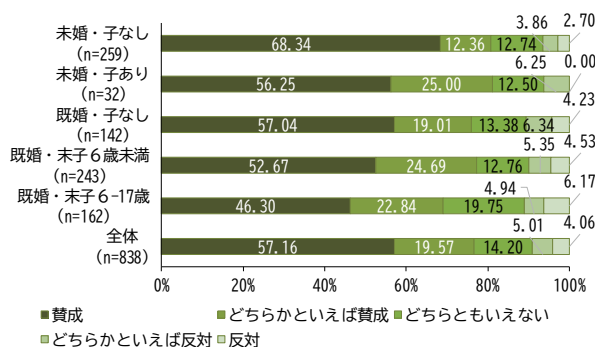


(ロ) 結婚したら子どもを持つべきである



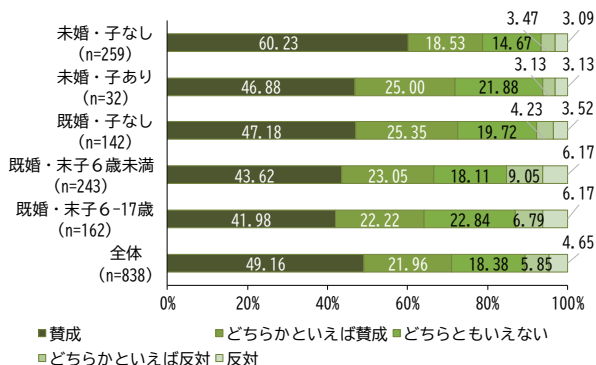
(ハ) (生物学的) 男性同士、女性同士の

結婚があっても構わない



(ニ) 男性同士のカップルも、男女のカップル

と同じように子どもを育てることができる



(3) 理想子ども数、予定子ども数、両者の差

ア 理想子ども数

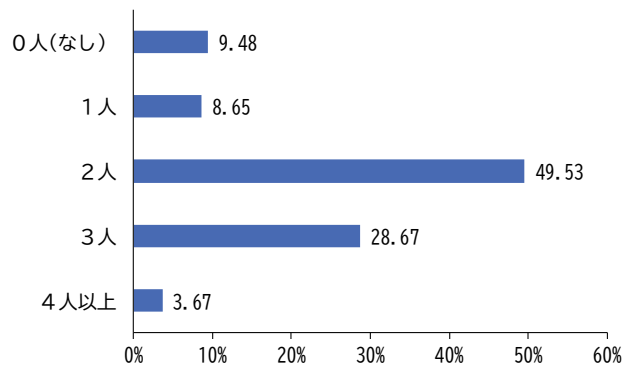
■単純集計

理想の子ども数は「2人」が約5割、「3人」が約3割

図表 3-110 は、理想の子ども数の単純集計の結果である。

「2人」が49.53%と最大の値を示し、次いで「3人」は28.67%、「0人」は9.48%、「1人」は8.65%、「4人以上」は3.67%となっている。

図表 3-110 理想子ども数 (n=844) (SA)



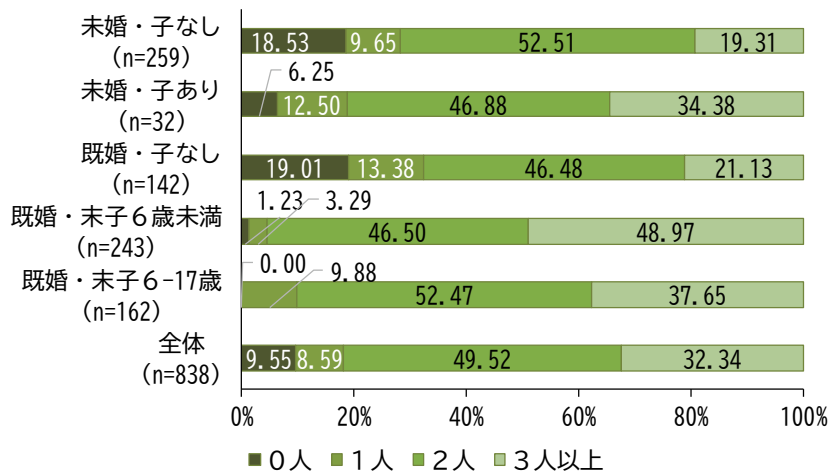
■クロス集計

子どもと同居していない世帯より、子どもと同居している世帯の人の方が理想子ども数が多い

図表 3-111 は、世帯類型と理想の子ども数のクロス集計の結果である。

「2人」と「3人以上」を合計した割合をみると、「既婚・末子6歳未満」が95.47% (46.50+48.97)と最大の値を示し、次いで「既婚・末子6-17歳」は90.12% (52.47+37.65)、「未婚・子あり」は81.25% (46.88+34.38)、「未婚・子なし」は71.81% (52.51+19.31)、「既婚・子なし」は67.61% (46.48+21.13) となっている。

図表 3-111 世帯類型別理想子ども数



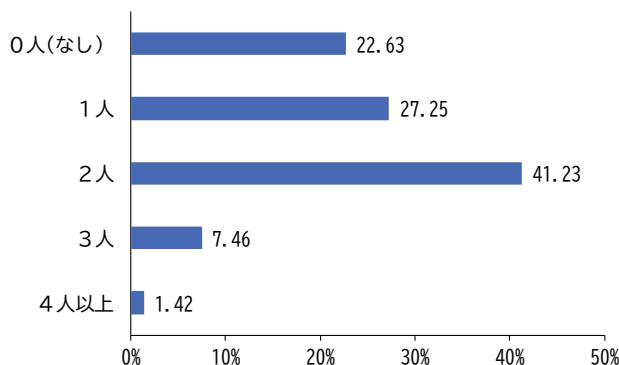
イ 予定子ども数 (実際に持つつもりの子どもの人数)

■単純集計

- ・ 予定の子ども数は「2人」が約4割、「1人」が約3割
- ・ 区民女性 (既婚者) は全国と比較して、平均理想子ども数と平均予定子ども数の差が大きく、平均予定子ども数は全国を下回っている

図表 3-112 は、予定の子ども数（実際に持つつもりの子どもの人数）の単純集計の結果である。
「2人」が41.23%と最大の値を示し、次いで「1人」は27.25%、「0人」は22.63%、「3人」は7.46%、
「4人以上」は1.42%となっている。

図表 3-112 予定子ども数 (n=844) (SA)



また、理想子ども数と予定子ども数の平均値を図表 3-113 に示した。

平均理想子ども数は、全体が 2.10 人であり、属性別にみると、既婚者が 2.26 人と最大の値を示し、次いで 35 歳未満の人は 2.10 人、35 歳未満の未婚者（一生結婚するつもりがない人を除く）は 1.96 人となっている。

平均予定子ども数は、全体が 1.38 人であり、属性別にみると、既婚者が 1.61 人と最大の値を示し、次いで 35 歳未満の人は 1.36 人、35 歳未満の未婚者（一生結婚するつもりがない人を除く）が 1.22 人となっている。

なお、国立社会保障・人口問題研究所が 2021 年に実施した第 16 回出生動向基本調査による全国値をみると、既婚者（妻の年齢 50 歳未満の初婚どうしの夫婦（回答者は妻））は平均理想子ども数が 2.25 人（n=4207）、平均予定子ども数は 2.01 人（n=4206）であり、未婚者（「いずれ結婚するつもり」と回答した 18～34 歳の女性）（n=1690）は平均理想（希望）子ども数が 1.79 人となっている。既婚者について港区の結果と比較すると、平均理想子ども数はほぼ同水準である一方、平均予定子ども数は、港区の方が全国より 0.40 人少ない。

図表 3-113 理想子ども数と予定子ども数の平均値

	理想子ども数	予定子ども数
全体(n=844)	2.10(1.01)	1.38(0.97)
35歳未満(n=297)	2.10(0.97)	1.36(0.91)
既婚者(n=553)	2.26(0.97)	1.61(0.89)
未婚者(n=291)	1.79(1.02)	0.93(0.96)
35歳未満の未婚者(n=146)	1.89(0.97)	1.16(0.98)
35歳未満の未婚者(一生結婚するつもりはない人を除く)(n=139)	1.96(0.89)	1.22(0.97)

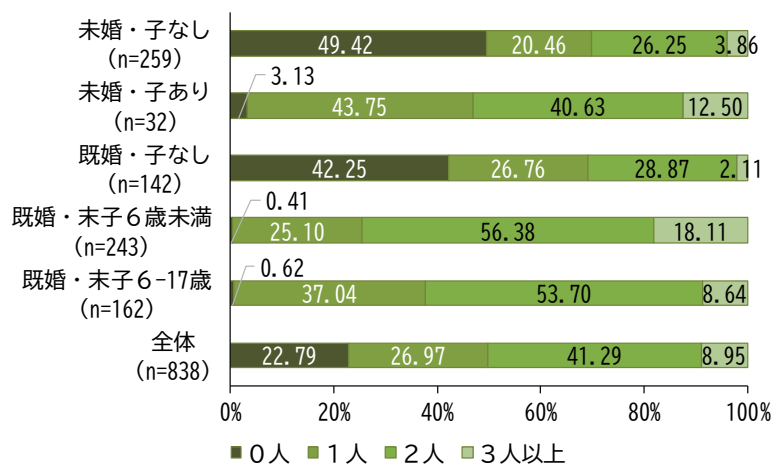
注：カッコ内は標準偏差。

■クロス集計
ア 世帯類型

子どもと同居している世帯の人は、予定子ども数が2人以上の割合が半数以上

図表3-114は、世帯類型と予定子ども数のクロス集計の結果である。
「2人」と「3人以上」を合計した割合をみると、「既婚・末子6歳未満」が74.49% (56.38+18.11)と最大の値を示し、次いで「既婚・末子6-17歳」は62.35% (53.70+8.64)、「未婚・子あり」は53.13% (40.63+12.50)、「既婚・子なし」は30.99% (28.87+2.11)、「未婚・子なし」は30.12% (26.25+3.86)となっている。

図表3-114 世帯類型別予定子ども数

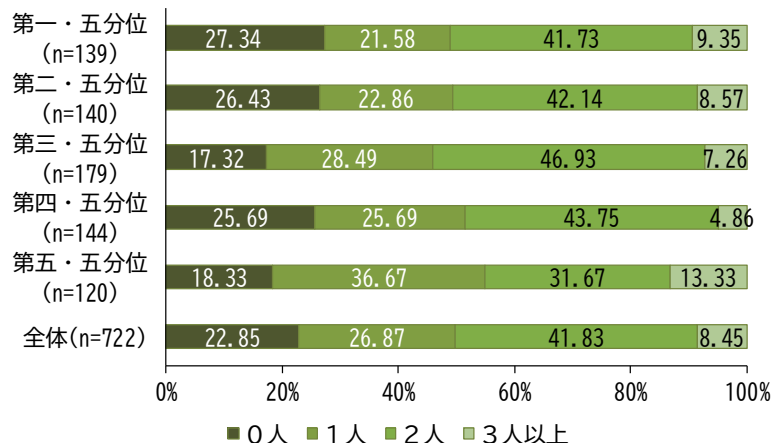


イ 世帯所得

世帯所得が多い世帯で予定子ども数が多い

図表3-115は、世帯所得と予定子ども数のクロス集計の結果である。
「3人以上」をみると、「第五・五分位」が13.33%と最大の値を示し、次いで「第一・五分位」は9.35%、「第二・五分位」は8.57%、「第三・五分位」は7.26%、「第四・五分位」は4.86%となっている。

図表3-115 世帯所得別予定子ども数



ウ 理想と予定の子ども数の差

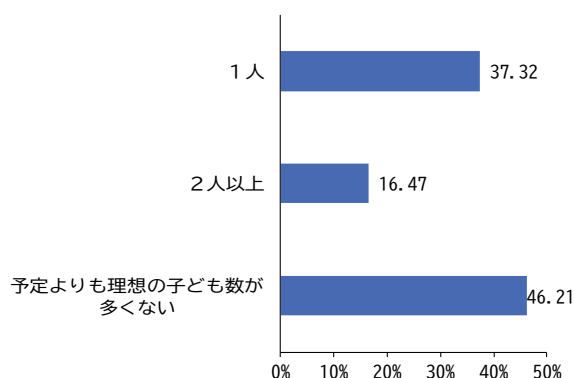
■単純集計

理想と予定の子ども数の差が生じているのは5割程度

図表3-116は、理想と予定の子ども数の差の単純集計の結果である。

「予定よりも理想の子ども数が多い」が46.21%と最大の値を示し、次いで「1人」は37.32%、「2人以上」は16.47%となっている。

図表3-116 理想と予定の子ども数の差 (n=844)



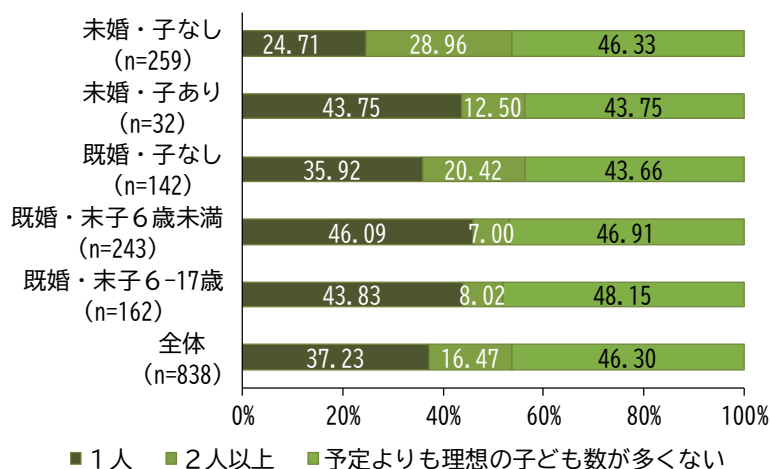
■クロス集計

子どもと同居していない人は、理想と予定の子ども数の差が2人以上の割合が高い

図表3-117は、世帯類型と理想と予定の子ども数の差のクロス集計の結果である。

理想と予定の格差が大きい「2人以上」（理想子ども数より予定子ども数が2人以上少ない）をみると、「未婚・子なし」が28.96%と最大の値を示し、次いで「既婚・子なし」は20.42%、「未婚・子あり」は12.50%、「既婚・末子6-17歳」は8.02%、「既婚・末子6歳未満」は7.00%となっている。

図表3-117 世帯類型別理想と予定の子ども数の差



(4) 子ども数の理想と予定の乖離理由

■単純集計

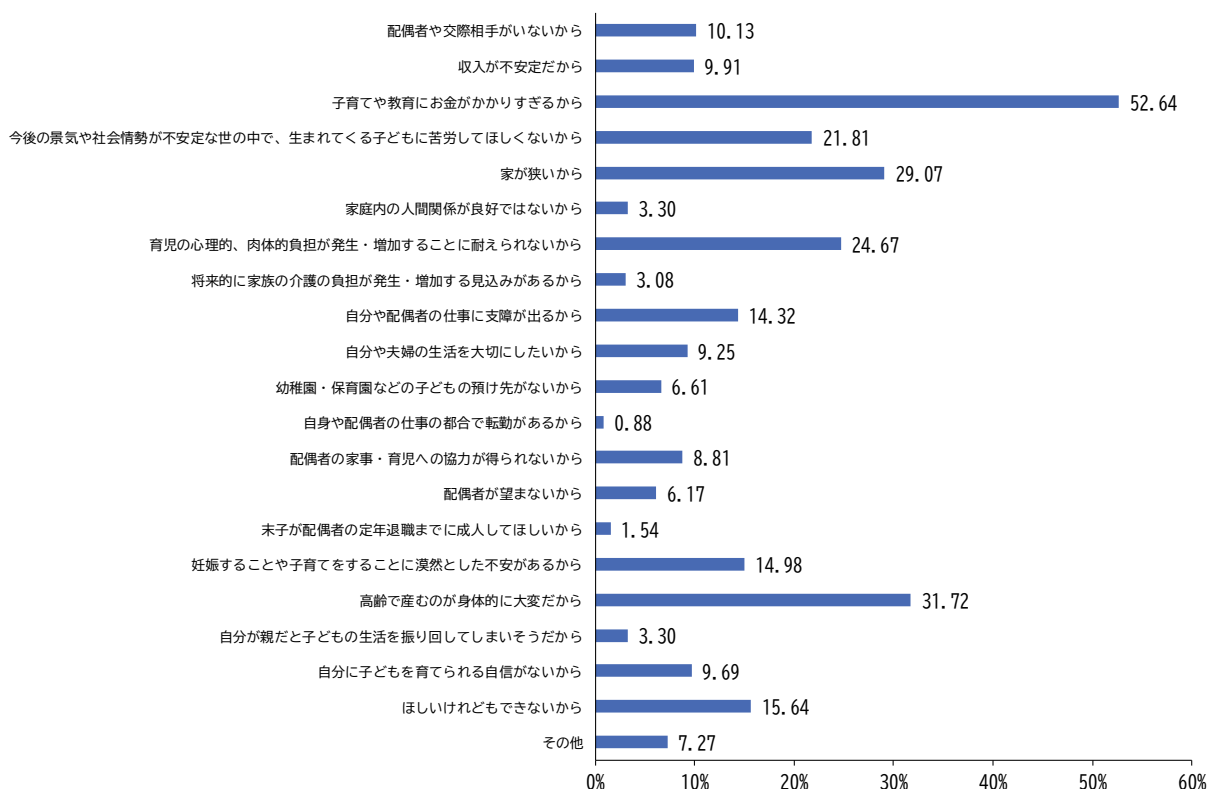
- ・経済的・身体的な理由の割合が比較的高い
- ・「今後の景気や社会情勢が不安定な世の中で、生まれてくる子どもに苦勞してほしくないから」と回答した割合も 21.81%と高い割合を示している

図表3-118は、子ども数の理想と予定の乖離理由の単純集計の結果である。本設問は、理想の子ども数よりも持つつもりの子どもの数（予定子ども数）が少ない人を対象としている。

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が52.64%と最大の値を示し、次いで「高齢で産むのが身体的に大変だから」は31.72%、「家が狭いから」は29.07%となっている。

なお、「第16回出生動向基本調査」（国立社会保障・人口問題研究所，2021年）の「夫婦が理想の数の子どもを持たない理由」では、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」「高齢で生むのはいやだから」「ほしいけれどもできないから」といった理由を選択している人の割合が高く、本調査結果と比較的同じ傾向となっている。一方で、本調査では独自に「今後の景気や社会情勢が不安定な世の中で、生まれてくる子どもに苦勞してほしくないから」という選択肢を設けており、21.81%と比較的高い割合となっている。

図表3-118 子ども数の理想と予定の乖離理由（n=454）（MA）



■クロス集計

ア 年齢

- ・主に経済的・身体的な理由において有意な差がみられた
- ・若年層は、経済的・心理的負担を理由とする一方、中年層は身体的負担を理由としている割合が多い

図表3-119は、年齢と子ども数の理想と予定の乖離理由のクロス集計の結果であり、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」「今後の景気や社会情勢が不安定な世の中で、生まれてくる子どもに苦労してほしくないから」「育児の心理的、肉体的負担が発生・増加することに耐えられないから」「幼稚園・保育園などの子どもの預け先がないから」「妊娠することや子育てをすることに漠然とした不安があるから」「高齢で産むのが身体的に大変だから」「自分が親だと子どもの生活を振り回してしまいそうだから」「自分に子どもを育てられる自信がないから」「ほしいけれどもできないから」で有意な差が示されている。

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」をみると、「20-29歳」が67.61%と最大の値を示し、次いで「30-34歳」は66.67%、「40-44歳」は47.96%、「35-39歳」は44.55%、「45-50歳」は42.27%となっている。

「今後の景気や社会情勢が不安定な世の中で、生まれてくる子どもに苦労してほしくないから」をみると、「20-29歳」が36.62%と最大の値を示し、次いで「30-34歳」は29.89%、「35-39歳」は22.77%、「40-44歳」は14.29%、「45-50歳」は10.31%となっている。

「育児の心理的、肉体的負担が発生・増加することに耐えられないから」をみると、「35-39歳」が34.65%と最大の値を示し、次いで「30-34歳」は33.33%、「40-44歳」は21.43%、「20-29歳」は18.31%、「45-50歳」は14.43%となっている。

「幼稚園・保育園などの子どもの預け先がないから」をみると、「20-29歳」が15.49%と最大の値を示し、次いで「30-34歳」は9.20%、「40-44歳」は6.12%、「35-39歳」は4.95%、「45-50歳」は0%となっている。

「妊娠することや子育てをすることに漠然とした不安があるから」をみると、「20-29歳」が33.80%と最大の値を示し、次いで「30-34歳」は24.14%、「40-44歳」は12.24%、「35-39歳」は8.91%、「45-50歳」は2.06%となっている。

「高齢で産むのが身体的に大変だから」をみると、「40-44歳」が48.98%と最大の値を示し、次いで「45-50歳」は42.27%、「35-39歳」は31.68%、「30-34歳」は22.99%、「20-29歳」は4.23%となっている。

「自分が親だと子どもの生活を振り回してしまいそうだから」をみると、「20-29歳」が9.86%と最大の値を示し、次いで「30-34歳」は3.45%、「40-44歳」は3.06%、「35-39歳」は1.98%、「45-50歳」は0%となっている。

「自分に子どもを育てられる自信がないから」をみると、「20-29歳」が16.90%と最大の値を示し、次いで「30-34歳」は14.94%、「35-39歳」は7.92%、「40-44歳」は6.12%、「45-50歳」は5.15%となっている。

「ほしいけれどもできないから」をみると、「45-50歳」が29.90%と最大の値を示し、次いで「40-44歳」は19.39%、「35-39歳」は12.87%、「30-34歳」は11.49%、「20-29歳」は0%となっている。

図表 3-119 年齢別子ども数の理想と予定の乖離理由 (%)

	配偶者や交際相手がいないから	収入が不安定だから	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	今後の景気や社会情勢が不安定な世の中で、生まれてくる子どもに苦労してほしいから	家が狭いから	家庭内の人間関係が良好ではないから	育児の心理的、肉体的負担が発生・増加することに耐えられないから	
20-29歳(n=71)	9.86	11.27	67.61	36.62	18.31	0.00	18.31	
30-34歳(n=87)	8.05	10.34	66.67	29.89	36.78	1.15	33.33	
35-39歳(n=101)	10.89	5.94	44.55	22.77	29.70	4.95	34.65	
40-44歳(n=98)	15.31	12.24	47.96	14.29	30.61	4.08	21.43	
45-50歳(n=97)	6.19	10.31	42.27	10.31	27.84	5.15	14.43	
全体(n=454)	10.13	9.91	52.64	21.81	29.07	3.30	24.67	
	将来的に家族の介護の負担が発生・増加する見込みがあるから	自分や配偶者の仕事に支障が出るから	自分や夫婦の生活を大切にしたいから	幼稚園・保育園などの子どもの預け先がないから	自身や配偶者の仕事の都合で転勤があるから	配偶者の家事・育児への協力が得られないから	配偶者が望まないから	
20-29歳(n=71)	1.41	16.90	14.08	15.49	2.82	1.41	4.23	
30-34歳(n=87)	4.60	18.39	13.79	9.20	0.00	13.79	3.45	
35-39歳(n=101)	1.98	14.85	8.91	4.95	0.99	7.92	8.91	
40-44歳(n=98)	2.04	15.31	6.12	6.12	0.00	12.24	7.14	
45-50歳(n=97)	5.15	7.22	5.15	0.00	1.03	7.22	6.19	
全体(n=454)	3.08	14.32	9.25	6.61	0.88	8.81	6.17	
	末子が配偶者の定年退職までに成人してほしいから	妊娠することや子育てをすることに漠然とした不安があるから	高齢で産むのが身体的に大変だから	自分が親だと子どもの生活を振り回してしまいたいから	自分に子どもを育てられる自信がないから	ほしいけれどもできないから	その他	
20-29歳(n=71)	0.00	33.80	4.23	9.86	16.90	0.00	5.63	
30-34歳(n=87)	0.00	24.14	22.99	3.45	14.94	11.49	6.90	
35-39歳(n=101)	0.99	8.91	31.68	1.98	7.92	12.87	4.95	
40-44歳(n=98)	2.04	12.24	48.98	3.06	6.12	19.39	9.18	
45-50歳(n=97)	4.12	2.06	42.27	0.00	5.15	29.90	9.28	
全体(n=454)	1.54	14.98	31.72	3.30	9.69	15.64	7.27	

注：下線部は5%水準の有意確率(p.<0.05)。

イ 居住地区

「配偶者や交際相手がいないから」は「芝地区」で、「自分や配偶者の仕事に支障が出るから」は「高輪地区」で最も高い

図表 3-120 は、居住地区と子ども数の理想と予定の乖離理由のクロス集計の結果であり、「配偶者や交際相手がいないから」「自分や配偶者の仕事に支障が出るから」で有意な差が示されている。

「配偶者や交際相手がいないから」をみると、「芝地区」が18.00%と最大の値を示し、次いで「高輪地区」は10.42%、「麻布地区」は9.64%、「赤坂地区」は8.77%、「芝浦港南地区」は4.24%となっている。

「自分や配偶者の仕事に支障が出るから」をみると、「高輪地区」が21.88%と最大の値を示し、次いで「芝地区」は18.00%、「麻布地区」は12.05%、「芝浦港南地区」は9.32%、「赤坂地区」は8.77%となっている。

図表 3-120 居住地区別子ども数の理想と予定の乖離理由（％）

	配偶者や交際相手がいないから	収入が不安定だから	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	今後の景気や社会情勢が不安定な世の中で、生まれてくる子どもに苦勞してほしくないから	家が狭いから	家庭内の人間関係が良好ではないから	育児の心理的、肉体的負担が発生・増加することに耐えられないから	
芝地区(n=100)	18.00	10.00	56.00	27.00	25.00	3.00	22.00	
麻布地区(n=83)	9.64	9.64	50.60	20.48	27.71	1.20	21.69	
赤坂地区(n=57)	8.77	14.04	50.88	17.54	26.32	3.51	33.33	
高輪地区(n=96)	10.42	8.33	47.92	17.71	32.29	3.13	25.00	
芝浦港南地区(n=118)	4.24	9.32	55.93	23.73	32.20	5.08	24.58	
全体(n=454)	10.13	9.91	52.64	21.81	29.07	3.30	24.67	
	将来的に家族の介護の負担が発生・増加する見込みがあるから	自分や配偶者の仕事に支障が出るから	自分や夫婦の生活を大切にしたいから	幼稚園・保育園などの子どもの預け先がないから	自身や配偶者の仕事の都合で転勤があるから	配偶者の家事・育児への協力が得られないから	配偶者が望まないから	
芝地区(n=100)	4.00	18.00	10.00	6.00	0.00	8.00	3.00	
麻布地区(n=83)	0.00	12.05	12.05	7.23	1.20	8.43	10.84	
赤坂地区(n=57)	3.51	8.77	8.77	1.75	0.00	15.79	7.02	
高輪地区(n=96)	5.21	21.88	6.25	10.42	0.00	8.33	7.29	
芝浦港南地区(n=118)	2.54	9.32	9.32	5.93	2.54	6.78	4.24	
全体(n=454)	3.08	14.32	9.25	6.61	0.88	8.81	6.17	
	末子が配偶者の定年退職までに成人してほしいから	妊娠することや子育てをすることに漠然とした不安があるから	高齢で産むのが身体的に大変だから	自分が親だと子どもの生活を振り回してしまいそうだから	自分に子どもを育てられる自信がないから	ほしいけれどもできないから	その他	
芝地区(n=100)	1.00	22.00	38.00	4.00	14.00	11.00	5.00	
麻布地区(n=83)	0.00	14.46	32.53	4.82	10.84	14.46	6.02	
赤坂地区(n=57)	1.75	17.54	26.32	5.26	12.28	17.54	10.53	
高輪地区(n=96)	3.13	8.33	35.42	0.00	6.25	22.92	8.33	
芝浦港南地区(n=118)	1.69	13.56	25.42	3.39	6.78	13.56	7.63	
全体(n=454)	1.54	14.98	31.72	3.30	9.69	15.64	7.27	

注：下線部は5％水準の有意確率(p.<0.05)。

ウ 世帯類型

- ・半数以上の項目で有意な差がみられた
- ・子どもと同居している人の回答割合が高いのは、子育てや教育の費用負担、家の狭さ、育児の心理的・肉体的負担、配偶者の家事・育児への協力度、ほしいけれどもできないといった理由である

図表 3-121 は、世帯類型と子ども数の理想と予定の乖離理由のクロス集計の結果であり、「配偶者や交際相手がいないから」「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」「今後の景気や社会情勢が不安定な世の中で、生まれてくる子どもに苦勞してほしくないから」「家が狭いから」「育児の心理的、肉体的負担が発生・増加することに耐えられないから」「自分や配偶者の仕事に支障が出るから」「自分や夫婦の生活を大切にしたいから」「幼稚園・保育園などの子どもの預け先がないから」「配偶者の家事・育児への協力が得られないから」「末子が配偶者の定年退職までに成人してほしいから」「妊娠することや子育てをすることに漠然とした不安があるから」「自分が親だと子どもの生活を振り回してしまいそうだから」「自分に子どもを育てられる自信がないから」「ほしいけれどもできないから」「その他」で有意な差が示されている。

「配偶者や交際相手がいないから」をみると、「未婚・子なし」が28.78%と最大の値を示し、次いで「未婚・子あり」は27.78%、「既婚・末子6歳未満」は0.78%、「既婚・子なし」と「既婚・末子6-17歳」は0%となっている。

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」をみると、「既婚・末子6歳未満」が65.12%と最大の値を示し、次いで「未婚・子あり」は61.11%、「既婚・末子6-17歳」は51.19%、「未婚・子なし」は45.32%、「既婚・子なし」は45.00%となっている。

「今後の景気や社会情勢が不安定な世の中で、生まれてくる子どもに苦勞してほしくないから」

をみると、「既婚・子なし」が26.25%と最大の値を示し、次いで「未婚・子なし」は25.90%、「既婚・末子6歳未満」は24.03%、「未婚・子あり」は16.67%、「既婚・末子6-17歳」は9.52%となっている。

「家が狭いから」をみると、「既婚・末子6歳未満」が44.96%と最大の値を示し、次いで「既婚・末子6-17歳」は38.10%、「未婚・子あり」は33.33%、「既婚・子なし」は26.25%、「未婚・子なし」は10.79%となっている。

「育児の心理的、肉体的負担が発生・増加することに耐えられないから」をみると、「既婚・末子6歳未満」が34.88%と最大の値を示し、次いで「未婚・子あり」は27.78%、「既婚・末子6-17歳」は26.19%、「未婚・子なし」は18.71%、「既婚・子なし」は16.25%となっている。

「自分や配偶者の仕事に支障が出るから」をみると、「既婚・末子6歳未満」が22.48%と最大の値を示し、次いで「既婚・子なし」は18.75%、「未婚・子あり」は11.11%、「未婚・子なし」は10.07%、「既婚・末子6-17歳」は5.95%となっている。

「自分や夫婦の生活を大切にしたいから」をみると、「既婚・子なし」が15.00%と最大の値を示し、次いで「未婚・子なし」は12.95%、「既婚・末子6歳未満」は6.20%、「既婚・末子6-17歳」は4.76%、「未婚・子あり」が0%となっている。

「幼稚園・保育園などの子どもの預け先がないから」をみると、「既婚・子なし」が12.50%と最大の値を示し、次いで「未婚・子なし」は9.35%、「未婚・子あり」は5.56%、「既婚・末子6歳未満」は4.65%、「既婚・末子6-17歳」は0%となっている。

「配偶者の家事・育児への協力が得られないから」をみると、「既婚・末子6-17歳」が16.67%と最大の値を示し、次いで「既婚・末子6歳未満」は12.40%、「未婚・子あり」は11.11%、「既婚・子なし」は6.25%、「未婚・子なし」は2.16%となっている。

「末子が配偶者の定年退職までに成人してほしいから」をみると、「既婚・末子6-17歳」が4.76%と最大の値を示し、次いで「既婚・末子6歳未満」は2.33%、その他の世帯は0%となっている。

「妊娠することや子育てをすることに漠然とした不安があるから」をみると、「既婚・子なし」が25.00%と最大の値を示し、次いで「未婚・子なし」は23.74%、「既婚・末子6歳未満」は7.75%、「未婚・子あり」は5.56%、「既婚・末子6-17歳」は4.76%となっている。

「自分が親だと子どもの生活を振り回してしまいそうだから」をみると、「未婚・子なし」が7.19%と最大の値を示し、次いで「未婚・子あり」は5.56%、「既婚・子なし」は2.50%、「既婚・末子6-17歳」は1.19%、「既婚・末子6歳未満」は0.78%となっている。

「自分に子どもを育てられる自信がないから」をみると、「未婚・子なし」が19.42%と最大の値を示し、次いで「未婚・子あり」は11.11%、「既婚・子なし」は8.75%、「既婚・末子6歳未満」は4.65%、「既婚・末子6-17歳」は1.19%となっている。

「ほしいけれどもできないから」をみると、「既婚・子なし」が28.75%と最大の値を示し、次いで「既婚・末子6-17歳」は23.81%、「未婚・子あり」は16.67%、「未婚・子なし」は8.63%、「既婚・末子6歳未満」は8.53%となっている。

「その他」をみると、「未婚・子あり」が22.22%と最大の値を示し、次いで「既婚・末子6歳未満」は7.75%、「既婚・子なし」は7.50%、「既婚・末子6-17歳」は5.95%、「未婚・子なし」は5.76%となっている。

図表 3-121 世帯類型別子ども数の理想と予定の乖離理由（％）

	配偶者や交際相手がいないから	収入が不安定だから	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	今後の景気や社会情勢が不安定な世の中で、生まれてくる子どもに苦労してほしいから	家が狭いから	家庭内の人間関係が良好ではないから	育児の心理的、肉体的負担が発生・増加することに耐えられないから	
未婚・子なし(n=139)	28.78	15.83	45.32	25.90	10.79		0.72	18.71
未婚・子あり(n=18)	27.78	11.11	61.11	16.67	33.33		5.56	27.78
既婚・子なし(n=80)	0.00	5.00	45.00	26.25	26.25		3.75	16.25
既婚・未子6歳未満(n=129)	0.78	7.75	65.12	24.03	44.96		3.88	34.88
既婚・未子6-17歳(n=84)	0.00	7.14	51.19	9.52	38.10		5.95	26.19
全体(n=450)	10.22	9.78	52.67	22.00	29.33		3.33	24.67
	将来的に家族の介護の負担が発生・増加する見込みがあるから	自分や配偶者の仕事に支障が出るから	自分や夫婦の生活を大切にしたいから	幼稚園・保育園などの子どもの預け先がないから	自身や配偶者の仕事の都合で転勤があるから	配偶者の家事・育児への協力が得られないから	配偶者が望まないから	
未婚・子なし(n=139)	4.32	10.07	12.95	9.35	1.44		2.16	1.44
未婚・子あり(n=18)	0.00	11.11	0.00	5.56	0.00		11.11	5.56
既婚・子なし(n=80)	1.25	18.75	15.00	12.50	0.00		6.25	7.50
既婚・未子6歳未満(n=129)	3.10	22.48	6.20	4.65	0.78		12.40	8.53
既婚・未子6-17歳(n=84)	3.57	5.95	4.76	0.00	1.19		16.67	9.52
全体(n=450)	3.11	14.44	9.33	6.67	0.89		8.89	6.22
	未子が配偶者の定年退職までに成人してほしいから	妊娠することや子育てをすることに漠然とした不安があるから	高齢で産むのが身体的に大変だから	自分が親だと子どもの生活を振り回してしまいたいから	自分に子どもを育てられる自信がないから	ほしいけれどもできないから	その他	
未婚・子なし(n=139)	0.00	23.74	29.50	7.19	19.42		8.63	5.76
未婚・子あり(n=18)	0.00	5.56	38.89	5.56	11.11		16.67	22.22
既婚・子なし(n=80)	0.00	25.00	23.75	2.50	8.75		28.75	7.50
既婚・未子6歳未満(n=129)	2.33	7.75	38.76	0.78	4.65		8.53	7.75
既婚・未子6-17歳(n=84)	4.76	4.76	32.14	1.19	1.19		23.81	5.95
全体(n=450)	1.56	15.11	32.00	3.33	9.56		15.33	7.33

注：下線部は5％水準の有意確率(p.<0.05)。

エ 世帯所得

- ・「配偶者や交際相手がいないから」「収入が不安定だから」「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」で有意な差がみられ、理想と予定の子ども数の乖離は、おおむね低所得者層で経済的な理由を挙げる割合が高い

図表 3-122 は、世帯所得と子ども数の理想と予定の乖離理由のクロス集計の結果であり、「配偶者や交際相手がいないから」「収入が不安定だから」「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」で有意な差が示されている。

「配偶者や交際相手がいないから」をみると、「第一・五分位」が17.81％と最大の値を示し、次いで「第二・五分位」が13.58％、「第五・五分位」が6.15％、「第三・五分位」が5.26％、「第四・五分位」が5.06％となっている。

「収入が不安定だから」をみると、「第一・五分位」が24.66％と最大の値を示し、次いで「第二・五分位」が11.11％、「第三・五分位」が7.37％、「第四・五分位」が2.53％、「第五・五分位」が1.54％となっている。

「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」をみると、「第三・五分位」が66.32％と最大の値を示し、次いで「第一・五分位」が61.64％、「第四・五分位」が48.10％、「第二・五分位」が46.91％、「第五・五分位」が36.92％となっている。

図表 3-122 世帯所得別子ども数の理想と予定の乖離理由（％）

	配偶者や交際相手が いないから	収入が不安定だから	子育てや教育にお金 がかかりすぎるから	今後の景気や社会情 勢が不安定な世の中 で、生まれてくる子 どもに苦労してほし くないから	家が狭いから	家庭内の人間関係が 良好ではないから	育児の心理的、肉体的 負担が発生・増加 することに耐えられ ないから	
第一・五分位(n=73)	17.81	24.66	61.64	26.03	27.40	2.74	19.18	
第二・五分位(n=81)	13.58	11.11	46.91	23.46	19.75	1.23	18.52	
第三・五分位(n=95)	5.26	7.37	66.32	24.21	32.63	7.37	30.53	
第四・五分位(n=79)	5.06	2.53	48.10	16.46	32.91	3.80	31.65	
第五・五分位(n=65)	6.15	1.54	36.92	12.31	38.46	0.00	23.08	
全体(n=393)	9.41	9.41	52.93	20.87	30.03	3.31	24.94	
	将来的に家族の介護 の負担が発生・増加 する見込みがあるか ら	自分や配偶者の仕事 に支障が出るから	自分や夫婦の生活を 大切にしたいから	幼稚園・保育園など の子どもの預け先が ないから	自身や配偶者の仕事 の都合で転勤がある から	配偶者の家事・育児 への協力が得られな いから	配偶者が望まないか ら	
第一・五分位(n=73)	1.37	10.96	12.33	8.22	1.37	4.11	4.11	
第二・五分位(n=81)	2.47	8.64	3.70	7.41	0.00	11.11	6.17	
第三・五分位(n=95)	2.11	20.00	10.53	7.37	1.05	10.53	6.32	
第四・五分位(n=79)	5.06	17.72	11.39	5.06	1.27	6.33	5.06	
第五・五分位(n=65)	3.08	18.46	12.31	0.00	0.00	12.31	9.23	
全体(n=393)	2.80	15.27	9.92	5.85	0.76	8.91	6.11	
	末子が配偶者の定年 退職までに成人して ほしいから	妊娠することや子育 てをすることに漠然 とした不安があるか ら	高齢で産むのが身体 的に大変だから	自分が親だと子ども の生活を振り回して しまいそうだから	自分に子どもを育て られる自信がないか ら	ほしいけれどもでき ないから	その他	
第一・五分位(n=73)	0.00	19.18	31.51	6.85	12.33	9.59	4.11	
第二・五分位(n=81)	0.00	17.28	30.86	4.94	12.35	9.88	4.94	
第三・五分位(n=95)	3.16	15.79	33.68	2.11	8.42	18.95	7.37	
第四・五分位(n=79)	2.53	16.46	37.97	1.27	6.33	16.46	10.13	
第五・五分位(n=65)	3.08	6.15	30.77	0.00	6.15	23.08	7.69	
全体(n=393)	1.78	15.27	33.08	3.05	9.16	15.52	6.87	

注：下線部は5％水準の有意確率(p.<0.05)。

（５）理想の子育て方法

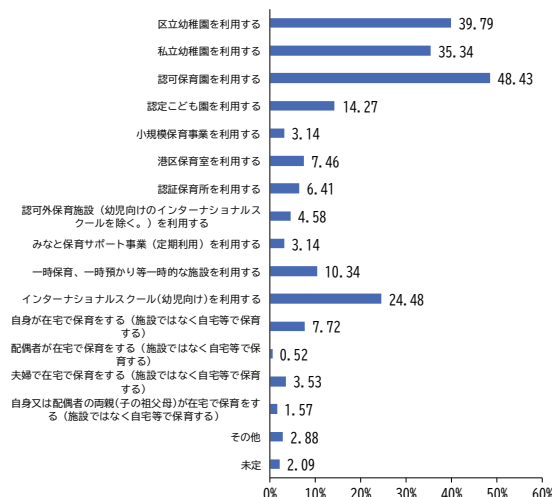
■単純集計

「認可保育園を利用する」が約半数

図表 3-123 は、理想の子育て方法の単純集計の結果である。本設問は理想子ども数１人以上の人を対象としており、すでに小学生以上の子どもがいる場合は、就学前の子どもを改めて子育てすることを想像して回答してもらっている。

「認可保育園を利用する」が48.43％と最大の値を示し、次いで「区立幼稚園を利用する」は39.79％、「私立幼稚園を利用する」は35.34％となっている。

図表 3-123 理想の子育て方法（n=764）（最大で上位３つを選択）



■クロス集計

ア 年齢

- ・「区立幼稚園を利用する」「私立幼稚園を利用する」「インターナショナルスクール（幼児向け）を利用する」で有意な差がみられた
- ・20歳代は「区立幼稚園を利用する」ことを理想の子育て方法とする割合が高く、30歳代は「インターナショナルスクール（幼児向け）を利用する」ことを理想の子育て方法とする割合が高い

図表3-124は、年齢と理想の子育て方法のクロス集計の結果であり、「区立幼稚園を利用する」「私立幼稚園を利用する」「インターナショナルスクール（幼児向け）を利用する」で有意な差が示されている。

「区立幼稚園を利用する」をみると、「20-29歳」が59.54%と最大の値を示し、次いで「30-34歳」は41.43%、「45-50歳」は39.47%、「40-44歳」は32.50%、「35-39歳」は30.94%となっている。

「私立幼稚園を利用する」をみると、「35-39歳」が41.99%と最大の値を示し、次いで「45-50歳」は38.82%、「20-29歳」は37.40%、「30-34歳」は30.00%、「40-44歳」は27.50%となっている。

「インターナショナルスクール（幼児向け）を利用する」をみると、「35-39歳」が32.04%と最大の値を示し、次いで「30-34歳」は27.86%、「45-50歳」は23.68%、「40-44歳」は18.75%、「20-29歳」は18.32%となっている。

図表3-124 年齢別理想の子育て方法（%）

	区立幼稚園を利用 する	私立幼稚園を利用 する	認可保育園を利用 する	認定こども園を利用 する	小規模保育事業を 利用する	港区保育室を利用する	認証保育所を利用する	認可外保育施設（幼児向け のインターナショナル スクールを除く。）を利用 する	みなと保育サポート事 業（定期利用）を利用 する	
20-29歳(n=131)	59.54	37.40	41.98	12.21	4.58	2.29	3.05	0.00	1.53	
30-34歳(n=140)	41.43	30.00	56.43	15.71	2.86	10.00	8.57	5.71	5.00	
35-39歳(n=181)	30.94	41.99	48.62	13.81	4.42	5.52	5.52	6.08	1.10	
40-44歳(n=160)	32.50	27.50	51.88	16.88	1.88	9.38	7.50	5.63	5.63	
45-50歳(n=152)	39.47	38.82	42.76	12.50	1.97	9.87	7.24	4.61	2.63	
全体(n=764)	39.79	35.34	48.43	14.27	3.14	7.46	6.41	4.58	3.14	
一時保育、一時預かり 等一時的な施設を利用 する	インターナショナル スクール(幼児向け)を利用 する		自身が在宅で保育を する（施設ではなく自宅 等で保育する）	配偶者が在宅で保育を する（施設ではなく自宅 等で保育する）	夫婦で在宅で保育を する（施設ではなく自宅 等で保育する）	自身又は配偶者の両親（子の 祖父母）が在宅で保育を する（施設ではなく自宅等 で保育する）	その他	未定		
20-29歳(n=131)	7.63	18.32	8.40	0.76	4.58	3.05	3.82	3.82		
30-34歳(n=140)	7.86	27.86	9.29	0.71	2.86	2.14	2.14	2.14		
35-39歳(n=181)	9.94	32.04	7.73	0.55	4.97	1.10	2.21	1.10		
40-44歳(n=160)	12.50	18.75	7.50	0.63	3.75	0.63	3.13	3.13		
45-50歳(n=152)	13.16	23.68	5.92	0.00	1.32	1.32	3.29	0.66		
全体(n=764)	10.34	24.48	7.72	0.52	3.53	1.57	2.88	2.09		

注：下線部は5%水準の有意確率(p.<0.05)。

イ 居住地区

- ・「区立幼稚園を利用する」「私立幼稚園を利用する」「認可保育園を利用する」「認定こども園を利用する」「港区保育室を利用する」で有意な差がみられた
- ・「芝浦港南地区」は「区立幼稚園」と「私立幼稚園」の割合が低い一方、「認可保育園」と「認定こども園」の割合が高い
- ・「麻布地区」は、「区立幼稚園」と「認可保育園」の割合が低い一方、「私立幼稚園」の割合が高い

図表3-125は、居住地区と理想の子育て方法のクロス集計の結果であり、「区立幼稚園を利用する」「私立幼稚園を利用する」「認可保育園を利用する」「認定こども園を利用する」「港区保育室を利用する」で有意な差が示されている。

「区立幼稚園を利用する」をみると、「赤坂地区」が49.02%と最大の値を示し、次いで「芝地区」

は 46.45%、「高輪地区」は 40.57%、「麻布地区」は 34.03%、「芝浦港南地区」は 32.98%となっている。

「私立幼稚園を利用する」をみると、「麻布地区」が 43.75%と最大の値を示し、次いで「高輪地区」は 37.14%、「芝地区」は 36.13%、「赤坂地区」は 34.31%、「芝浦港南地区」は 27.13%となっている。

「認可保育園を利用する」をみると、「芝地区」が 54.84%と最大の値を示し、次いで「芝浦港南地区」は 54.79%、「赤坂地区」は 48.04%、「高輪地区」は 46.86%、「麻布地区」は 35.42%となっている。

「認定こども園を利用する」をみると、「芝浦港南地区」が 22.87%と最大の値を示し、「麻布地区」は 13.19%、「高輪地区」は 12.57%、「赤坂地区」は 9.80%、「芝地区」は 9.68%となっている。

「港区保育室を利用する」をみると、「芝浦港南地区」が 10.64%と最大の値を示し、次いで「赤坂地区」は 9.80%、「高輪地区」は 9.14%、「麻布地区」は 4.17%、「芝地区」は 3.23%となっている。

図表 3-125 居住地区別理想の子育て方法（%）

	区立幼稚園を利用する	私立幼稚園を利用する	認可保育園を利用する	認定こども園を利用する	小規模保育事業を利用する	港区保育室を利用する	認証保育所を利用する	認可外保育施設（幼児向けのインターナショナルスクールを除く。）を利用する	みなと保育サポート事業（定期利用）を利用する	
芝地区(n=155)	46.45	36.13	54.84	9.68	4.52	3.23	7.10	4.52	4.52	
麻布地区(n=144)	34.03	43.75	35.42	13.19	2.08	4.17	4.17	3.47	2.78	
赤坂地区(n=102)	49.02	34.31	48.04	9.80	1.96	9.80	2.94	0.98	1.96	
高輪地区(n=175)	40.57	37.14	46.86	12.57	3.43	9.14	7.43	5.71	3.43	
芝浦港南地区(n=188)	32.98	27.13	54.79	22.87	3.19	10.64	8.51	6.38	2.66	
全体(n=764)	39.79	35.34	48.43	14.27	3.14	7.46	6.41	4.58	3.14	
	一時保育、一時預かり等 一時的な施設を利用する	インターナショナル スクール（幼児向け）を利用 する	自身が在宅で保育をする （施設ではなく自宅等で 保育する）	配偶者が在宅で保育をす る（施設ではなく自宅等 で保育する）	夫婦で在宅で保育をする （施設ではなく自宅等で 保育する）	自身又は配偶者の両親（子の 祖父母）が在宅で保育をする （施設ではなく自宅等で保 育する）	その他	未定		
芝地区(n=155)	7.74	24.52	5.81	0.00	1.94	2.58	3.23	2.58		
麻布地区(n=144)	12.50	31.25	13.19	0.00	4.86	0.69	1.39	0.69		
赤坂地区(n=102)	6.86	21.57	7.84	0.00	4.90	1.96	3.92	2.94		
高輪地区(n=175)	13.71	22.29	6.86	1.71	3.43	2.29	2.86	2.86		
芝浦港南地区(n=188)	9.57	22.87	5.85	0.53	3.19	0.53	3.19	1.60		
全体(n=764)	10.34	24.48	7.72	0.52	3.53	1.57	2.88	2.09		

注：下線部は 5%水準の有意確率(p.<0.05)。

ウ 世帯類型

- ・「認可外保育施設（幼児向けのインターナショナルスクールを除く。）」と「一時保育、一時預かり等一時的な施設」は子どもと同居している人の回答割合が高く、「認可保育園」は未婚で子どもと同居している人と既婚で末子が6歳未満の人の割合が高い
- ・「子の祖父母による在宅保育」を理想としている割合が高いのは、子どもと同居していない人

図表 3-126 は、世帯類型と理想の子育て方法のクロス集計の結果であり、「区立幼稚園を利用する」「認可保育園を利用する」「認可外保育施設（幼児向けのインターナショナルスクールを除く。）を利用する」「一時保育、一時預かり等一時的な施設を利用する」「自身又は配偶者の両親（子の祖父母）が在宅で保育をする（施設ではなく自宅等で保育する）」「未定」で有意な差が示されている。

「区立幼稚園を利用する」をみると、「未婚・子なし」が 51.18%と最大の値を示し、次いで「既婚・末子 6-17 歳」は 46.91%、「既婚・子なし」は 34.78%、「未婚・子あり」は 30.00%、「既婚・末子 6 歳未満」は 29.17%となっている。

「認可保育園を利用する」をみると、「未婚・子あり」が 60.00%と最大の値を示し、次いで「既婚・末子 6 歳未満」は 59.17%、「既婚・子なし」は 53.04%、「未婚・子なし」は 40.76%、「既婚・末子 6-17 歳」は 37.04%となっている。

「認可外保育施設（幼児向けのインターナショナルスクールを除く。）を利用する」をみると、「既婚・末子 6 歳未満」は 9.17%と最大の値を示し、次いで「既婚・末子 6-17 歳」は 4.32%、「未婚・子あり」は 3.33%、「未婚・子なし」は 1.90%、「既婚・子なし」は 0.87%となっている。

「一時保育、一時預かり等一時的な施設を利用する」をみると、「既婚・末子6歳未満」が14.17%と最大の値を示し、次いで「既婚・末子6-17歳」は12.96%、「既婚・子なし」は9.57%、「未婚・子なし」は5.69%、「未婚・子あり」は3.33%となっている。

「自身又は配偶者の両親（子の祖父母）が在宅で保育をする（施設ではなく自宅等で保育する）」をみると、「既婚・子なし」が3.48%と最大の値を示し、次いで「未婚・子なし」は3.32%、「既婚・末子6歳未満」は0.42%、「未婚・子あり」と「既婚・末子6-17歳」は0%となっている。

「未定」をみると、「既婚・子なし」が6.09%と最大の値を示し、次いで「未婚・子なし」は3.32%、「既婚・末子6-17歳」は0.62%、「既婚・末子6歳未満」は0.42%、「未婚・子あり」は0%となっている。

図表 3-126 世帯類型別理想の子育て方法（%）

	区立幼稚園を利用 する	私立幼稚園を利用 する	認可保育園を利用 する	認定こども園を利用 する	小規模保育事業を 利用する	港区保育室を利用 する	認証保育所を利用 する	認可外保育施設（幼 児向けのインターナ ショナルスクールを 除く）を利用する	みなと保育サポ ート事業（定期利 用）を利用する
未婚・子なし(n=211)	51.18	31.75	40.76	9.48	4.27	6.64	4.74	1.90	2.84
未婚・子あり(n=30)	30.00	30.00	60.00	13.33	0.00	10.00	10.00	3.33	3.33
既婚・子なし(n=115)	34.78	29.57	53.04	13.04	4.35	10.43	6.09	0.87	6.96
既婚・末子6歳未満(n=240)	29.17	37.50	59.17	18.75	3.33	7.08	7.92	9.17	1.67
既婚・末子6-17歳(n=162)	46.91	41.36	37.04	14.20	1.23	6.17	6.17	4.32	3.09
全体(n=758)	39.97	35.22	48.42	14.12	3.17	7.39	6.46	4.62	3.17
	一時保育、一時預かり 等一時的な施設を利用 する	インターナショナルス クール（幼児向け）を利 用する	自身が在宅で保育をす る（施設ではなく自宅 等で保育する）	配偶者が在宅で保育を する（施設ではなく自 宅等で保育する）	夫婦で在宅で保育をす る（施設ではなく自宅 等で保育する）	自身又は配偶者の両親 （子の祖父母）が在宅で保 育をする（施設ではなく 自宅等で保育する）	その他	未定	
未婚・子なし(n=211)	5.69	23.70	7.11	0.95	4.74	3.32	3.79	3.32	
未婚・子あり(n=30)	3.33	26.67	3.33	0.00	6.67	0.00	0.00	0.00	
既婚・子なし(n=115)	9.57	24.35	7.83	0.87	2.61	3.48	6.09	6.09	
既婚・末子6歳未満(n=240)	14.17	27.08	10.83	0.42	2.92	0.42	1.25	0.42	
既婚・末子6-17歳(n=162)	12.96	22.22	4.94	0.00	3.09	0.00	2.47	0.62	
全体(n=758)	10.42	24.67	7.78	0.53	3.56	1.58	2.90	2.11	

注：下線部は5%水準の有意確率(p.<0.05)。

エ 世帯所得

- ・「認可保育園を利用する」「インターナショナルスクール（幼児向け）を利用する」で有意な差がみられた
- ・「認可保育園」を理想とする割合は、第二・五分位以上の世帯の人で約5～6割
- ・世帯所得が高い層で、「インターナショナルスクール（幼児向け）」を理想とする割合が高い

図表 3-127 は、世帯所得と理想の子育て方法のクロス集計の結果であり、「認可保育園を利用する」「インターナショナルスクール（幼児向け）を利用する」で有意な差が示されている。

「認可保育園を利用する」をみると、「第四・五分位」が60.63%と最大の値を示し、次いで「第二・五分位」は55.91%、「第五・五分位」は49.56%、「第三・五分位」は46.58%、「第一・五分位」は39.84%となっている。

「インターナショナルスクール（幼児向け）を利用する」をみると、「第五・五分位」が36.28%と最大の値を示し、次いで「第三・五分位」は27.95%、「第四・五分位」は21.26%、「第一・五分位」は20.33%、「第二・五分位」は15.75%となっている。

図表 3-127 世帯所得別理想の子育て方法（％）

	区立幼稚園を利用する	私立幼稚園を利用する	認可保育園を利用する	認定こども園を利用する	小規模保育事業を利用する	港区保育室を利用する	認証保育所を利用する	認可外保育施設（幼児向けのインターナショナルスクールを除く。）を利用する	みなと保育サポート事業（定期利用）を利用する	
第一・五分位(n=123)	47.97	31.71	39.84	16.26	4.88	9.76	3.25	4.07	3.25	
第二・五分位(n=127)	41.73	36.22	55.91	14.96	2.36	7.09	3.15	3.15	1.57	
第三・五分位(n=161)	33.54	31.06	46.58	14.29	1.24	8.07	8.07	6.21	4.97	
第四・五分位(n=127)	37.01	34.65	60.63	14.17	4.72	4.72	8.66	4.72	3.15	
第五・五分位(n=113)	33.63	42.48	49.56	13.27	2.65	7.96	9.73	3.54	0.88	
全体(n=651)	38.56	34.87	50.38	14.59	3.07	7.53	6.61	4.45	2.92	
	一時保育、一時預かり等一時的施設を利用する	インターナショナルスクール(幼児向け)を利用する	自身が在宅で保育をする(施設ではなく自宅等で保育する)	配偶者が在宅で保育をする(施設ではなく自宅等で保育する)	夫婦で在宅で保育をする(施設ではなく自宅等で保育する)	自身又は配偶者の両親(子の祖父母)が在宅で保育をする(施設ではなく自宅等で保育する)	その他	未定		
第一・五分位(n=123)	8.13	20.33	6.50	0.81	5.69	2.44	2.44	1.63		
第二・五分位(n=127)	5.51	15.75	7.09	0.00	3.94	1.57	3.94	3.15		
第三・五分位(n=161)	14.29	27.95	8.07	0.62	4.97	0.62	2.48	2.48		
第四・五分位(n=127)	11.02	21.26	7.09	0.00	1.57	1.57	2.36	0.00		
第五・五分位(n=113)	7.96	36.28	7.96	0.88	2.65	1.77	1.77	1.77		
全体(n=651)	9.68	24.27	7.37	0.46	3.84	1.54	2.61	1.84		

注：下線部は5％水準の有意確率(p.<0.05)。

（6）在宅保育を希望とする理由

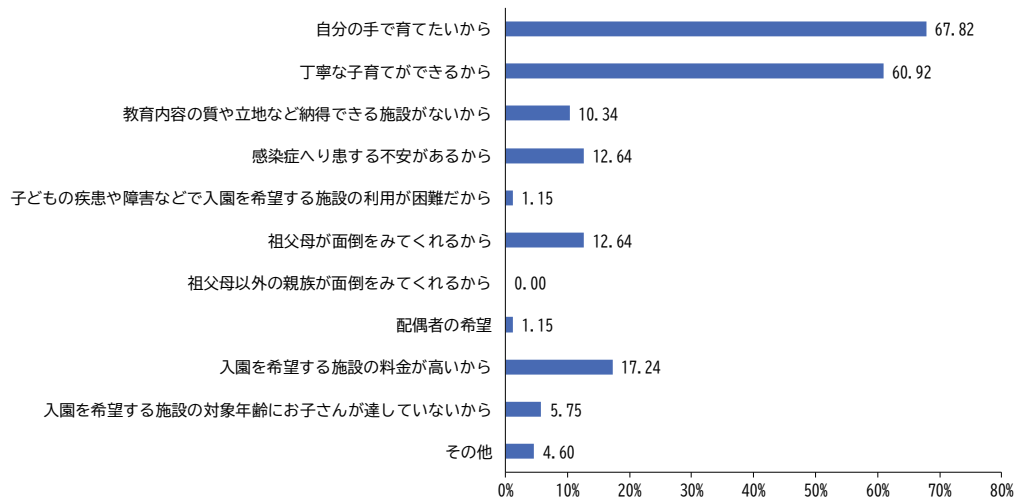
■単純集計

「自分の手で育てたいから」と「丁寧な子育てができるから」が6割以上

図表 3-128 は、在宅保育を希望とする理由の単純集計の結果である。本設問は、理想の子育て方法を「在宅保育」と回答した人を対象としている。

「自分の手で育てたいから」が67.82％と最大の値を示し、次いで「丁寧な子育てができるから」は60.92％、「入園を希望する施設の料金が安いから」は17.24％となっている。

図表 3-128 在宅保育を希望とする理由（n=87）



8 生活と働き方

（1）平日の生活時間

■単純集計

仕事に費やす時間は配偶者の方が長い割合が高く、家事と子育てに費やす時間は本人の方が長い割合が高い

図表 3-129 は、平日（過去1週間の生活時間の1日あたり平均）の単純集計の結果である。

「(イ) 仕事（収入を伴うもの）に費やす時間（通勤時間を除く）」について、本人をみると、「8 時間」が 18.34%と最大の値を示し、次いで「0 分（この項目は行っていない）」は 18.09%、「9 時間」は 11.74%となっている。配偶者をみると、「10 時間」が 20.58%と最大の値を示し、次いで「8 時間」は 18.21%、「9 時間」は 13.66%となっている。

「(ロ) 通勤時間に費やす時間」について、本人をみると、「30 分」が 33.74%と最大の値を示し、次いで「0 分（この項目は行っていない）」は 31.42%、「1 時間」は 22.25%となっている。配偶者をみると、「30 分」が 35.34%と最大の値を示し、次いで「1 時間」は 29.14%、「0 分（この項目は行っていない）」は 16.76%となっている。

「(ハ) 睡眠に費やす時間」について、本人をみると、「6 時間」が 25.43%と最大の値を示し、次いで「7 時間」は 23.96%、「8 時間」は 13.20%となっている。配偶者をみると、「6 時間」が 31.15%と最大の値を示し、次いで「7 時間」は 22.77%、「5 時間」は 12.93%となっている。

「(ニ) 家事（食事の準備・片付け、掃除、洗濯等）に費やす時間」について、本人をみると、「2 時間」が 24.21%と最大の値を示し、次いで「3 時間」は 18.09%、「1 時間」は 15.28%となっている。配偶者をみると、「30 分」が 33.52%と最大の値を示し、次いで「0 分（この項目は行っていない）」は 24.95%、「1 時間」は 18.21%となっている。

「(ホ) 子育て（授乳、食事、沐浴、保育園や学校等の送迎、見守り、遊び等、お子さんと一緒に過ごす時間）に費やす時間（睡眠時間を除く）」について、本人をみると、「0 分（この項目は行っていない）」が 46.94%と最大の値を示し、次いで「2 時間」は 8.56%、「3 時間」は 7.58%となっている。配偶者をみると、「0 分（この項目は行っていない）」が 39.53%と最大の値を示し、次いで「30 分」は 18.03%、「1 時間」は 15.66%となっている。

「(ヘ) ご家族（ご自身、ご自身の親、ご自身の兄弟姉妹、配偶者の親、ご自身の子等）の介護、看護、通院に費やす時間」について、本人をみると、「0 分（この項目は行っていない）」が 85.70%と最大の値を示し、次いで「30 分」は 5.38%、「1 時間」は 3.42%となっている。配偶者をみると、「0 分（この項目は行っていない）」が 91.26%と最大の値を示し、次いで「30 分」は 3.64%、「1 時間」は 2.00%となっている。

「(ト) 趣味・娯楽に費やす時間」について、本人をみると、「2 時間」が 23.59%と最大の値を示し、次いで「1 時間」は 22.74%、「30 分」は 13.69%となっている。配偶者をみると、「1 時間」が 25.32%と最大の値を示し、次いで「2 時間」は 22.77%、「30 分」は 12.02%となっている。

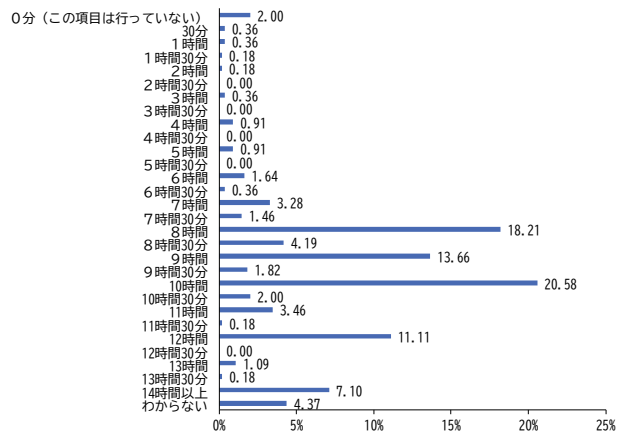
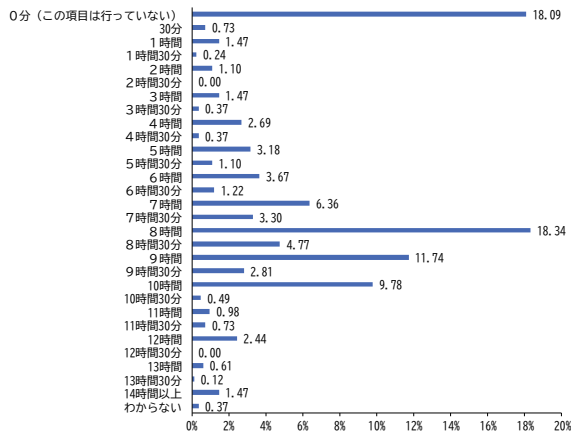
「(チ) ご家庭が民間の家事代行サービスを利用している時間（区からの委託事業で利用している時間も含む）」をみると、「0 分（この項目は行っていない）」が 92.89%と最大の値を示し、次いで「30 分」は 2.25%、「1 時間」は 1.18%となっている。

図表 3-129 平日の生活時間（SA）

（イ）仕事（収入を伴うもの）に費やす時間（通勤時間を除く）

本人（n=818）

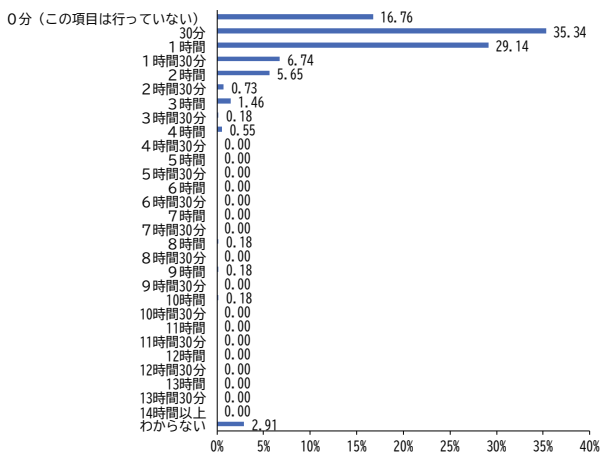
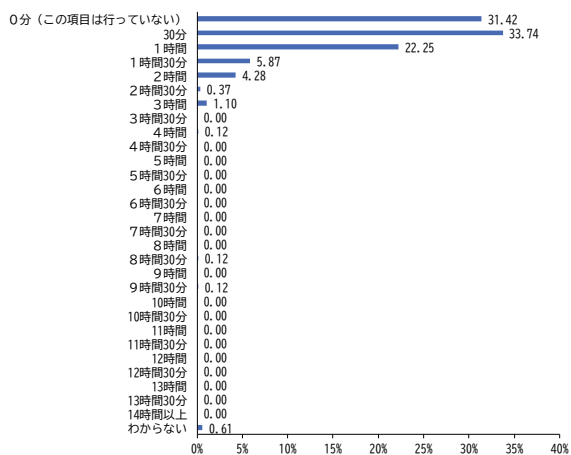
配偶者（n=549）



（ロ）通勤時間に費やす時間

本人（n=818）

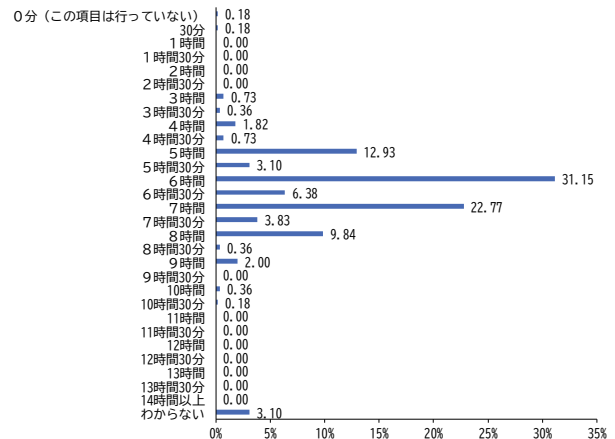
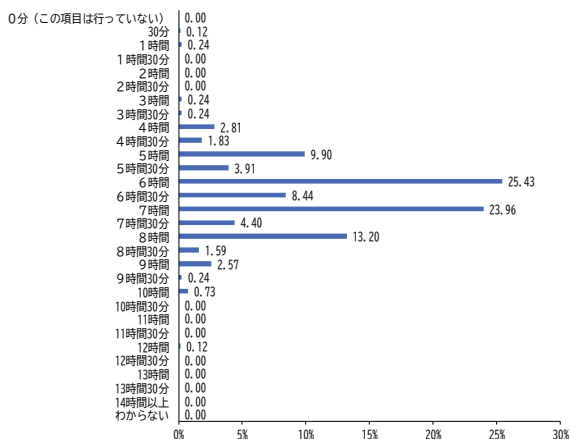
配偶者（n=549）



（ハ）睡眠に費やす時間

本人（n=818）

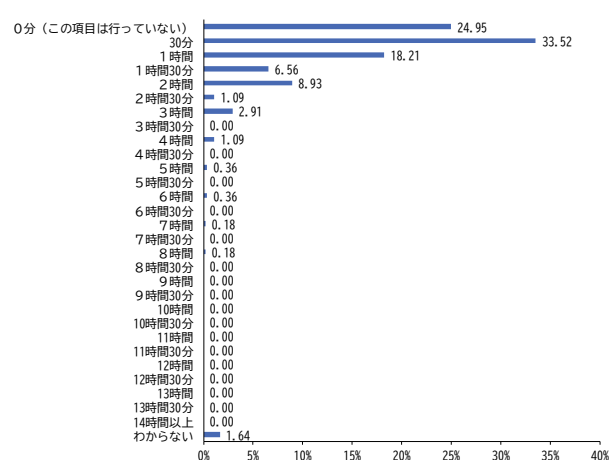
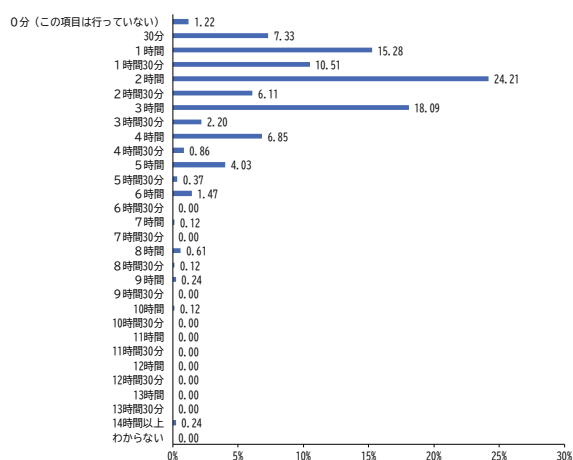
配偶者（n=549）



(二) 家事（食事の準備・片付け、掃除、洗濯等）に費やす時間

本人 (n=818)

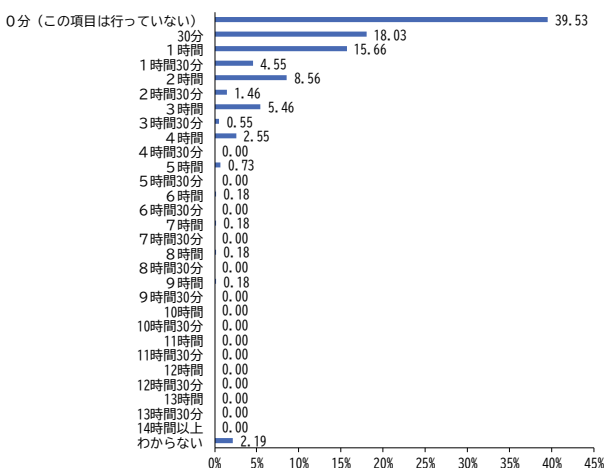
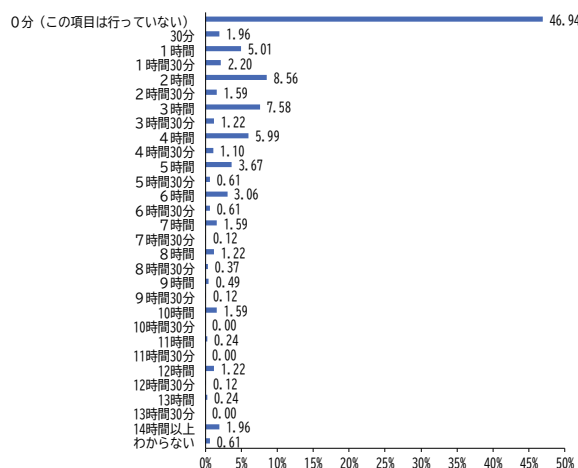
配偶者 (n=549)



(ホ) 子育て（授乳、食事、沐浴、保育園や学校等の送迎、見守り、遊び等、お子さんと一緒に過ごす時間）に費やす時間（睡眠時間を除く）

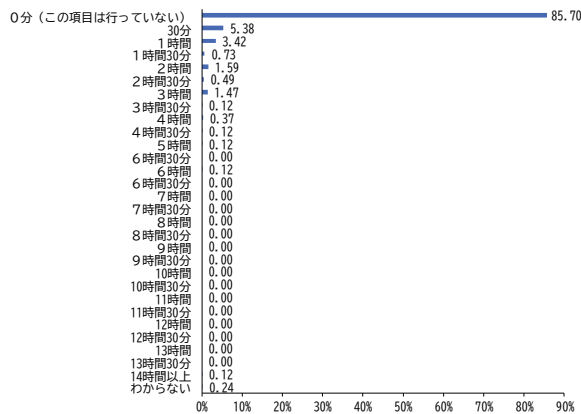
本人 (n=818)

配偶者 (n=549)

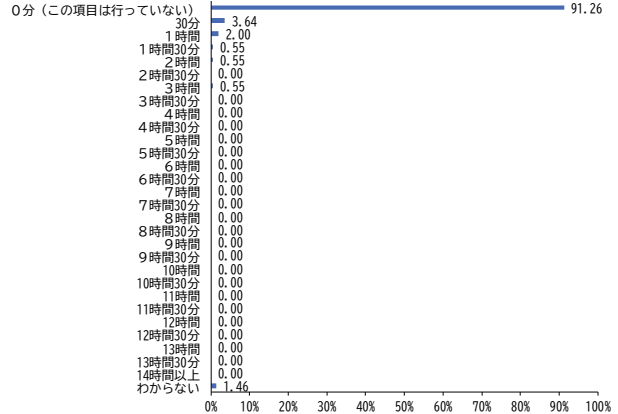


(ハ) ご家族（ご自身、ご自身の親、ご自身の兄弟姉妹、配偶者の親、ご自身の子等）の
介護、看護、通院に費やす時間

本人（n=818）

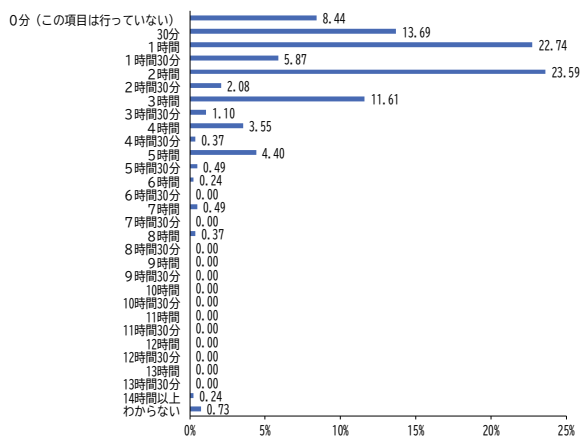


配偶者（n=549）

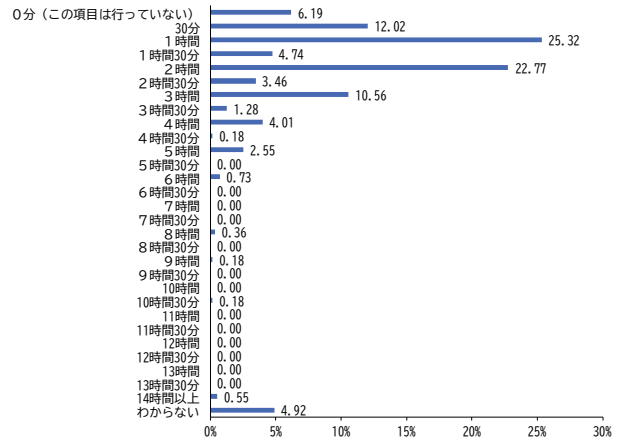


(ト) 趣味・娯楽に費やす時間

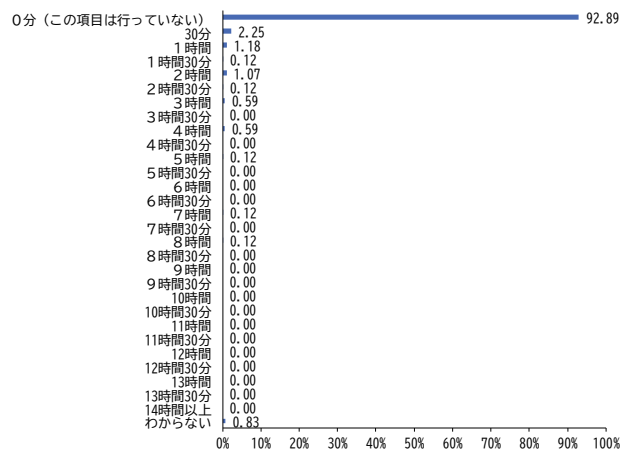
本人（n=818）



配偶者（n=549）



(チ) ご家庭が民間の家事代行サービスを利用している時間（区からの委託事業で利用している時間も含む）（n=844）



■クロス集計

ア 年齢

本人が「仕事」「睡眠」「趣味・娯楽」に費やす時間は20歳代が長い傾向にあり、本人が「家事」に費やす時間は若いほど短い

図表3-130は、年齢と平日の生活時間のクロス集計の結果であり、「仕事（収入に伴うもの）」に費やす時間（通勤時間を除く）「睡眠に費やす時間」「家事（食事の準備・片付け、掃除、洗濯等）に費やす時間」「ご家族（ご自身、ご自身の親、ご自身の兄弟姉妹、配偶者の親、ご自身の子等）の介護、看護、通院に費やす時間」は本人のみで、「子育て（授乳、食事、沐浴、保育園や学校等の送迎、見守り、遊び等、お子さんと一緒に過ごす時間）」「趣味・娯楽に費やす時間」は本人と配偶者で有意な差が示されている。

「(イ) 仕事（収入に伴うもの）に費やす時間（通勤時間を除く）」について、本人の「8時間30分～9時間30分」と「10時間以上」を合計した割合をみると、「20-29歳」が50.00%（29.10+20.90）と最大の値を示し、次いで「40-44歳」は36.42%（19.65+16.76）、「30-34歳」は35.17%（17.93+17.24）、「35-39歳」は34.67%（15.58+19.10）、「45-50歳」は26.83%（17.07+9.76）となっている。

「(ロ) 睡眠に費やす時間」について、本人の「0分～5時間30分」と回答した割合をみると、「45-50歳」が23.64%と最大の値を示し、次いで「35-39歳」は22.61%、「40-44歳」は21.26%、「30-34歳」は17.81%、「20-29歳」は8.21%となっている。

「(ハ) 家事（食事の準備・片付け、掃除、洗濯等）に費やす時間」について、本人の「0分～1時間」と回答した割合をみると、「20-29歳」は41.79%と最大の値を示し、次いで「30-34歳」は30.14%、「35-39歳」は21.61%、「40-44歳」は20.11%、「45-50歳」は10.30%となっている。

「(ニ) 子育て（授乳、食事、沐浴、保育園や学校等の送迎、見守り、遊び等、お子さんと一緒に過ごす時間）に費やす時間（睡眠時間を除く）」について、本人の「0分」と回答した割合をみると、「20-29歳」が90.91%と最大の値を示し、次いで「30-34歳」は57.93%、「40-44歳」は34.48%、「35-39歳」は33.84%、「45-50歳」は32.32%となっている。配偶者の「0分」と回答した割合をみると、「20-29歳」が70.00%と最大の値を示し、次いで「30-34歳」は52.29%、「45-50歳」は45.97%、「40-44歳」は37.01%、「35-39歳」は20.44%となっている。

「(ホ) ご家族（ご自身、ご自身の親、ご自身の兄弟姉妹、配偶者の親、ご自身の子等）の介護、看護、通院に費やす時間」について、本人の「30分以上」と回答した割合をみると、「40-44歳」が18.97%と最大の値を示し、次いで「45-50歳」は18.90%、「35-39歳」は14.14%、「30-34歳」は12.33%、「20-29歳」は3.73%となっている。

「(ヘ) 趣味・娯楽に費やす時間」について、本人の「2時間30分以上」と回答した割合をみると、「20-29歳」が37.59%と最大の値を示し、次いで「30-34歳」は27.08%、「35-39歳」は23.12%、「45-50歳」は21.60%、「40-44歳」は19.54%となっている。配偶者の「2時間30分以上」と回答した割合をみると、「20-29歳」が42.50%と最大の値を示し、次いで「40-44歳」は29.75%、「30-34歳」は29.63%、「45-50歳」は19.33%、「35-39歳」は17.91%となっている。

II

区民女性の出生行動の動態—行政記録を用いて作成した独自の生コホート統計に基づく考察

III

区民女性を対象とした調査の基礎集計

IV

区内で保育・教育サービスを提供している事業所を対象とした調査の基礎集計

V

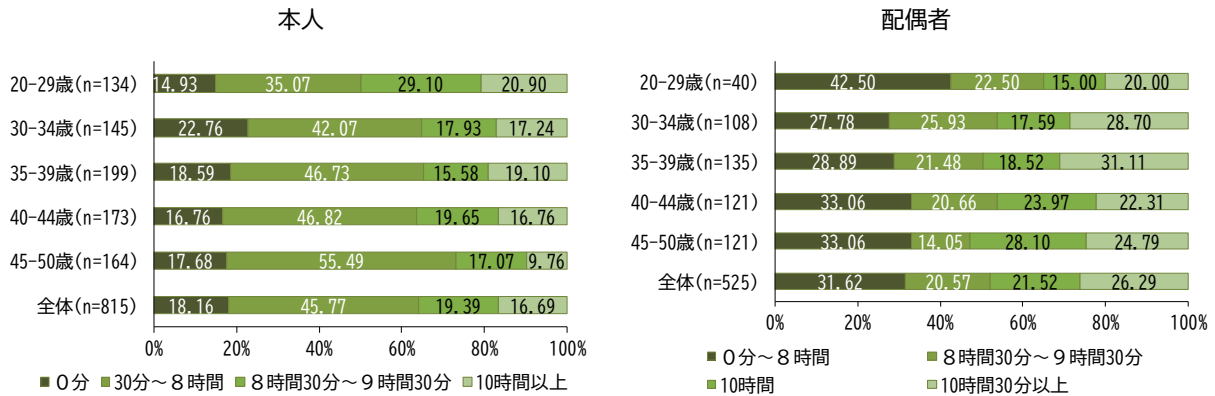
理想子ども数と予定子ども数の関連要因の検討

VI

港区内の事業所が提供する保育・教育サービスの質

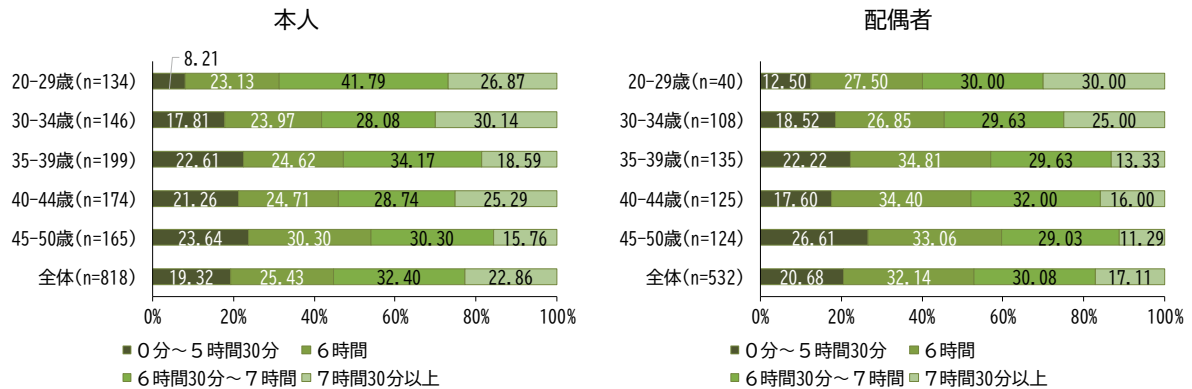
図表 3-130 年齢別平日の生活時間

(イ) 仕事（収入を伴うもの）に費やす時間（通勤時間を除く）



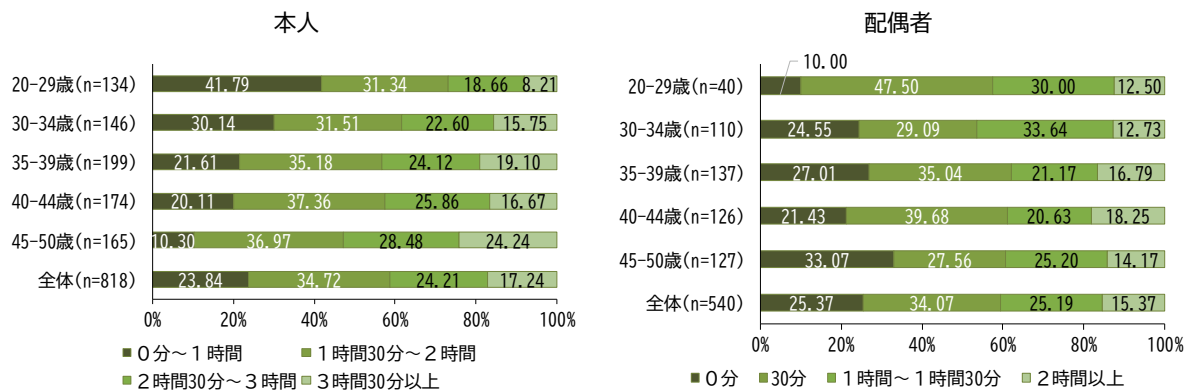
注：本人のみ有意であるが、参考に、配偶者の結果も示している。

(ロ) 睡眠に費やす時間



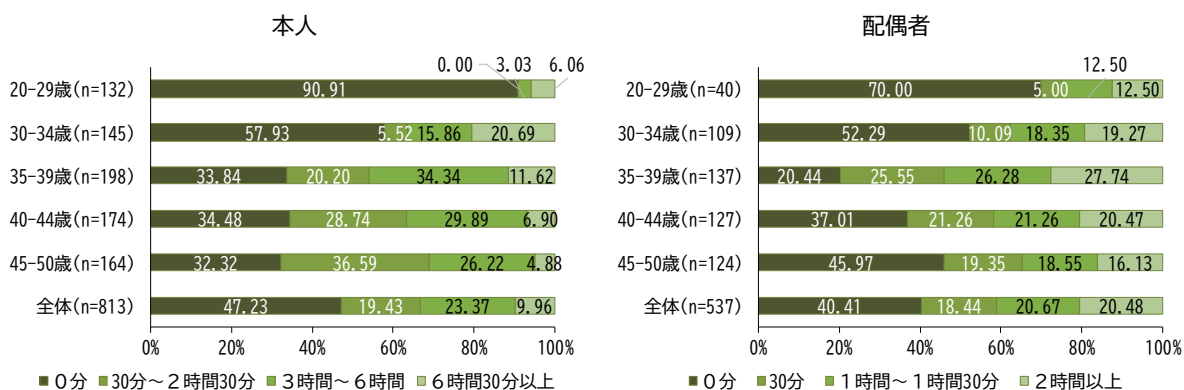
注：本人のみ有意であるが、参考に、配偶者の結果も示している。

(ハ) 家事（食事の準備・片付け、掃除、洗濯等）に費やす時間

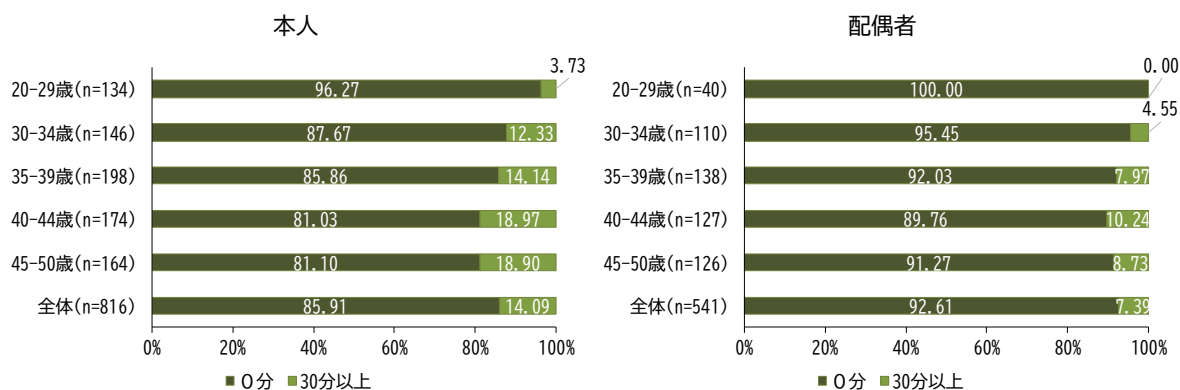


注：本人のみ有意であるが、参考に、配偶者の結果も示している。

(二) 子育て（授乳、食事、沐浴、保育園や学校等の送迎、見守り、遊び等、お子さんと一緒に過ごす時間）に費やす時間（睡眠時間を除く）

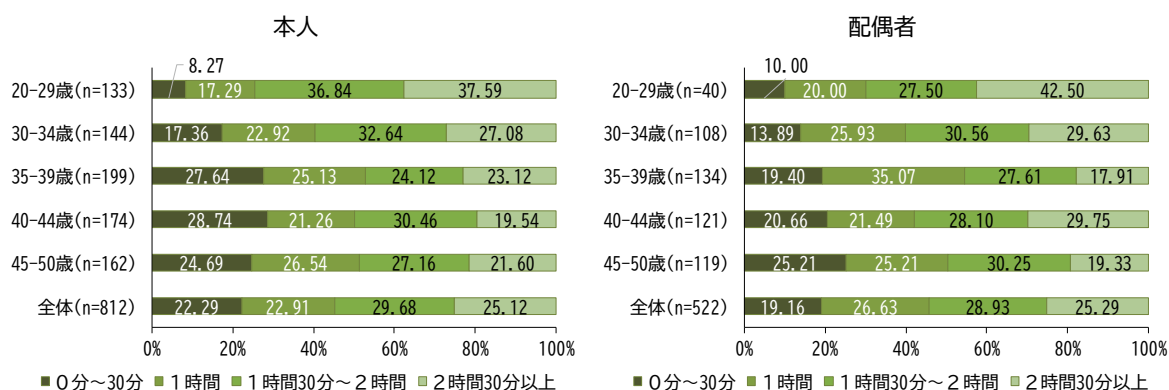


(ホ) ご家族（ご自身、ご自身の親、ご自身の兄弟姉妹、配偶者の親、ご自身の子等）の介護、看護、通院に費やす時間



注：本人のみ有意であるが、参考に、配偶者の結果も示している。

(ハ) 趣味・娯楽に費やす時間



イ 居住地区

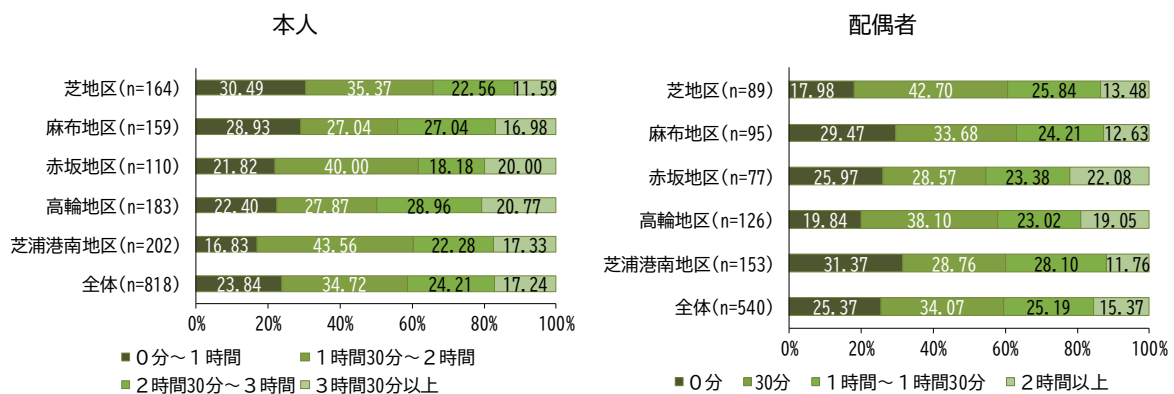
本人が「家事」に費やす時間は「高輪地区」で長い割合が高く、本人が「子育て」に費やす時間は「芝浦港南地区」で長い割合が高い

図表3-131は、居住地区と平日の生活時間のクロス集計の結果であり、本人のみ「家事（食事の準備・片付け、掃除、洗濯等）に費やす時間」「子育て（授乳、食事、沐浴、保育園や学校等の送迎、見守り、遊び等、お子さんと一緒に過ごす時間）に費やす時間（睡眠時間を除く）」で有意な差が示されている。

「(イ) 家事（食事の準備・片付け、掃除、洗濯等）に費やす時間」について、本人の「3時間30分以上」と回答した割合をみると、「高輪地区」が20.77%と最大の値を示し、次いで「赤坂地区」は20.00%、「芝浦港南地区」は17.33%、「麻布地区」は16.98%、「芝地区」は11.59%となっている。

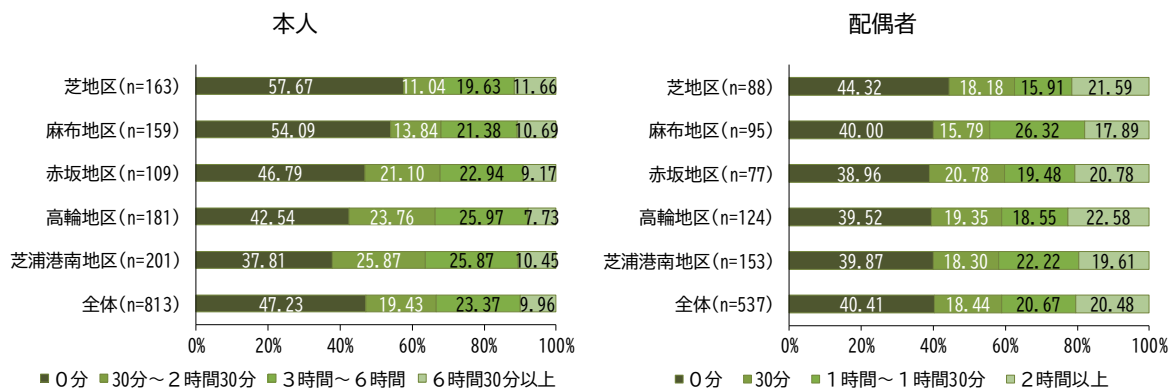
「(ロ) 子育て（授乳、食事、沐浴、保育園や学校等の送迎、見守り、遊び等、お子さんと一緒に過ごす時間）に費やす時間（睡眠時間を除く）」について、本人の「6時間30分以上」と回答した割合をみると、「芝地区」が11.66%と最大の値を示し、次いで「麻布地区」は10.69%、「芝浦港南地区」は10.45%、「赤坂地区」は9.17%、「高輪地区」は7.73%となっている。

図表3-131 居住地区別平日の生活時間
(イ) 家事（食事の準備・片付け、掃除、洗濯等）に費やす時間



注：本人のみ有意であるが、参考に、配偶者の結果も示している。

(ロ) 子育て（授乳、食事、沐浴、保育園や学校等の送迎、見守り、遊び等、お子さんと一緒に過ごす時間）に費やす時間（睡眠時間を除く）



注：本人のみ有意であるが、参考に、配偶者の結果も示している。

ウ 世帯類型

- ・本人が「仕事」に費やす時間は子どもと同居していない人で長い割合が高く、「睡眠」に費やす時間は本人・配偶者ともに既婚で子どもと同居していない人で長い割合が高い
- ・本人が「家事」に費やす時間は子どもと同居している人で長い割合が高く、「子育て」に費やす時間は本人・配偶者ともに末子が6-17歳の世帯よりも6歳未満の人の方が長い割合が高い

図表3-132は、世帯類型と平日の生活時間のクロス集計の結果であり、「仕事（収入に伴うもの）に費やす時間（通勤時間を除く）」「通勤時間に費やす時間」「ご家族（ご自身、ご自身の親、ご自身の兄弟姉妹、配偶者の親、ご自身の子等）の介護、看護、通院に費やす時間」は本人のみで、「睡眠に費やす時間」「家事（食事の準備・片付け、掃除、洗濯等）に費やす時間」「子育て（授乳、食事、沐浴、保育園や学校等の送迎、見守り、遊び等、お子さんと一緒に過ごす時間）に費やす時間（睡眠時間を除く）」「趣味・娯楽に費やす時間」は本人と配偶者で有意な差が示されている。さらに、「ご家庭が民間の家事代行サービスを利用している時間（区からの委託事業で利用している時間も含む）」でも有意な差が示されている。

「(イ) 仕事（収入に伴うもの）に費やす時間（通勤時間を除く）」について、本人の「10時間以上」と回答した割合をみると、「未婚・子なし」が26.75%と最大の値を示し、次いで「既婚・子なし」は22.22%、「未婚・子あり」は18.75%、「既婚・末子6-17歳」は11.46%、「既婚・末子6歳未満」は6.61%となっている。

「(ロ) 通勤時間に費やす時間」について、本人の「1時間30分以上」と回答した割合をみると、「未婚・子あり」が18.75%と最大の値を示し、次いで「既婚・子なし」は14.18%、「既婚・末子6-17歳」は12.74%、「既婚・末子6歳未満」は12.03%、「未婚・子なし」は9.88%となっている。

「(ハ) 睡眠に費やす時間」について、本人の「7時間30分以上」と回答した割合をみると、「既婚・子なし」が38.24%と最大の値を示し、次いで「未婚・子あり」は28.13%、「既婚・末子6歳未満」は20.66%、「未婚・子なし」は19.67%、「既婚・末子6-17歳」は16.46%となっている。配偶者の「7時間30分以上」と回答した割合をみると、「既婚・子なし」が25.18%と最大の値を示し、次いで「既婚・末子6-17歳」は16.56%、「既婚・末子6歳未満」は13.14%となっている。

「(ニ) 家事（食事の準備・片付け、掃除、洗濯等）に費やす時間」について、本人の「3時間30分以上」と回答した割合をみると、「既婚・末子6-17歳」が31.01%と最大の値を示し、次いで「既婚・末子6歳未満」は23.97%、「未婚・子あり」は21.88%、「既婚・子なし」は11.03%、「未婚・子なし」は4.10%となっている。配偶者の「2時間以上」と回答した割合をみると、「既婚・末子6歳未満」が21.76%、「既婚・子なし」は12.23%、「既婚・末子6-17歳」は8.97%となっている。

「(ホ) 子育て（授乳、食事、沐浴、保育園や学校等の送迎、見守り、遊び等、お子さんと一緒に過ごす時間）に費やす時間（睡眠時間を除く）」について、本人の「6時間30分以上」と回答した割合をみると、「既婚・末子6歳未満」が27.39%と最大の値を示し、次いで「既婚・末子6-17歳」は7.59%、「未婚・子あり」は6.25%、「未婚・子なし」と「既婚・子なし」は0%となっている。配偶者の「2時間以上」と回答した割合をみると、「既婚・末子6歳未満」が37.82%と最大の値を示し、次いで「既婚・末子6-17歳」は12.90%、「既婚・子なし」は0%となっている。

「(ヘ) ご家族（ご自身、ご自身の親、ご自身の兄弟姉妹、配偶者の親、ご自身の子等）の介護、看護、通院に費やす時間」について、本人の「30分以上」と回答した割合をみると、「未婚・子あ

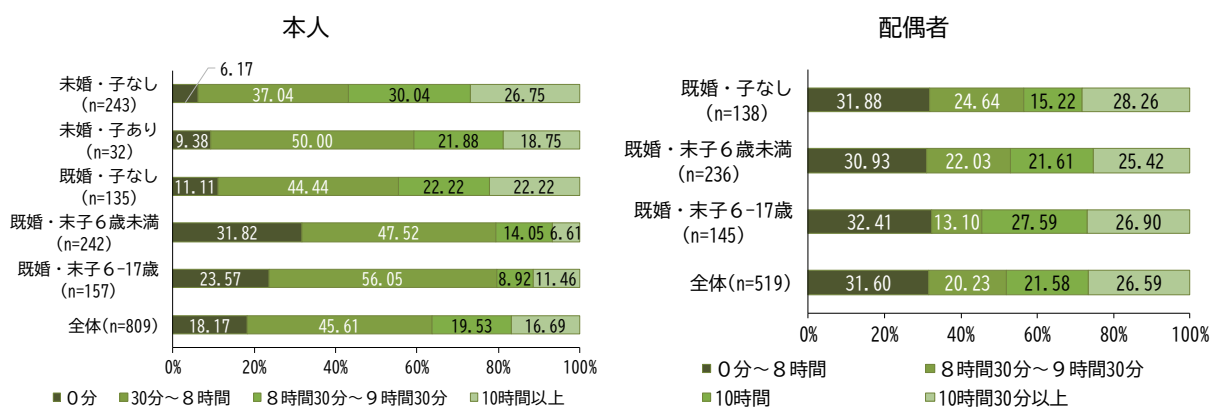
り」が25.00%と最大の値を示し、次いで「既婚・末子6-17歳」は20.89%、「既婚・末子6歳未満」は13.64%、「未婚・子なし」は11.11%、「既婚・子なし」は10.37%となっている。

「(ト)趣味・娯楽に費やす時間」について、本人の「2時間30分以上」と回答した割合をみると、「未婚・子なし」が41.84%と最大の値を示し、次いで「既婚・子なし」は34.07%、「既婚・末子6歳未満」は13.64%、「既婚・末子6-17歳」は13.29%、「未婚・子あり」は9.38%となっている。配偶者の「2時間30分以上」と回答した割合をみると、「既婚・子なし」が36.96%と最大の値を示し、次いで「既婚・末子6歳未満」は21.37%、「既婚・末子6-17歳」は20.83%となっている。

「(チ)ご家庭が民間の家事代行サービスを利用している時間(区からの委託事業で利用している時間も含む)」について、「30分以上」と回答した割合をみると、「既婚・末子6歳未満」が13.28%と最大の値を示し、次いで「未婚・子あり」は12.50%、「既婚・末子6-17歳」は7.50%、「既婚・子なし」は2.14%、「未婚・子なし」は0.78%となっている。

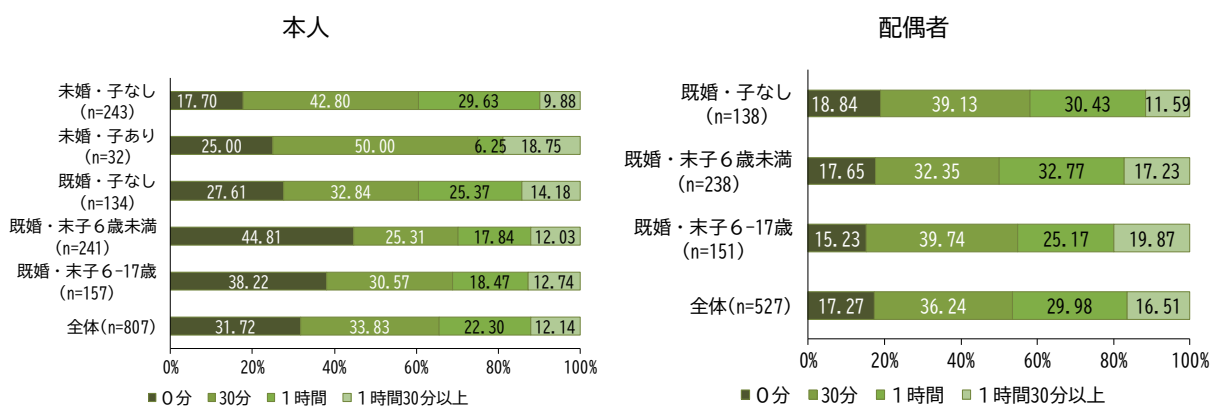
図表 3-132 世帯類型別平日の生活時間

(イ) 仕事(収入を伴うもの)に費やす時間(通勤時間を除く)



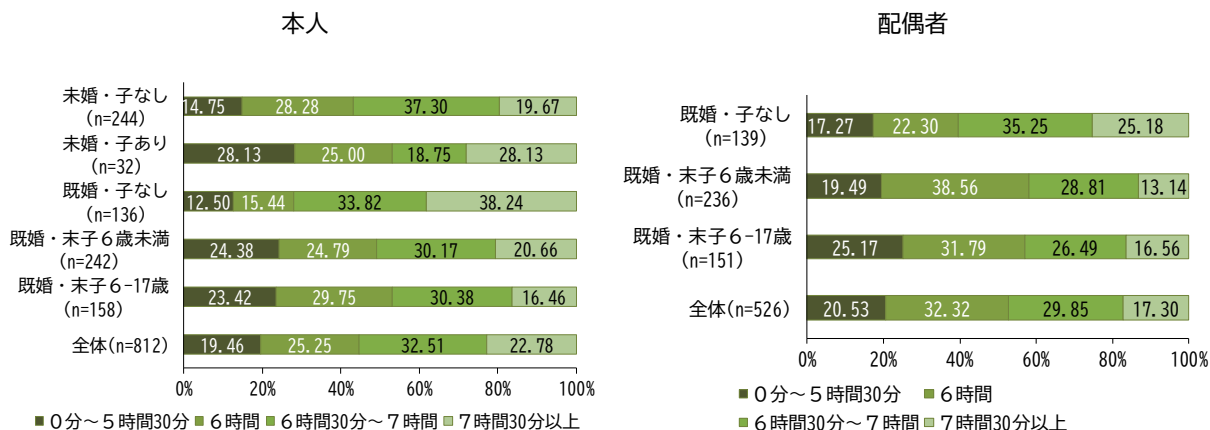
注：本人のみ有意であるが、参考に、配偶者の結果も示している。

(ロ) 通勤時間に費やす時間

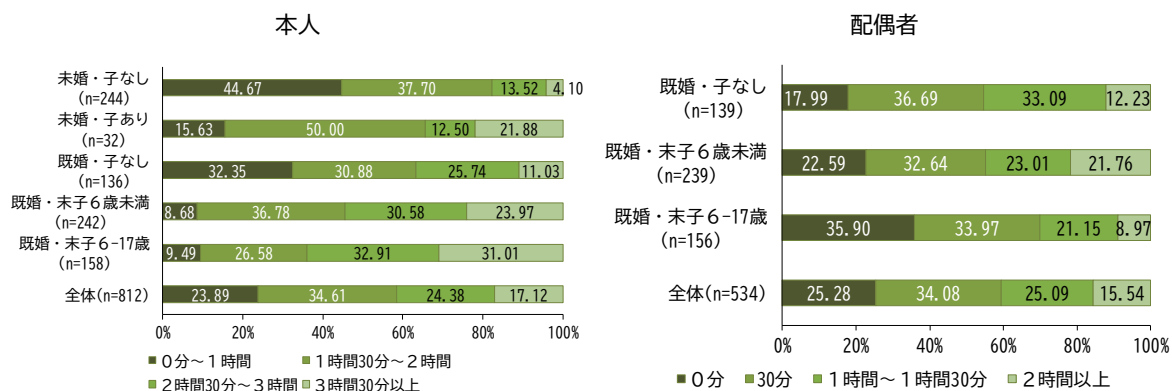


注：本人のみ有意であるが、参考に、配偶者の結果も示している。

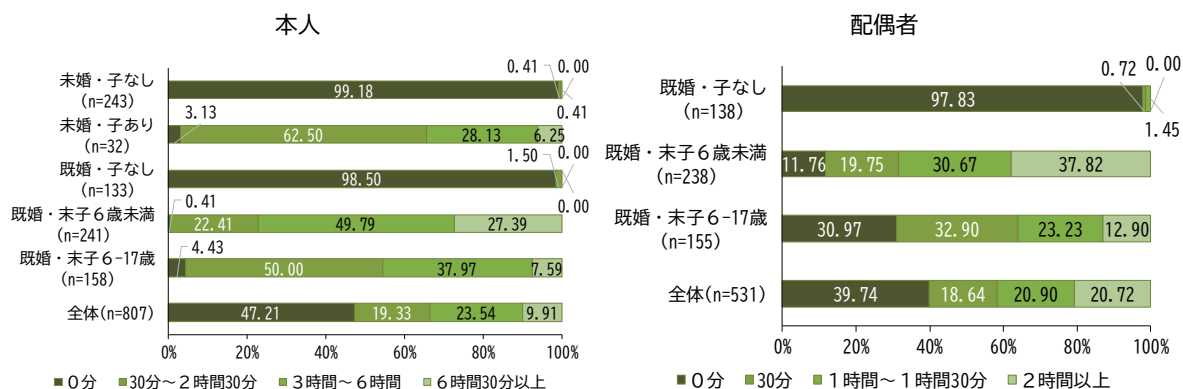
(ハ) 睡眠に費やす時間



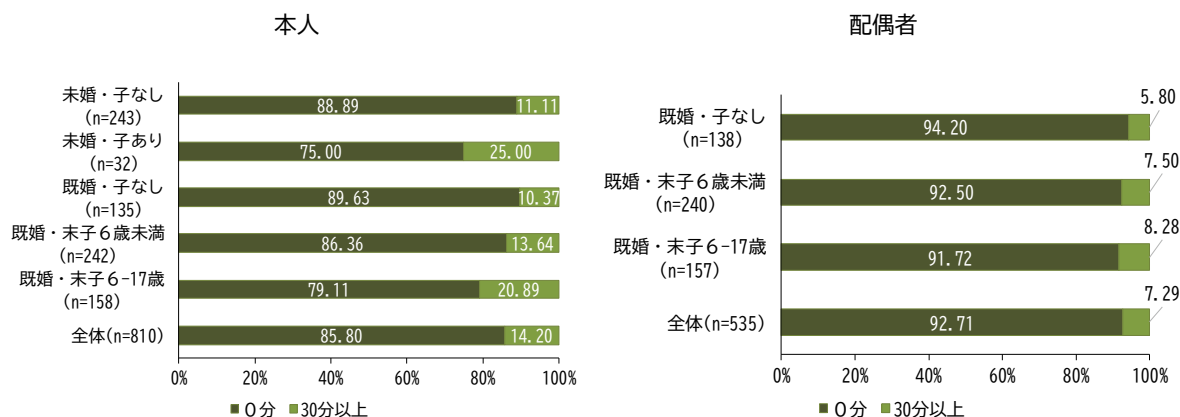
(ニ) 家事（食事の準備・片付け、掃除、洗濯等）に費やす時間



(ホ) 子育て（授乳、食事、沐浴、保育園や学校等の送迎、見守り、遊び等、お子さんと一緒に過ごす時間）に費やす時間（睡眠時間を除く）

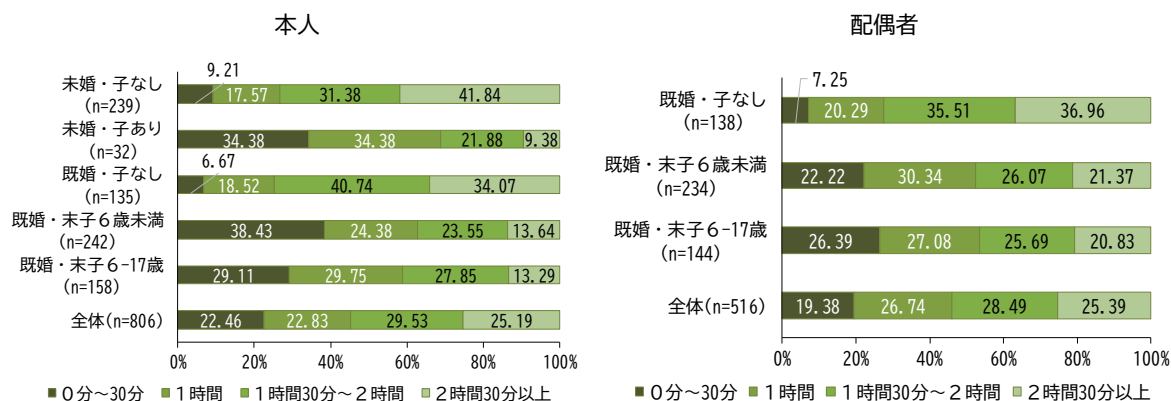


(ハ) ご家族(ご自身、ご自身の親、ご自身の兄弟姉妹、配偶者の親、ご自身の子等)の介護、看護、通院に費やす時間

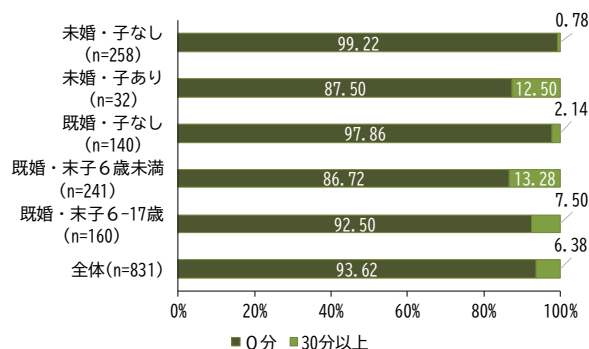


注：本人のみ有意であるが、参考に、配偶者の結果も示している。

(ト) 趣味・娯楽に費やす時間



(チ) ご家庭が民間の家事代行サービスを利用している時間(区からの委託事業で利用している時間も含む)



エ 世帯所得

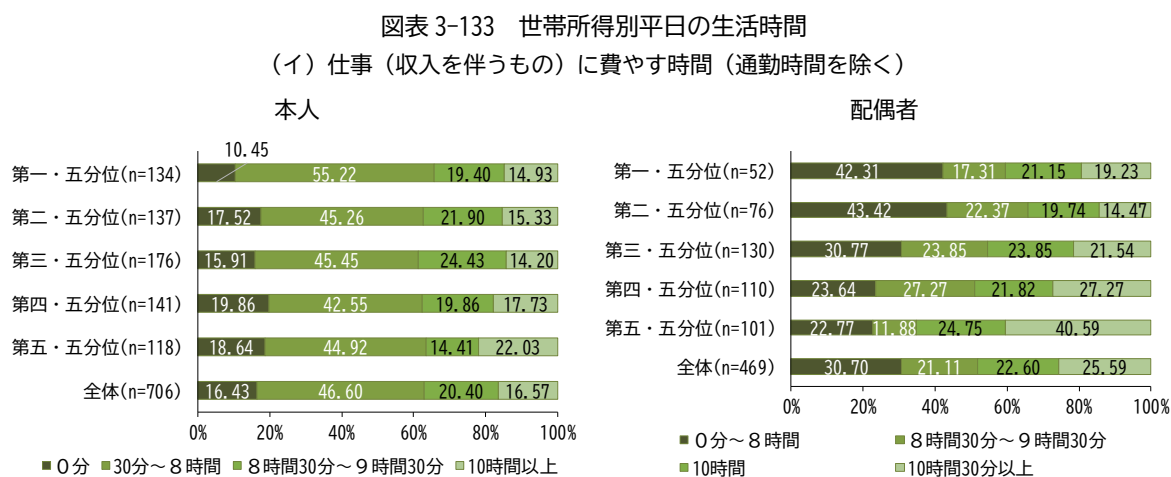
世帯所得が高いほど、「配偶者が仕事に費やす時間」と「家庭が民間の家事代行サービスを利用している時間」が長い割合が高い

図表3-133は、世帯所得と平日の生活時間のクロス集計の結果であり、「仕事（収入に伴うもの）に費やす時間（通勤時間を除く）」「子育て（授乳、食事、沐浴、保育園や学校等の送迎、見守り、遊び等、お子さんと一緒に過ごす時間）」は配偶者のみで有意な差が示されており、加えて「ご家庭が民間の家事代行サービスを利用している時間（区からの委託事業で利用している時間も含む）」で有意な差が示されている。

「(イ) 仕事（収入を伴うもの）に費やす時間（通勤時間を除く）」について、配偶者の「10 時間 30 分以上」と回答した割合をみると、「第五・五分位」が 40.59%と最大の値を示し、次いで「第四・五分位」は 27.27%、「第三・五分位」は 21.54%、「第一・五分位」は 19.23%、「第二・五分位」は 14.47%となっている。

「(ロ) 子育て（授乳、食事、沐浴、保育園や学校等の送迎、見守り、遊び等、お子さんと一緒に過ごす時間）に費やす時間（睡眠時間を除く）」について、配偶者の「2 時間以上」と回答した割合をみると、「第一・五分位」が 33.96%と最大の値を示し、次いで「第三・五分位」は 21.80%、「第五・五分位」は 20.39%、「第四・五分位」は 18.02%、「第二・五分位」は 17.11%となっている。

「(ハ) ご家庭が民間の家事代行サービスを利用している時間（区からの委託事業で利用している時間も含む）」について、「30 分以上」と回答した割合をみると、「第五・五分位」が 13.45%と最大の値を示し、次いで「第四・五分位」は 6.99%、「第三・五分位」は 6.15%、「第一・五分位」は 3.60%、「第二・五分位」は 1.45%となっている。



注：配偶者のみ有意であるが、参考に、本人の結果も示している。

II

区民女性の出生行動の動態
行政記録を用いて
作成した独自の生コスト統計に基づく考察

III

区民女性を対象とした調査の
基礎集計

IV

区内で保育・教育サービスを提供している
事業所を対象とした調査の基礎集計

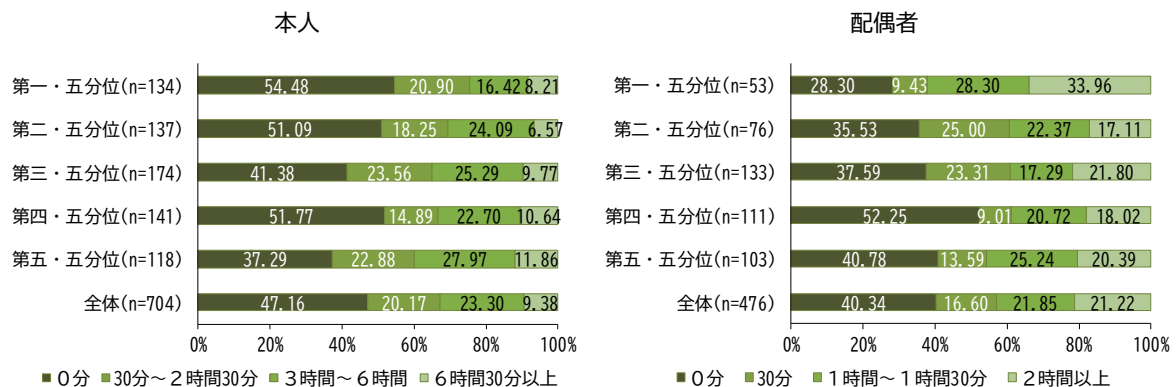
V

理想子ども数と予定子ども数
の関連要因の検討

VI

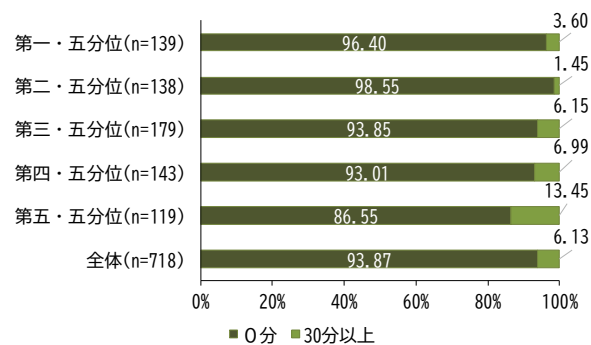
港区内の事業所が提供する保育・
教育サービスの質

(ロ) 子育て（授乳、食事、沐浴、保育園や学校等の送迎、見守り、遊び等、お子さんと一緒に過ごす時間）に費やす時間（睡眠時間を除く）



注：配偶者のみ有意であるが、参考に、本人の結果も示している。

(ハ) ご家庭が民間の家事代行サービスを利用している時間（区からの委託事業で利用している時間も含む）



(2) 勤め先の所在地

■ 単純集計

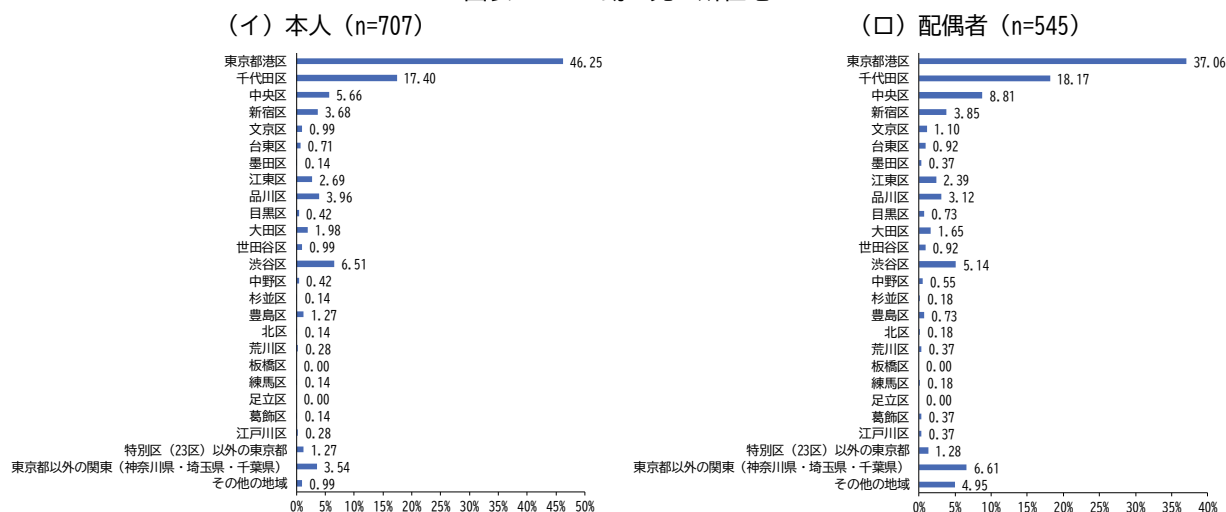
- ・ 本人の勤め先は「港区」が約半数を占めている
- ・ 配偶者の勤め先は「都心3区（港区・千代田区・中央区）」で6割以上

図表3-134は、勤め先の所在地の単純集計の結果である。

「(イ) 本人」をみると、「東京都港区」が46.25%と最大の値を示し、次いで「千代田区」は17.40%、「渋谷区」は6.51%となっている。

「(ロ) 配偶者」をみると、「東京都港区」が37.06%と最大の値を示し、次いで「千代田区」は18.17%、「中央区」は8.81%となっている。

図表 3-134 勤め先の所在地



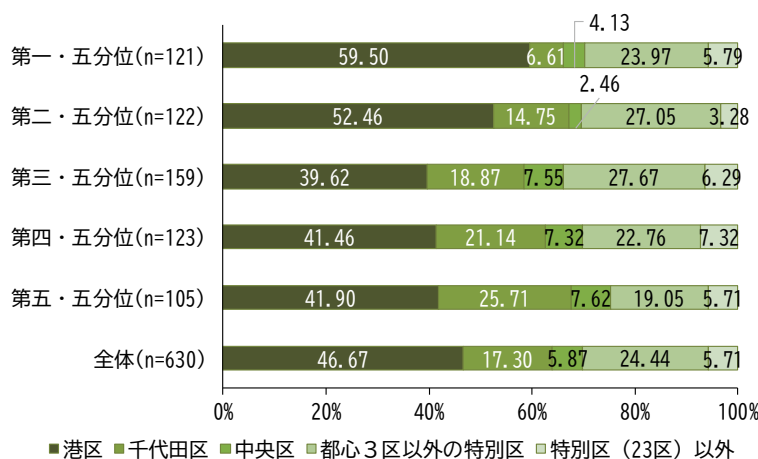
■クロス集計

低所得者層の方が「港区」を勤め先とする割合が高い

図表 3-135 は、世帯所得と勤め先の所在地のクロス集計の結果である。

「港区」をみると、「第一・五分位」が 59.50%と最大の値を示し、次いで「第二・五分位」は 52.46%、「第五・五分位」は 41.90%、「第四・五分位」は 41.46%、「第三・五分位」は 39.62%となっている。

図表 3-135 世帯所得別勤め先の所在地 (本人)



(3) 出社及び在宅勤務・テレワークの頻度 (現在 (2023 年 6 月末時点))

■単純集計

- ・ 出社頻度は本人、配偶者ともに、「週 5 日以上」と回答した割合が最も高く、在宅勤務・テレワークは本人、配偶者ともに、「全くない」と回答した割合が最も高い
- ・ 一方で、在宅勤務、テレワークの頻度は、週に 1 日以上の人割合が本人で約 4 割、配偶者で約 5 割